

DCニッセイバランスアクティブ

愛称：年年歳歳（確定拠出年金）

追加型投信／内外／資産複合

課税上は株式投資信託として取扱われます。

- ◆本書は金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第13条の規定に基づき作成され、投資者の請求により交付される目論見書（請求目論見書）です。
- ◆「DCニッセイバランスアクティブ」は、主に国内外の株式および債券を投資対象としますので、組入株式の株価の下落、組入株式の発行会社の倒産または財務状況の悪化等の影響により、もしくは金利変動等による組入債券の価格の下落、組入債券の発行体の倒産または財務状況の悪化等の影響により、ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、これらに加え、為替の変動により損失を被ることがあります。
- ◆本書により行う当ファンドの受益権の募集については、委託会社は、金融商品取引法第5条の規定により有価証券届出書を2023年12月20日に関東財務局長に提出しており、2023年12月21日にその届出の効力が生じております。

発行者名	ニッセイアセットマネジメント株式会社
代表者の役職氏名	代表取締役社長 大関 洋
本店の所在の場所	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号
有価証券届出書の写しを縦覧に供する場所	該当事項はありません。

目 次

第一部【証券情報】	1
第二部【ファンド情報】	3
第1【ファンドの状況】	3
第2【管理及び運営】	44
第3【ファンドの経理状況】	49
第4【内国投資信託受益証券事務の概要】	91
第三部【委託会社等の情報】	92
第1【委託会社等の概況】	92
約款	巻末

第一部【証券情報】

(1) 【ファンドの名称】

DCニッセイバランスアクティブ

上記ファンドの愛称として「年年歳歳（確定拠出年金）」ということがあります。

（以下「ファンド」または「ベビーファンド」ということがあります）

(2) 【内国投資信託受益証券の形態等】

① 契約型の追加型証券投資信託振替受益権です。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後記「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、「振替機関等」といいます）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます）。委託会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

② 委託会社（ニッセイアセットマネジメント株式会社）の依頼により信用格付業者から提供されもしくは閲覧に供された信用格付、または信用格付業者から提供されもしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

(3) 【発行（売出）価額の総額】

1兆円を上限とします。

(4) 【発行（売出）価格】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額です。基準価額は日々変動します。なお、便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

基準価額につきましては、販売会社または委託会社にお問合せください。また、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

なお、委託会社へは後記「(8) 申込取扱場所」の照会先にお問合せください。

(5) 【申込手数料】

ありません。

(6) 【申込単位】

1円以上1円単位とします。

(7) 【申込期間】

継続申込期間：2023年12月21日から2024年6月20日まで

○ 継続申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

(8) 【申込取扱場所】

申込取扱場所につきましては、以下にお問合せください。

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

(9:00～17:00 土日祝日・年末年始を除く)

(9) 【払込期日】

取得申込者は、各販売会社が定める期日（詳しくは販売会社にお問合せください）までに、申込代金を各販売会社に支払うものとします。

各取得申込日の発行価額の総額は、追加信託が行われる日に各々の販売会社より、委託会社の指定する口座を経由して、追加信託金として受託会社の指定するファンド口座（受託会社が再信託している場合は、当該再信託受託会社の指定するファンド口座）に払込まれます。

(10) 【払込取扱場所】

払込取扱場所は申込取扱場所と同じです。以下にお問合せください。

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

(9:00～17:00 土日祝日・年末年始を除く)

(11) 【振替機関に関する事項】

振替機関は下記の通りです。

株式会社証券保管振替機構

(12) 【その他】

当ファンドは確定拠出年金法（平成13年法律第88号）に基づく確定拠出年金制度向けのファンドであり、受益権の取得申込みの勧誘は、資産管理機関および国民年金基金連合会（国民年金基金連合会が委託する事務委託先金融機関も含みます）に対してのみ行われます。

ただし、委託会社または販売会社が取得する場合はこの限りではありません。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

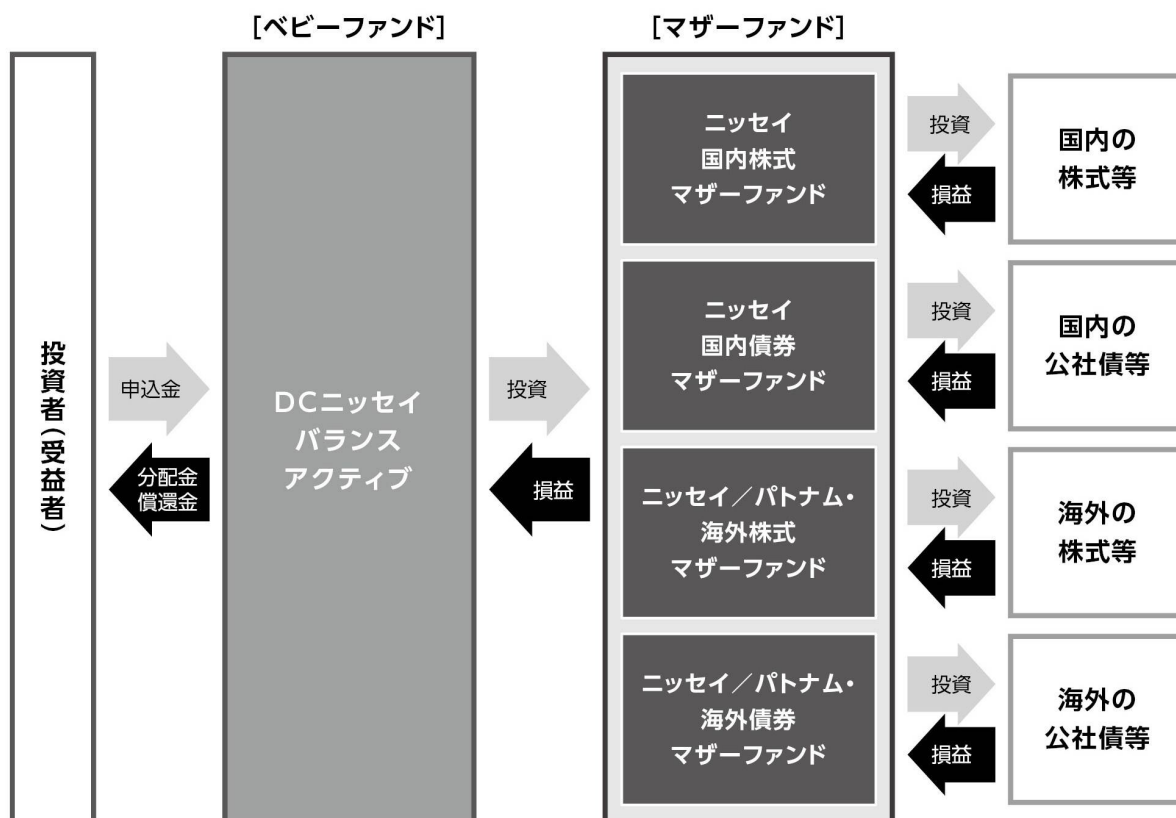
① 基本方針

ファンドは、確定拠出年金法（平成13年法律第88号）に基づく確定拠出年金制度向けのファンドとして、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行うことを基本方針とします。

② ファンドの特色

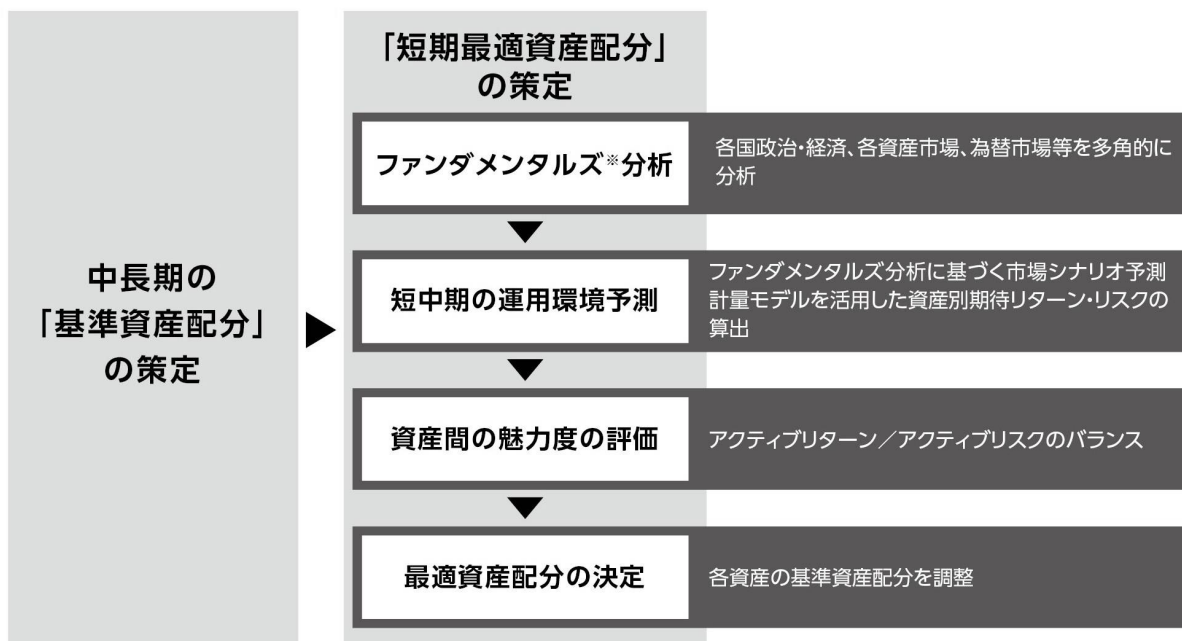
◆マザーファンドへの投資を通じて、日本を含む世界各国の株式および公社債に分散投資を行います。

・ファンドは「ファミリーファンド方式」で運用を行います。ファミリーファンド方式とは、投資者からの資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資して、その実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。



❗ マザーファンドに投資する他のベビーファンドの追加設定・解約等にもとれない、ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。

- ◆運用収益の追求と安定を図るため、中長期的な資産配分方針として「基準資産配分」を設定し、その「基準資産配分」を中心に市場環境の変化等に応じて配分比を機動的に変動させる「短期最適資産配分」戦略を行うことにより、資産配分によるリスクをコントロールしつつ付加価値の向上を図ります。



※ファンダメンタルズとは、経済活動の状況を示す基礎的な要因のことで、経済の基礎的要件と訳されます。

- ◆国内株式マザーファンドおよび国内債券マザーファンドの運用をニッセイアセットマネジメントが、海外株式マザーファンドおよび海外債券マザーファンドの運用をザ・パトナム・アドバイザー・カンパニー・エルエルシーが行います。
 - ニッセイ国内株式マザーファンド（運用：ニッセイアセットマネジメント）
 - ・アナリストチームが徹底した企業調査・分析に基づき、組入候補銘柄を厳選します。
 - ・ポートフォリオ・マネジャーが投資環境分析等に基づき運用戦略を決定し、ポートフォリオを構築します。
 - ・グロース投資（成長株投資）、バリュー投資（割安株投資）などの投資スタイルをあらかじめ限定せず、運用環境から最も効率的と考えられる運用戦略を決定します。
 - ニッセイ国内債券マザーファンド（運用：ニッセイアセットマネジメント）
 - ・投資環境分析、期間別金利水準の動向、個別債券銘柄の分析等に基づき、債券の利回り変化に対する価格変動性のコントロールを行うとともに、長期・中期・短期債のウェイト、投資銘柄を決定し、ポートフォリオを構築します。
 - ・原則として、投資適格債※への投資により、信用リスクを抑制します。
 - ※ 投資適格債とは、債券格付（債券の元本、利息支払いの確実性の度合いを示す尺度）がB B B格相当以上の債券です。
 - ニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンド（運用：ザ・パトナム・アドバイザー・カンパニー・エルエルシー）
 - ・グローバルな視点に立った企業調査分析・投資環境分析を徹底し、世界各国の優良銘柄に分散投資します。
 - ・アナリストとポートフォリオ・マネジャーが投資哲学と情報を共有しつつ、国・セクター（業種等）・銘柄固有要素の3つの側面を統合した銘柄選択とポートフォリオ構築を行います。
 - ・外貨建資産については原則として為替ヘッジを行いません。

- ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド（運用：ザ・パトナム・アドバイザー・カンパニー・エルエルシー）
 - ・各国の経済・政治情勢や金融政策等の環境分析に基づき、国別配分を決定します。
 - ・投資環境分析に基づく国別の金利・為替見通しにより、債券の利回り変化に対する価格変動性のコントロールを行うとともに為替戦略を決定し、ポートフォリオを構築します。
 - ・外貨建資産については原則として為替ヘッジを行いません。
- ザ・パトナム・アドバイザー・カンパニー・エルエルシーは、パトナム・インベストメンツのグループ会社です。

〈パトナム・インベストメンツの概要〉 2023年3月末現在

- ・パトナム・インベストメンツは1937年創立の米国で最も古い資産運用会社の1つです。
- ・運用資産は約1,691億ドル(約23兆円)、投信残高は約806億ドル(約11兆円)の規模を誇ります。
- ・設定済み投信は70本以上、また約300万人の投資家を有しています。
- ・ファンドマネージャー、アナリストなどの運用担当専門職を195名有しています。

○ 2023年9月末現在でニッセイアセットマネジメント株式会社が知り得る情報をもとに作成しています。

資金動向、市況動向等によっては、前述のような運用ができない場合があります。

- ③ 信託金の上限
5,000億円とします。ただし、受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができません。

④ ファンドの分類

追加型投信／内外／資産複合に属します。

○ 課税上は株式投資信託として取扱われます。

ファンドの商品分類表・属性区分表は以下の通りです（該当区分を網掛け表示しています）。

商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単 位 型 追 加 型	国 内 海 外 内 外	株 式 債 券 不動産投信 その他資産 () 資産複合

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株		グローバル (日本含む)		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ()	年 1 回 年 2 回 年 4 回 年 6 回 (隔月)	日 本 北 米 欧 州 アジア オセアニア	ファミリー ファンド	あ り ()
不動産投信	年12回 (毎月)	中南米	ファンド・ オブ・ ファンズ	な し
その他資産 (投資信託証券 (資産複合 (株式・債券) 資産配分変更型))	日 々 その他 ()	アフリカ 中近東 (中東) エマー ジング		
資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型				

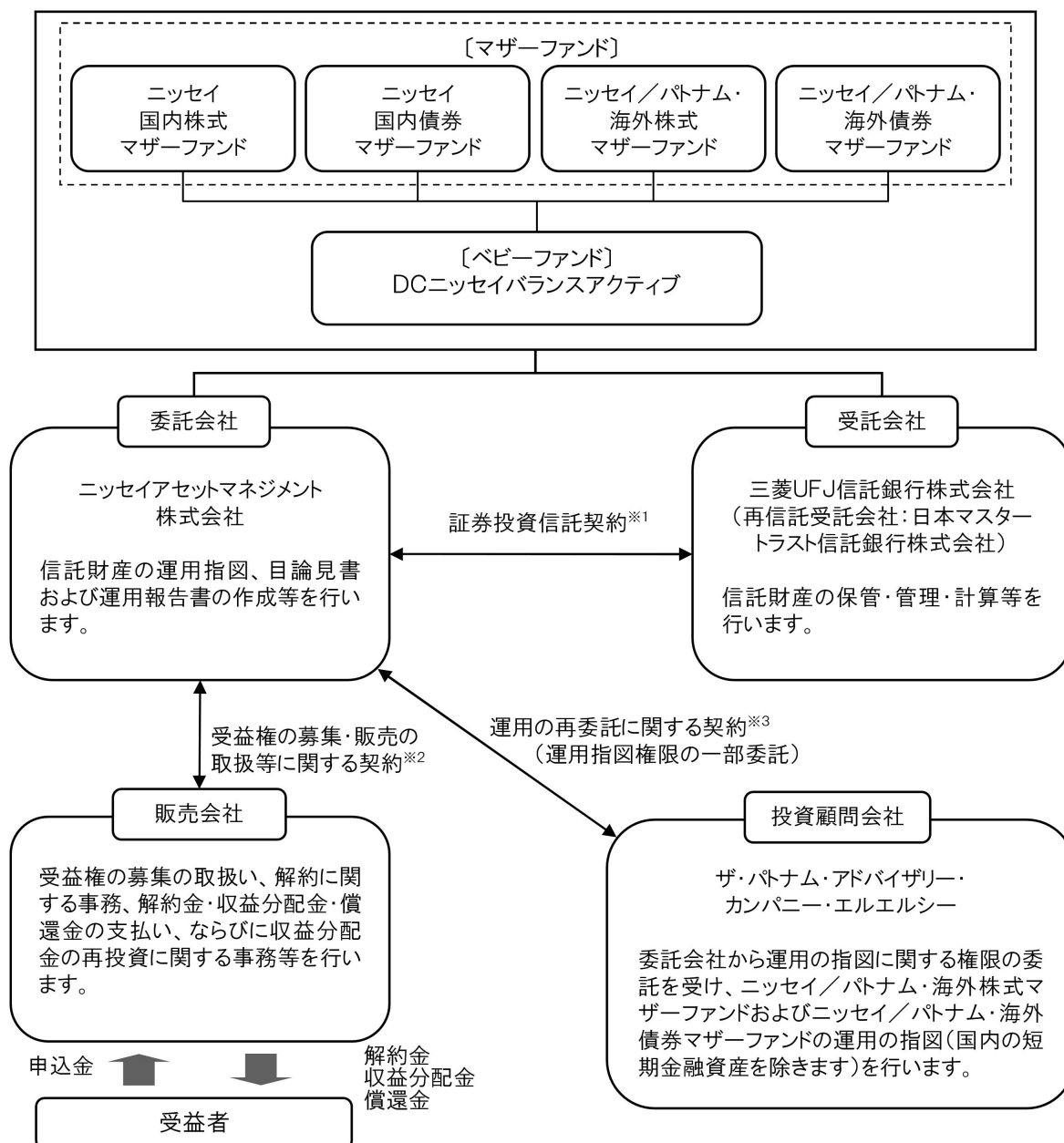
商品分類表	
追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。
内外	目論見書または約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。
資産複合	目論見書または約款において、複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。
属性区分表	
その他資産 (投資信託証券 (資産複合 (株式・債券) 資産配分変更型))	目論見書または約款において、主たる投資対象を投資信託証券(マザーファンド)とし、ファンドの実質的な運用をマザーファンドにて行う旨の記載があるものをいう。 目論見書または約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行う旨の記載があるものもしくは固定的とする旨の記載がないものをいう。 目論見書または約款において、主として株式および公社債等に投資する旨の記載があるものをいう。
年2回	目論見書または約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいう。
グローバル (日本含む)	目論見書または約款において、組入資産による投資収益が日本を含む世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
ファミリーファンド	目論見書または約款において、マザーファンド(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く)を投資対象として投資するものをいう。
為替ヘッジなし	目論見書または約款において、対円での為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは対円での為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

前記以外の商品分類および属性区分の定義については、
一般社団法人 投資信託協会ホームページ (<https://www.toushin.or.jp/>) をご参照ください。

(2) 【ファンドの沿革】

- 2001年11月30日 信託契約締結、ファンドの設定、運用開始
- 2011年12月21日 主要投資対象を「ニッセイバランスアクティブマザーファンド」から、「ニッセイ国内株式マザーファンド」、「ニッセイ国内債券マザーファンド」、「ニッセイ/パトナム・海外株式マザーファンド」および「ニッセイ/パトナム・海外債券マザーファンド」に変更

(3) 【ファンドの仕組み】



- ※1 委託会社と受託会社との間で結ばれ、運用の基本方針、収益分配方法、受益権の内容等、ファンドの運用・管理について定めた契約です。この信託は、信託財産に属する財産についての対抗要件に関する事項を除き、信託法（大正11年法律第62号）の適用を受けます。
- ※2 委託会社と販売会社との間で結ばれ、委託会社が販売会社に受益権の募集の取扱い、解約に関する事務、解約金・収益分配金・償還金の支払い、ならびに収益分配金の再投資等の業務を委託し、販売会社がこれを引受けることを定めた契約です。
- ※3 委託会社と投資顧問会社との間で結ばれ、委託会社が投資顧問会社へ運用指図権限の一部を委託するにあたり委託する業務の内容、業務を遂行する際の両者間の取決めの内容を定めた契約です。

委託会社の概況（2023年9月末現在）

- ・金融商品取引業者登録番号：関東財務局長（金商）第369号
- ・設立年月日：1995年4月4日
- ・資本金の額：100億円
- ・沿革

1985年7月1日

ニッセイ・ビーオーティー投資顧問株式会社（後のニッセイ投資顧問株式会社）が設立され、投資顧問業務を開始しました。

1995年4月4日

ニッセイ投信株式会社が設立され、同年4月27日、証券投資信託委託業務を開始しました。

- 1998年7月1日 ニッセイ投信株式会社（存続会社）とニッセイ投資顧問株式会社（消滅会社）が合併し、ニッセイアセットマネジメント投信株式会社として投資一任業務ならびに証券投資信託委託業務の併営を開始しました。
- 2000年5月8日 定款を変更し商号をニッセイアセットマネジメント株式会社としました。

・大株主の状況

名 称	住 所	保有株数	比 率
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	108,448株	100%

2 【投資方針】

(1) 【投資方針】

- ① 主としてニッセイ国内株式マザーファンド、ニッセイ国内債券マザーファンド、ニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンド、ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンドへの投資を通じて、実質的に国内外の株式、公社債等に分散投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。
- ② 資産配分は、主にファンダメンタルズ分析、短中期の運用環境予測等に基づき機動的に変更します。
- ③ 上記マザーファンドの組入比率は原則として高位を保ちますが、市況動向等によっては、直接国内外の株式、公社債等に投資を行う場合があります。
- ④ 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(参考) マザーファンドの概要

ニッセイ国内株式マザーファンド

(1) 基本方針

このマザーファンドは、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行うことを基本方針とします。

(2) 運用方法

a 投資対象

国内の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄を主要投資対象とします。

b 投資態度

- ① 国内の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、TOPIX（東証株価指数）※（配当込み）をベンチマークとし、これを中長期的に上回ることを目標にアクティブ運用を行います。

※ TOPIX（東証株価指数）とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により株式会社JPX総研が算出する株価指数です。

TOPIX（東証株価指数）の指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。当ファンドは、JPXにより提供、保証または販売されるものではなく、当ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

- ② 銘柄選択は幅広く企業訪問を行い、徹底した調査・分析に基づくボトムアップ・アプローチにより、成長性・割安度といった株価指標はもとより、企業経営を全体的に評価する形で組入候補銘柄を厳選します。
- ③ 投資スタイルはあらかじめ限定せず、投資環境分析に基づくトップダウン・アプローチにより最も効率的と考えられる運用戦略を決定します。

- ④ 上記運用戦略に基づき組入銘柄・組入比率を最終的に決定し、ポートフォリオを組成します。
- ⑤ ファンドのリスク状況を随時モニターし、運用戦略との整合性を維持します。
- ⑥ 株式の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。
- ⑦ 株式の実質組入比率の維持のために、株価指数先物等を活用することがあります。
- ⑧ 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(3) 投資制限

- ① 株式への投資割合には、制限を設けません。
- ② 同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ③ 新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以内とします。
- ④ 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ⑤ 同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます）への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ⑥ 投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- ⑦ 外貨建資産への投資は行いません。
- ⑧ 私募により発行された有価証券（短期社債等を除く）および上場予定・登録予定株式への投資は、その投資額の合計が、信託財産の純資産総額の15%以下の範囲で行います。
- ⑨ デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。
- ⑩ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい、当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

ニッセイ国内債券マザーファンド

(1) 基本方針

このマザーファンドは、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行うことを基本方針とします。

(2) 運用方法

a 投資対象

国内の公社債を主要投資対象とします。

b 投資態度

- ① 国内の公社債を主要投資対象とし、NOMURA-BPI国債[※]をベンチマークとし、これを中長期的に上回ることを目標にアクティブ運用を行います。
[※] NOMURA-BPI国債とは、日本国内で発行される国債の流通市場動向を的確に表すために、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社によって計算、公表されている投資収益指数であり、その知的財産は同社に帰属します。なお、同社は、当ファンドの運用成果等に関し、一切の責任を負うものではありません。
- ② デュレーションコントロールに加え、銘柄分析、イールドカーブ分析に基づき、ポートフォリオ・マネージャーが運用戦略を決定し、ポートフォリオを構築します。
- ③ 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。
- ④ 公社債の実質組入比率は、原則として高位を保ちますが、資金動向、市況動向およびその見通し等によってはそのような運用を行わない場合があります。

(3) 投資制限

- ① 同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ② 投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- ③ 外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以内とします。
- ④ 外国為替予約取引はヘッジ目的に限定しません。
- ⑤ 私募により発行された有価証券（短期社債等を除く）および上場予定・登録予定株式への投資は、その投資額の合計が、信託財産の純資産総額の15%以下の範囲で行います。
- ⑥ デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。
- ⑦ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい、当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

ニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンド

(1) 基本方針

このマザーファンドは、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行うことを基本方針とします。

(2) 運用方法

a 投資対象

日本を除く世界主要先進国の株式を主要投資対象とします。

b 投資態度

- ① 主として日本を除く世界主要先進国の株式に分散投資を行い、MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）※をベンチマークとし、これを中長期的に上回ることを目標にアクティブ運用を行います。

※ MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）は、MSCI Inc. が公表している指数であり、日本を除く主要先進国の株式により構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

なお、「円換算ベース」とは同指数をもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

- ② 運用にあたっては、ザ・パトナム・アドバイザー・カンパニー・エルエルシー(The Putnam Advisory Company, LLC.)に運用指図に関する権限（国内の短期金融資産の運用の指図に関する権限を除きます）を委託します。
- ③ 運用スタイルを限定せず、幅広い企業訪問等に基づくファンダメンタル分析やクオンツ分析を通じて、世界各国の投資魅力が高い企業を抽出します。
- ④ 組入れ銘柄の決定に際しては、国・セクターの要素を同時に分析し、分散したポートフォリオを構築します。
- ⑤ 株式の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。
- ⑥ 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- ⑦ 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(3) 投資制限

- ① 株式への投資割合には、制限を設けません。
- ② 同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ③ 新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以内とします。

- ④ 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ⑤ 同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ⑥ 投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- ⑦ 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
- ⑧ 外国為替予約取引はヘッジ目的に限定しません。
- ⑨ 私募により発行された有価証券（短期社債等を除く）および上場予定・登録予定株式への投資は、その投資額の合計が、信託財産の純資産総額の15%以下の範囲で行います。
- ⑩ デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。
- ⑪ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい、当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド

(1) 基本方針

このマザーファンドは、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行うことを基本方針とします。

(2) 運用方法

a 投資対象

日本を除く世界主要先進国の公社債を主要投資対象とします。

b 投資態度

- ① 主として日本を除く世界主要先進国の公社債に分散投資を行い、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）※をベンチマークとし、これを中長期的に上回ることを目標にアクティブ運用を行います。

※ FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

なお、「円換算ベース」とは同インデックスをもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

- ② 運用にあたっては、ザ・パトナム・アドバイザー・カンパニー・エルエルシー(The Putnam Advisory Company, LLC.)に運用指図に関する権限（国内の短期金融資産の運用の指図に関する権限を除きます）を委託します。
- ③ 各国の市況動向や政治・経済情勢を勘案して国別配分比率およびデュレーションの調整を行います。
- ④ 債券の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。
- ⑤ 為替については、公社債とは独立した投資対象と考え、エクスポージャーのコントロールを行うことにより、運用効率の向上、収益の確保を図ります。ただし、為替エクスポージャーは原則として信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- ⑥ 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(3) 投資制限

- ① 株式、新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以内とします。

- ② 同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ③ 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ④ 同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ⑤ 投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- ⑥ 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
- ⑦ 外国為替予約取引はヘッジ目的に限定しません。
- ⑧ 私募により発行された有価証券（短期社債等を除く）および上場予定・登録予定株式への投資は、その投資額の合計が、信託財産の純資産総額の15%以下の範囲で行います。
- ⑨ デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。
- ⑩ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい、当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

(2) 【投資対象】

a 主な投資対象

下記の各マザーファンドを主要投資対象とします。

- ニッセイ国内株式マザーファンド
- ニッセイ国内債券マザーファンド
- ニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンド
- ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド

なお、直接株式、公社債等に投資を行う場合があります。

b 約款に定める投資対象

① 投資の対象とする資産の種類

このファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ）
 - イ. 有価証券
 - ロ. デリバティブ取引にかかる権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、後記「(5) 投資制限 b 約款に定めるその他の投資制限 ③ 先物取引等、④ スワップ取引および⑤ 金利先渡取引および為替先渡取引」に定めるものに限りません）
 - ハ. 金銭債権（イ. およびニ. に掲げるものに該当するものを除きます）
 - ニ. 約束手形（イ. に掲げるものを除きます）
2. 次に掲げる特定資産以外の資産
 - イ. 為替手形

② 有価証券

主としてニッセイアセットマネジメント株式会社を委託会社とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託会社として締結された下記1. から4. までのマザーファンドならびに次の5. から26. までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます）に投資します。

1. ニッセイ国内株式マザーファンド
2. ニッセイ国内債券マザーファンド
3. ニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンド
4. ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド
5. 株券または新株引受権証券
6. 国債証券
7. 地方債証券
8. 特別の法律により法人の発行する債券

9. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます）の新株引受権証券を除きます）
10. 特定目的会社にかかる特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます）
11. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます）
12. 協同組織金融機関にかかる優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます）
13. 特定目的会社にかかる優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます）
14. コマーシャル・ペーパー
15. 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ）および新株予約権証券
16. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、5. から15. の証券または証書の性質を有するもの
17. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます）
18. 投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます）
19. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます）
20. オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限りす）
21. 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます）
22. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
23. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りす）
24. 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます）
25. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
26. 外国の者に対する権利で25. の有価証券の性質を有するもの
 なお、5. の証券または証書、16. および21. の証券または証書のうち5. の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、6. から10. までの証券ならびに16. および21. の証券または証書のうち6. から10. までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、17. および18. の証券を以下「投資信託証券」といいます。

③ 金融商品

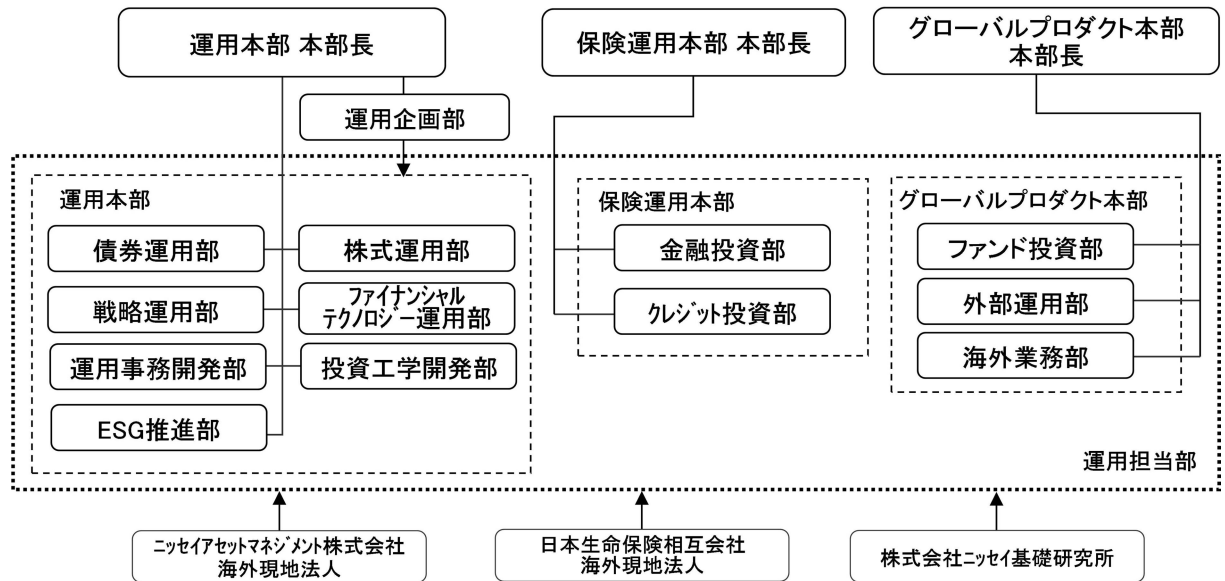
信託金を前記②に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。以下④において同じ）により運用することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で5. の権利の性質を有するもの

④ 前記②の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を前記③の1. から4. までに掲げる金融商品により運用することができます。

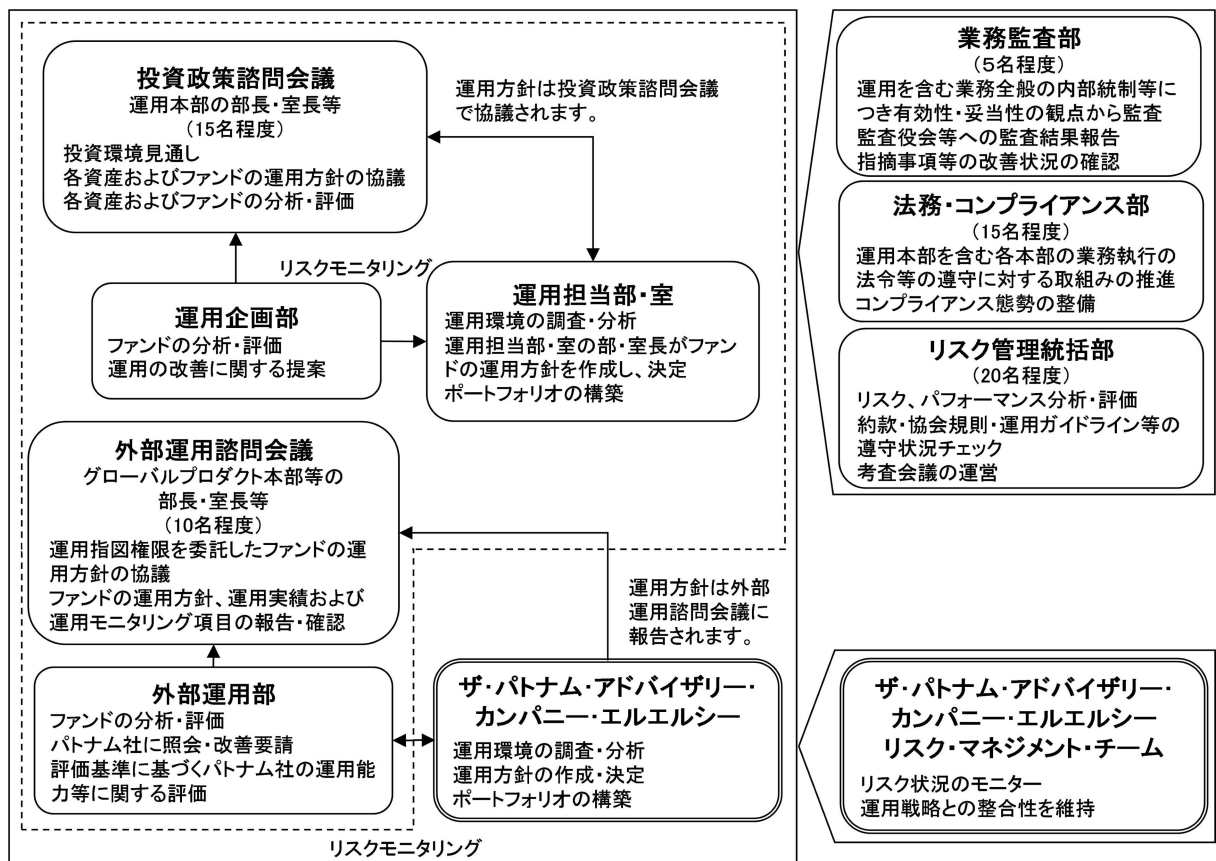
(3) 【運用体制】

委託会社の組織体制



社内規程として、投資信託財産及び投資法人資産に係る運用業務規程およびポートフォリオ・マネージャー／アナリスト服務規程を定めています。また、各投資対象の適切な利用、リスク管理の推進を目的として、各投資対象の取扱いに関して規程を設けています。

内部管理体制および意思決定を監督する組織



<受託会社に対する管理体制等>

委託会社は、受託会社（再信託先も含む）に対して日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行っています。また、受託業務の内部統制の有効性について、監査人による報告書を定期的に受託会社より受取っています。

○ 上記運用体制は、今後変更となる場合があります。

(4) 【分配方針】

- ① 原則として以下の方針に基づき分配を行います。
 1. 分配対象額の範囲
経費控除後の利子・配当収入および売買益（評価益を含みます）等の全額とします。
 2. 分配対象額についての分配方針
委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
 3. 留保益の運用方針
特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。
 - ② 分配時期
毎決算日とし、決算日は3・9月の各20日（年2回、該当日が休業日の場合は翌営業日）です。
 - ③ 支払方法
 - <分配金受取コースの場合>
原則として決算日から起算して5営業日目までにお支払いします。
 - <分配金再投資コースの場合>
自動的に再投資されます。
- 将来の分配金の支払いおよび水準について、保証するものではありません。

(5) 【投資制限】

a 約款に定める主な投資制限

- ① 株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の70%未満とします。
- ② 新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以内とします。
- ③ 同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ④ 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ⑤ 同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ⑥ 投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- ⑦ 外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の50%以内とします。
- ⑧ 外国為替予約取引はヘッジ目的に限定しません。
- ⑨ デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。
- ⑩ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい、当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

b 約款に定めるその他の投資制限

- ① 投資する株式等の範囲
 1. 投資する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、証券取引所[※]に上場されている株式の発行会社の発行するもの、証券取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとし、ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。
※ 金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場を「取引所」といい、取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行う市場および当該市場を開設するものを「証券取引所」といいます。以下同じ。
 2. 前記1.にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、投資することができます。
- ② 信用取引の範囲
 1. 信託財産を効率的に運用するため、信用取引により株券を売付けることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことができます。

2. 前記1. の信用取引は、当該売付けに関する建玉の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
 3. 信託財産の一部解約等の事由により、前記2. の売付けにかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するものとします。
- ③ 先物取引等
1. 国内の証券取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。以下同じ）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。以下同じ）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。以下同じ）ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします（以下同じ）。
 2. 国内の取引所における通貨にかかる先物取引ならびに外国の取引所における通貨にかかる先物取引および先物オプション取引を行うことができます。
 3. 国内の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことができます。
- ④ スワップ取引
1. 信託財産に属する資産の効率的な運用ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます）を行うことができます。
 2. スワップ取引にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
 3. スワップ取引にあたっては、当該信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額とマザーファンドの信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額（以下「スワップ取引の想定元本の合計額」といいます。以下当該3.において同じ）が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部を解約するものとします。
 4. 前記3.においてマザーファンドの信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンドの時価総額の割合をかけた額をいいます。
 5. スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
 6. スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れを行うものとします。
- ⑤ 金利先渡取引および為替先渡取引
1. 信託財産に属する資産を効率的に運用するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことができます。
 2. 金利先渡取引および為替先渡取引にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
 3. 金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
 4. 金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れを行うものとします。
- ⑥ 有価証券の貸付けおよび範囲
1. 信託財産を効率的に運用するため、信託財産に属する株式および公社債を次の i. および ii. の範囲内で貸付けることができます。
 - i. 株式の貸付けは、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
 - ii. 公社債の貸付けは、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。

2. 前記1. に定める限度額を超えることとなった場合には、速やかに、その超える額に相当する契約の一部を解約するものとします。
3. 有価証券の貸付けにあたって必要と認めるときは、担保の受入れを行うものとします。

⑦ 公社債の空売り

1. 信託財産を効率的に運用するため、信託財産の計算においてする信託財産に属さない公社債を売付けることができます。なお、当該売付けの決済については、公社債（信託財産により借入れた公社債を含みます）の引渡しまたは買戻しにより行うことができます。
2. 前記1. の売付けは、当該売付けに関する公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
3. 信託財産の一部解約等の事由により、前記2. の売付けにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するものとします。

⑧ 公社債の借入れ

1. 信託財産を効率的に運用するため、公社債の借入れを行うことができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供を行うものとします。
2. 前記1. は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
3. 信託財産の一部解約等の事由により、前記2. の借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するものとします。
4. 前記1. の借入れによる借料は信託財産中から支払われます。

⑨ 外国為替予約等

1. 信託財産を効率的に運用するため、外国為替の売買の予約取引を行うことができます。
2. 前記1. の予約取引は、信託財産にかかる為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産の為替変動リスクを回避するためにする当該取引については、この限りではありません。
3. 前記2. の限度額を超えることとなった場合には、所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引を行うものとします。
4. 予約為替の評価は、原則として国内における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。
5. 外貨建有価証券への投資については、日本の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

⑩ 資金の借入れ

1. 信託財産を効率的に運用ならびに安定的に運用するため、一部解約にともなう支払資金の手当て（一部解約にともなう支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます）を行うことができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
2. 一部解約にともなう支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は借入れを行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
3. 収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支払われる日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
4. 借入金の利息は信託財産中より支払われます。

c 法令に定める投資制限

① デリバティブ取引等（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号）

金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引等（金融商

品取引法第2条第20項に規定するデリバティブ取引をいい、新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引および選択権付債券売買を含みます)を行い、または継続することを内容とした運用を行わないものとします。

② 信用リスク集中回避（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号の2）

信用リスク（保有する有価証券その他の資産について取引の相手方の債務不履行その他の理由により発生し得る危険をいいます）を適正に管理する方法としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法に反することとなる取引を行うことを内容とした運用を行わないものとします。

③ 同一法人の発行する株式（投資信託及び投資法人に関する法律第9条）

委託会社が指図を行うすべてのファンドで、同一法人の発行する株式の過半数の議決権を取得するような運用を行わないものとします。

3【投資リスク】

ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。

ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

ファンドは、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。

ファンドのお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。

（1）投資リスクおよび留意事項

ファンドが有する主なリスクおよび留意事項は以下の通りです。

・株式投資リスク

株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化（倒産に至る場合も含む）等により、価格が下落することがあります。

・債券投資リスク

金利変動リスク

金利は、景気や経済の状況等の影響を受け変動し、それにともない債券価格も変動します。一般に金利が上昇した場合には、債券の価格が下落します。

信用リスク

債券の発行体が財政難・経営不振、資金繰り悪化等に陥り、債券の利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる場合（債務不履行）、またはそれが予想される場合、債券の価格が下落することがあります。

・為替変動リスク

原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。

・資産配分リスク

ファンドは、投資対象資産の配分比率を機動的に変更する運用を行います。この資産配分がファンドの収益の源泉となる場合もありますが、投資対象資産が予期しない値動きをした場合、損失を被る可能性があります。

・流動性リスク

市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

・収益分配金に関する留意点

収益分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、収益分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

収益分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる収益分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

・短期金融資産の運用に関する留意点

コマーシャル・ペーパー、コール・ローン等の短期金融資産で運用する場合、発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により損失を被ることがあります。

・ファミリーファンド方式に関する留意点

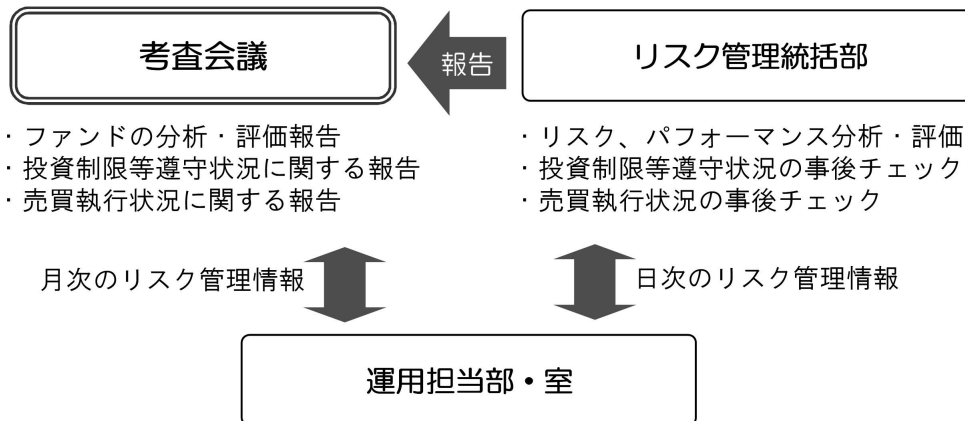
ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。このため、マザーファンドに投資する他のベビーファンドの追加設定・解約等にともない、ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。

・流動性に関する留意点

ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短時間で手当てする必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。

これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消しする可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性などがあります。

(2) 投資リスク管理体制



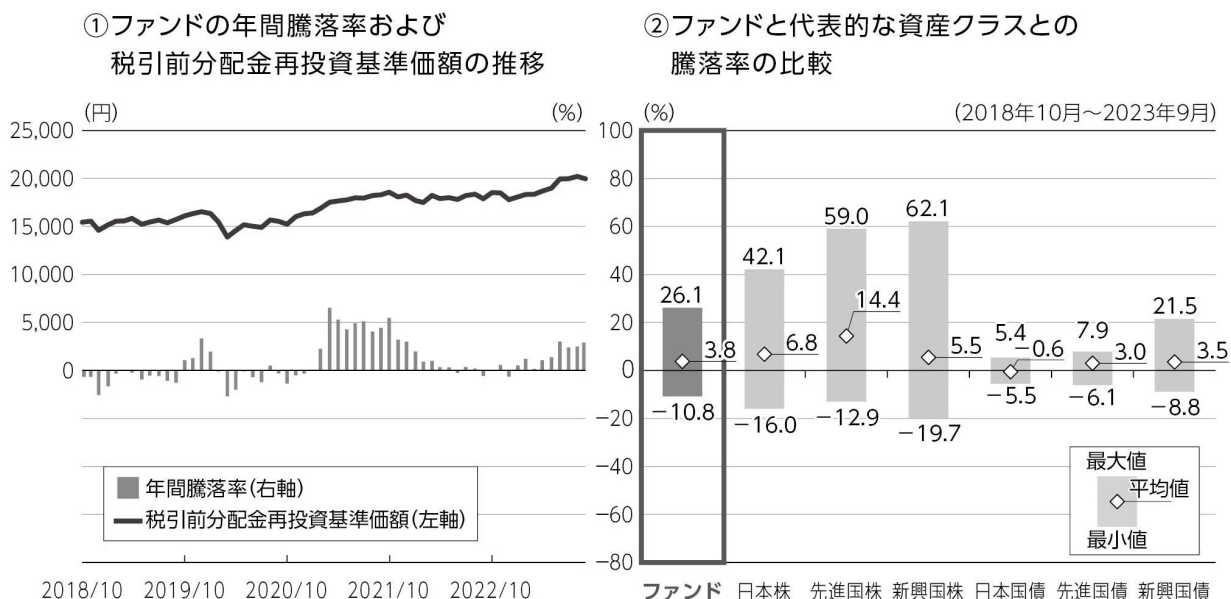
1. リスク管理統括部が、以下の通り管理を行います。
 - ・運用状況をモニタリングし、リスク、パフォーマンスの分析・評価、ファンドの投資制限等遵守状況の事後チェックを行います。また、その情報を運用担当部・室に日々連絡するとともに、月次の審査会議で報告します。
 - ・売買執行状況の事後チェックを行います。また、その情報を必要に応じて運用担当部・室に連絡するとともに、月次の審査会議で報告します。
2. 運用担当部・室は上記の連絡・報告を受けて、必要に応じてポートフォリオの改善を行います。

○ 上記投資リスク管理体制は、今後変更となる場合があります。

<流動性リスクに関する管理体制>

委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行っています。そして取締役会等においては、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢などを監督しています。

(参考情報) 投資リスクに関する参考情報として、ファンドのリスクの定量的な把握・比較を目的に下記のグラフを作成しています。



- ・グラフにおけるファンドに関する記載は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額によるものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率および実際の基準価額の推移とは異なる場合があります。ファンドおよび代表的な資産クラスの年間騰落率は、各月末における直近1年間の騰落率です。
- ・グラフ①は、過去5年間のファンドの実績です。グラフ②は、過去5年間ににおけるファンドおよび代表的な資産クラスの年間騰落率の最大値・最小値・平均値について表示しています。

<代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数>

- 日本株 … TOPIX(東証株価指数) (配当込み)
- 先進国株 … MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)
- 新興国株 … MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)
- 日本国債 … NOMURA-BPI 国債
- 先進国債 … FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)
- 新興国債 … JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)
- ・すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。
- ・海外の指数は、「為替ヘッジなし(対円)」の指数を採用しています。

❗ 前記グラフは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆、保証するものではありません。

- ・TOPIX(東証株価指数)の指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。
- ・MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc. が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・NOMURA-BPI 国債とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産は同社に帰属します。なお、同社は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任を負いません。
- ・FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- ・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイドは、JPモルガン社が算出する債券インデックスであり、その著作権および知的所有権は同社に帰属します。

4 【手数料等及び税金】

(1) 【申込手数料】

ありません。

(2) 【換金（解約）手数料】

ありません。

(3) 【信託報酬等】

- ① 信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年1.43%（税抜1.3%）の率をかけた額とし、その配分は次の通りです。

信託報酬の配分（年率・税抜）		
委託会社	販売会社	受託会社
0.6%	0.6%	0.1%

・表に記載の料率には、別途消費税がかかります。

委託会社の報酬には、ザ・パトナム・アドバイザー・カンパニー・エルエルシーへの運用指図権限の一部委託に関する報酬（ベビーファンドの信託財産に属するニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンドの時価総額に年率0.46%をかけた額およびニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンドの時価総額に年率0.36%をかけた額）が含まれます。

- ② 前記①の信託報酬については、毎計算期末および信託終了のときに信託財産中から支払います。

(4) 【その他の手数料等】

- ① 証券取引の手数料等

組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料および税金等は、信託財産中から支払います。この他に、先物取引・オプション取引等に要する費用についても信託財産中から支払います。

- ② 監査費用

ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に下記の監査報酬率をかけた額とし、信託財産中から支払います。

純資産総額	監査報酬率
100億円超 の部分	年 0.0044% (税抜0.004%)
50億円超 100億円以下 の部分	年 0.0055% (税抜0.005%)
10億円超 50億円以下 の部分	年 0.0077% (税抜0.007%)
10億円以下 の部分	年 0.0110% (税抜0.010%)

- ③ 信託事務の諸費用

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支払います。

- ④ 借入金の利息

信託財産において一部解約金の支払資金の手当て、または再投資に関する収益分配金の支払資金の手当てを目的として資金借入を行った場合、当該借入金の利息は、借入れのつど信託財産中から支払います。

- ⑤ 信託財産留保額

ありません。

- 上記の①、③および④の費用は、運用状況等により変動するため、事前に当該費用の金額、その上限額、計算方法を記載することはできません。また、「4 手数料等及び税金」に記載している費用と税金の合計額、その上限額、計算方法についても、運用状況および保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。

<ご参考>

「4 手数料等及び税金」の「(1) 申込手数料」から「(4) その他の手数料等」までに記載の主な手数料において、当該手数料を対価とする役務の内容・収受先等は次の通りです。

申込手数料	投資者のファンドの取得時に、販売会社からの商品・投資環境の説明および情報提供、ならびに販売会社における当該取得にかかる事務手続き等の対価として販売会社が収受
信託報酬のうち「委託会社」の報酬	ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の対価として委託会社が収受
信託報酬のうち「販売会社」の報酬	投資者（受益者）へのファンド購入後の情報提供・運用報告書等各種書類の送付、また口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価として販売会社が収受
信託報酬のうち「受託会社」の報酬	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価として受託会社が収受
証券取引の手数料	有価証券等の売買・取引の際に仲介人に支払う手数料
監査費用	公募投資信託は、外部の監査法人等によるファンドの会計監査が義務付けられているため、当該監査にかかる監査法人等に支払う費用
借入金の利息	受託会社等から一時的に資金を借入れた場合に発生する利息

(5) 【課税上の取扱い】

確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会の場合、所得税および地方税はかかりません。また、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

なお、委託会社または販売会社が取得した場合には、上記の税制は適用されません。

- 税法または確定拠出年金法が改正された場合等には、上記の内容が変更になる場合があります。課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家に確認されることをお勧めします。

5 【運用状況】
 (1) 【投資状況】

2023年9月29日現在

資産の種類	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	1,164,017,556	92.33
内 日本	1,164,017,556	92.33
コール・ローン、その他の資産 (負債控除後)	96,722,107	7.67
純資産総額	1,260,739,663	100.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(参考)

ニッセイ国内株式マザーファンド

2023年9月29日現在

資産の種類	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	18,250,867,990	97.68
内 日本	18,250,867,990	97.68
コール・ローン、その他の資産 (負債控除後)	433,337,554	2.32
純資産総額	18,684,205,544	100.00

その他資産の投資状況

2023年9月29日現在

資産の種類	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株価指数先物取引 (買建)	371,760,000	1.99
内 日本	371,760,000	1.99

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 先物取引の時価は、原則として計算日に知りうる直近の日の主たる金融商品取引所等の発表する清算値段又は最終相場で評価しています。

ニッセイ国内債券マザーファンド

2023年9月29日現在

資産の種類	時価合計 (円)	投資比率 (%)
国債証券	18,639,431,973	93.22
内 日本	18,639,431,973	93.22
コール・ローン、その他の資産 (負債控除後)	1,356,333,464	6.78
純資産総額	19,995,765,437	100.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

資産の種類	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	49,169,982,001	94.99
内 アメリカ	37,740,958,630	72.91
内 フランス	2,712,667,147	5.24
内 カナダ	2,095,360,707	4.05
内 イギリス	1,940,908,779	3.75
内 デンマーク	1,303,506,636	2.52
内 ドイツ	808,989,457	1.56
内 アイルランド	743,998,104	1.44
内 オランダ	709,751,578	1.37
内 香港	586,344,868	1.13
内 バミューダ	527,496,095	1.02
投資証券	1,011,418,974	1.95
内 アメリカ	1,011,418,974	1.95
コール・ローン、その他の資産 (負債控除後)	1,581,355,739	3.06
純資産総額	51,762,756,714	100.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

資産の種類	時価合計 (円)	投資比率 (%)
国債証券	7,297,980,726	73.70
内 アメリカ	3,361,630,627	33.95
内 フランス	795,827,290	8.04
内 イタリア	732,500,433	7.40
内 イギリス	543,482,945	5.49
内 スペイン	453,785,494	4.58
内 ドイツ	358,266,989	3.62
内 ベルギー	192,956,631	1.95
内 オランダ	151,011,564	1.53
内 オーストラリア	147,272,187	1.49
内 オーストリア	120,041,020	1.21
内 メキシコ	103,108,618	1.04
内 ポーランド	59,747,164	0.60
内 アイルランド	56,635,131	0.57
内 マレーシア	53,888,426	0.54
内 デンマーク	43,888,331	0.44
内 フィンランド	33,572,993	0.34
内 ニュージーランド	26,331,082	0.27
内 カナダ	21,644,033	0.22
内 ノルウェー	21,360,610	0.22
内 スウェーデン	21,029,158	0.21
地方債証券	169,693,899	1.71
内 カナダ	169,693,899	1.71
特殊債券	1,222,803,028	12.35
内 アメリカ	884,243,601	8.93
内 国際機関	108,752,947	1.10
内 オランダ	81,721,866	0.83
内 ドイツ	81,325,254	0.82
内 ルクセンブルグ	66,759,360	0.67
社債券	595,728,133	6.02
内 アメリカ	527,102,325	5.32
内 オーストラリア	68,625,808	0.69
コール・ローン、その他の資産 (負債控除後)	615,443,760	6.22
純資産総額	9,901,649,546	100.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(2) 【投資資産】

① 【投資有価証券の主要銘柄】

2023年9月29日現在

順位	銘柄名 国/地域	種類	株数、口数又は 額面金額	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	ニッセイ/パトナム・海外 株式マザーファンド 日本	親投資 信託受 益証券	97,913,199	4.0700 398,513,685	3.9935 391,016,360	— —	31.01
2	ニッセイ国内株式マザー ファンド 日本	親投資 信託受 益証券	208,277,256	1.8924 394,143,947	1.8456 384,396,503	— —	30.49
3	ニッセイ国内債券マザー ファンド 日本	親投資 信託受 益証券	192,996,167	1.3880 267,897,979	1.3845 267,203,193	— —	21.19
4	ニッセイ/パトナム・海外 債券マザーファンド 日本	親投資 信託受 益証券	37,157,658	3.2899 122,248,694	3.2672 121,401,500	— —	9.63

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

種類別及び業種別投資比率

2023年9月29日現在

種類	国内/外国	業種	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	国内		92.33
	小計		92.33
合計 (対純資産総額比)			92.33

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(参考)

ニッセイ国内株式マザーファンド

2023年9月29日現在

順位	銘柄名 国/地域	種類 業種	株数、口数又は 額面金額	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	トヨタ自動車 日本	株式 輸送用機 器	282,200	1,845.00 520,659,000	2,677.50 755,590,500	— —	4.04
2	ソニーグループ 日本	株式 電気機器	51,800	10,350.00 536,130,000	12,240.00 634,032,000	— —	3.39
3	日本電信電話 日本	株式 情報・通 信業	3,461,500	149.08 516,040,420	176.60 611,300,900	— —	3.27
4	三菱UFJフィナンシャ ル・グループ 日本	株式 銀行業	435,900	836.28 364,537,758	1,268.50 552,939,150	— —	2.96
5	三井住友フィナンシャルグ ループ 日本	株式 銀行業	61,100	5,129.73 313,426,612	7,347.00 448,901,700	— —	2.40
6	花王 日本	株式 化学	75,400	5,232.21 394,509,154	5,551.00 418,545,400	— —	2.24
7	日立製作所 日本	株式 電気機器	44,300	6,890.00 305,227,000	9,275.00 410,882,500	— —	2.20

8	三菱商事	日本	株式 卸売業	56,800	4,330.00 245,944,000	7,128.00 404,870,400	— —	2.17
9	ニデック	日本	株式 電気機器	53,600	7,472.84 400,544,453	6,931.00 371,501,600	— —	1.99
10	日本航空	日本	株式 空運業	127,000	2,652.00 336,804,000	2,908.00 369,316,000	— —	1.98
11	マブチモーター	日本	株式 電気機器	80,800	3,865.54 312,335,649	4,470.00 361,176,000	— —	1.93
12	参天製薬	日本	株式 医薬品	255,100	1,138.49 290,428,889	1,373.50 350,379,850	— —	1.88
13	日本新薬	日本	株式 医薬品	54,800	6,800.53 372,669,077	6,329.00 346,829,200	— —	1.86
14	パナソニック ホールディングス	日本	株式 電気機器	194,400	1,189.50 231,238,800	1,682.00 326,980,800	— —	1.75
15	I H I	日本	株式 機械	104,300	3,723.98 388,411,862	3,135.00 326,980,500	— —	1.75
16	エイチ・アイ・エス	日本	株式 サービス業	180,800	1,900.17 343,552,342	1,806.00 326,524,800	— —	1.75
17	三菱電機	日本	株式 電気機器	175,600	1,331.91 233,883,815	1,849.00 324,684,400	— —	1.74
18	総合警備保障	日本	株式 サービス業	347,200	697.78 242,270,954	902.20 313,243,840	— —	1.68
19	デンソー	日本	株式 輸送用機器	130,400	1,720.26 224,322,529	2,401.00 313,090,400	— —	1.68
20	東レ	日本	株式 繊維製品	396,500	754.60 299,198,900	778.00 308,477,000	— —	1.65
21	良品計画	日本	株式 小売業	155,800	1,457.81 227,127,186	1,935.50 301,550,900	— —	1.61
22	スズキ	日本	株式 輸送用機器	48,900	4,470.00 218,583,000	6,016.00 294,182,400	— —	1.57
23	東京都競馬	日本	株式 サービス業	72,900	3,871.09 282,203,026	4,020.00 293,058,000	— —	1.57
24	太平洋セメント	日本	株式 ガラス・土石製品	110,400	2,175.67 240,194,568	2,650.00 292,560,000	— —	1.57
25	西日本旅客鉄道	日本	株式 陸運業	46,900	5,647.00 264,844,300	6,185.00 290,076,500	— —	1.55
26	丸井グループ	日本	株式 小売業	117,500	2,153.44 253,029,773	2,430.00 285,525,000	— —	1.53
27	積水化学工業	日本	株式 化学	126,700	1,892.00 239,716,400	2,153.00 272,785,100	— —	1.46
28	三菱ケミカルグループ	日本	株式 化学	287,400	797.08 229,081,365	942.70 270,931,980	— —	1.45
29	SUBARU	日本	株式 輸送用機	91,900	2,127.00 195,471,300	2,906.00 267,061,400	— —	1.43

		器					
30	TOYO TIRE	株式	114,700	1,546.00	2,302.00	—	1.41
	日本	ゴム製品		177,326,200	264,039,400	—	

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

種類別及び業種別投資比率

2023年9月29日現在

種類	国内/外国	業種	投資比率 (%)
株式	国内	電気機器	14.32
		輸送用機器	11.64
		サービス業	9.10
		銀行業	7.20
		化学	6.49
		小売業	6.23
		情報・通信業	5.23
		医薬品	4.80
		卸売業	4.70
		陸運業	3.34
		機械	3.12
		繊維製品	2.63
		精密機器	2.47
		空運業	1.98
		保険業	1.92
		ガラス・土石製品	1.57
		ゴム製品	1.41
		建設業	1.40
		食料品	1.40
		鉄鋼	1.36
不動産業	1.32		
その他金融業	1.14		
電気・ガス業	0.86		
金属製品	0.78		
非鉄金属	0.67		
証券、商品先物取引業	0.63		
	小計		97.68
合計 (対純資産総額比)			97.68

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

ニッセイ国内債券マザーファンド

2023年9月29日現在

順位	銘柄名 国/地域	種類	株数、口数又は 額面金額	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	第146回 利付国債 (5年) 日本	国債証券	1,030,700,000	100.22 1,033,008,768	100.12 1,031,947,147	0.1 2025/12/20	5.16
2	第346回 利付国債 (10年) 日本	国債証券	1,000,000,000	99.91 999,150,000	99.81 998,100,000	0.1 2027/3/20	4.99
3	第356回 利付国債 (10年) 日本	国債証券	845,800,000	98.20 830,657,410	98.19 830,524,852	0.1 2029/9/20	4.15
4	第363回 利付国債 (10年) 日本	国債証券	847,500,000	98.44 834,358,002	96.20 815,345,850	0.1 2031/6/20	4.08

5	第447回 利付国債（2年） 日本	国債証券	731,000,000	100.10 731,791,311	100.01 731,102,340	0.005 2025/4/1	3.66
6	第350回 利付国債（10年） 日本	国債証券	640,600,000	99.35 636,471,956	99.22 635,654,568	0.1 2028/3/20	3.18
7	第452回 利付国債（2年） 日本	国債証券	616,700,000	99.96 616,499,488	99.95 616,403,984	0.005 2025/9/1	3.08
8	第24回 物価連動国債（10年） 日本	国債証券	516,000,000	111.04 573,014,435	111.77 576,738,785	0.1 2029/3/10	2.88
9	第451回 利付国債（2年） 日本	国債証券	532,900,000	100.01 532,990,231	100.00 532,900,000	0.005 2025/8/1	2.67
10	第351回 利付国債（10年） 日本	国債証券	506,900,000	99.75 505,663,710	99.02 501,952,656	0.1 2028/6/20	2.51
11	第79回 利付国債（30年） 日本	国債証券	523,700,000	91.39 478,610,909	89.51 468,763,870	1.2 2053/6/20	2.34
12	第442回 利付国債（2年） 日本	国債証券	447,400,000	100.06 447,702,885	100.06 447,686,336	0.005 2024/11/1	2.24
13	第147回 利付国債（20年） 日本	国債証券	409,100,000	110.34 451,413,375	107.91 441,467,992	1.6 2033/12/20	2.21
14	第185回 利付国債（20年） 日本	国債証券	466,700,000	94.79 442,402,488	94.12 439,295,376	1.1 2043/6/20	2.20
15	第151回 利付国債（5年） 日本	国債証券	394,400,000	99.51 392,483,216	99.48 392,360,952	0.005 2027/3/20	1.96
16	第155回 利付国債（20年） 日本	国債証券	370,900,000	103.08 382,323,720	100.49 372,724,828	1 2035/12/20	1.86
17	第360回 利付国債（10年） 日本	国債証券	340,700,000	98.18 334,525,491	97.14 330,966,201	0.1 2030/9/20	1.66
18	第78回 利付国債（30年） 日本	国債証券	334,200,000	103.45 345,741,245	94.20 314,826,426	1.4 2053/3/20	1.57
19	第361回 利付国債（10年） 日本	国債証券	317,900,000	97.26 309,215,465	96.80 307,755,811	0.1 2030/12/20	1.54
20	第156回 利付国債（5年） 日本	国債証券	298,500,000	100.02 298,567,129	99.81 297,938,820	0.2 2027/12/20	1.49
21	第438回 利付国債（2年） 日本	国債証券	297,100,000	100.10 297,401,930	100.10 297,401,930	0.005 2024/7/1	1.49

22	第371回 利付国債 (10年) 日本	国債証券	239,500,000	96.87 232,005,293	96.69 231,594,105	0.4 2033/6/20	1.16
23	第158回 利付国債 (20年) 日本	国債証券	245,300,000	95.00 233,045,447	93.72 229,900,066	0.5 2036/9/20	1.15
24	第118回 利付国債 (20年) 日本	国債証券	200,000,000	111.76 223,532,000	109.95 219,918,000	2 2030/6/20	1.10
25	第70回 利付国債 (30年) 日本	国債証券	272,000,000	81.30 221,136,000	79.41 216,019,680	0.7 2051/3/20	1.08
26	第172回 利付国債 (20年) 日本	国債証券	230,700,000	88.29 203,694,528	87.14 201,043,515	0.4 2040/3/20	1.01
27	第176回 利付国債 (20年) 日本	国債証券	220,200,000	89.43 196,924,860	87.12 191,851,452	0.5 2041/3/20	0.96
28	第151回 利付国債 (20年) 日本	国債証券	174,100,000	106.58 185,564,512	103.42 180,062,925	1.2 2034/12/20	0.90
29	第34回 利付国債 (30年) 日本	国債証券	158,100,000	117.33 185,511,378	113.53 179,498,835	2.2 2041/3/20	0.90
30	第440回 利付国債 (2年) 日本	国債証券	175,100,000	100.08 175,243,967	100.08 175,243,967	0.005 2024/9/1	0.88

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

種類別及び業種別投資比率

2023年9月29日現在

種類	国内/外国	業種	投資比率 (%)
公社債券	国内	国債証券	93.22
	小計		93.22
合計 (対純資産総額比)			93.22

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

ニッセイ/パトナム・海外株式マザーファンド

2023年9月29日現在

順位	銘柄名 国/地域	種類 業種	株数、口数又は 額面金額	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	MICROSOFT CORP アメリカ	株式 ソフト ウェア・ サービス	49,700	36,558.65 1,816,964,971	46,914.27 2,331,639,278	— —	4.50
2	APPLE INC アメリカ	株式 テクノロジー・ ハード ウェアおよび機器	84,700	20,022.28 1,695,887,238	25,531.81 2,162,544,323	— —	4.18

3	NVIDIA CORP アメリカ	株式 半導体・ 半導体製 造装置	24,900	25,175.58 626,871,962	64,452.52 1,604,867,902	— —	3.10
4	AMAZON.COM INC アメリカ	株式 一般消費 財・サー ビス流 通・小売 り	84,100	13,040.01 1,096,665,649	18,844.08 1,584,787,834	— —	3.06
5	WALMART INC アメリカ	株式 生活必需 品流通・ 小売り	61,300	21,396.97 1,311,634,728	24,312.73 1,490,370,545	— —	2.88
6	VISA INC-CLASS A SHARES アメリカ	株式 金融サー ビス	38,500	30,766.37 1,184,505,418	34,651.70 1,334,090,557	— —	2.58
7	BOSTON SCIENTIFIC CORP アメリカ	株式 ヘルスケ ア機器・ サービス	164,800	6,907.24 1,138,314,270	7,983.08 1,315,612,342	— —	2.54
8	INGERSOLL-RAND INC アメリカ	株式 資本財	133,600	7,696.86 1,028,300,612	9,613.50 1,284,364,481	— —	2.48
9	CONSTELLATION ENERGY アメリカ	株式 公益事業	75,800	13,102.08 993,137,977	16,352.08 1,239,488,088	— —	2.39
10	ELI LILLY & CO アメリカ	株式 医薬品・ バイオテ クノロ ジー・ラ イフサイ エンス	14,400	53,745.35 773,933,132	81,438.83 1,172,719,166	— —	2.27
11	UNITEDHEALTH GROUP INC アメリカ	株式 ヘルスケ ア機器・ サービス	15,100	78,136.05 1,179,854,383	76,300.75 1,152,141,445	— —	2.23
12	CONSTELLATION SOFTWARE INC カナダ	株式 ソフト ウェア・ サービス	3,500	232,781.59 814,735,597	309,425.27 1,082,988,474	— —	2.09
13	ADOBE INC アメリカ	株式 ソフト ウェア・ サービス	13,800	50,931.05 702,848,569	75,488.53 1,041,741,832	— —	2.01
14	LINDE PLC アメリカ	株式 素材	17,500	49,532.01 866,810,190	55,866.63 977,666,098	— —	1.89
15	OTIS WORLDWIDE CORP アメリカ	株式 資本財	78,600	11,737.42 922,561,323	12,036.70 946,084,824	— —	1.83
16	NOVO-NORDISK A/S デンマーク	株式 医薬品・ バイオテ	68,216	9,775.05 666,815,117	13,805.28 941,741,321	— —	1.82

		クノ ロジー・ラ イフサイ エンス					
17	SALESFORCE INC アメリカ	株式 ソフト ウェア・ サービス	29,200	19,764.13 577,112,659	30,394.65 887,523,955	— —	1.71
18	REGENERON PHARMACEUTICALS アメリカ	株式 医薬品・ バイオテ クノロ ジー・ラ イフサイ エンス	6,755	108,071.87 730,025,502	124,834.98 843,260,293	— —	1.63
19	MERCK & CO INC アメリカ	株式 医薬品・ バイオテ クノロ ジー・ラ イフサイ エンス	52,500	16,377.74 859,831,707	15,601.19 819,062,685	— —	1.58
20	SANOFI フランス	株式 医薬品・ バイオテ クノロ ジー・ラ イフサイ エンス	51,442	14,384.46 739,965,711	15,920.07 818,960,755	— —	1.58
21	CITIGROUP INC アメリカ	株式 銀行	131,900	6,603.37 870,984,573	6,162.69 812,859,602	— —	1.57
22	THERMO FISHER SCIENTIFIC INC アメリカ	株式 医薬品・ バイオテ クノロ ジー・ラ イフサイ エンス	10,700	79,365.02 849,205,756	75,241.73 805,086,528	— —	1.56
23	BANK OF AMERICA CORP アメリカ	株式 銀行	194,000	4,787.83 928,840,432	4,122.42 799,750,411	— —	1.55
24	AXA SA フランス	株式 保険	178,412	4,161.04 742,379,880	4,479.29 799,160,871	— —	1.54
25	APPLIED MATERIALS INC アメリカ	株式 半導体・ 半導体製 造装置	37,100	15,694.01 582,248,023	20,674.94 767,040,555	— —	1.48
26	KERRY GROUP PLC-A アイルランド	株式 食品・飲 料・タバ コ	61,138	13,845.99 846,516,630	12,169.15 743,998,104	— —	1.44
27	GENERAL MOTORS CO	株式	147,300	5,309.59	4,960.07	—	1.41

	アメリカ	自動車・ 自動車部 品		782,103,692	730,618,723	—	
28	ROPER TECHNOLOGIES INC アメリカ	株式 ソフト ウェア・ サービス	10,000	63,491.31 634,913,197	72,918.75 729,187,542	—	1.41
29	JPMORGAN CHASE & CO アメリカ	株式 銀行	33,000	19,510.71 643,853,722	22,076.51 728,524,902	—	1.41
30	UNILEVER PLC イギリス	株式 家庭用 品・パー ソナル用 品	96,678	7,591.42 733,923,843	7,364.17 711,953,502	—	1.38

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

種類別及び業種別投資比率

2023年9月29日現在

種類	国内/外国	業種	投資比率 (%)
株式	外国	ソフトウェア・サービス	12.80
		医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	12.11
		資本財	7.65
		半導体・半導体製造装置	6.41
		ヘルスケア機器・サービス	5.86
		金融サービス	5.27
		保険	4.68
		銀行	4.52
		一般消費財・サービス流通・小売り	4.36
		テクノロジー・ハードウェアおよび機器	4.18
		生活必需品流通・小売り	4.04
		公益事業	3.95
		素材	3.61
		食品・飲料・タバコ	2.81
		耐久消費財・アパレル	2.35
		電気通信サービス	2.15
		メディア・娯楽	1.90
		自動車・自動車部品	1.41
		家庭用品・パーソナル用品	1.38
		商業・専門サービス	1.31
運輸	1.18		
消費者サービス	1.06		
	小計		94.99
投資証券	外国		1.95
	小計		1.95
合計 (対純資産総額比)			96.94

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。株式 (外国) の業種はG I C S分類 (産業グループ) によるものです。なお、G I C Sに関する知的財産所有権はS & P及びMSCI Inc. に帰属します。

ニッセイ/パトナム・海外債券マザーファンド

2023年9月29日現在

順位	銘柄名 国/地域	種類	株数、口数又は 額面金額	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	US TREASURY N/B	国債証	747,900,000	95.46	95.58	2	7.22

	アメリカ	券		713,945,340	714,910,131	2025/2/15	
2	US TREASURY N/B アメリカ	国債証 券	837,648,000	84.46 707,485,690	73.06 612,002,381	2.75 2042/8/15	6.18
3	US TREASURY N/B アメリカ	国債証 券	568,404,000	96.14 546,486,341	94.81 538,937,936	2.625 2026/1/31	5.44
4	US TREASURY N/B アメリカ	国債証 券	538,488,000	95.46 514,077,104	92.84 499,948,413	2.625 2027/5/31	5.05
5	US TREASURY N/B アメリカ	国債証 券	508,572,000	91.42 464,941,608	90.62 460,893,375	1.375 2026/8/31	4.65
6	US TREASURY N/B アメリカ	国債証 券	358,992,000	83.31 299,097,774	78.69 282,523,114	1.125 2031/2/15	2.85
7	BUONI POLIENNALI DEL TES イタリア	国債証 券	259,120,000	112.87 292,473,926	108.64 281,528,697	6.5 2027/11/1	2.84
8	GNMA TBA アメリカ	特殊債 券	299,160,000	92.39 276,401,636	89.93 269,049,546	4 2053/10/1	2.72
9	US TREASURY N/B アメリカ	国債証 券	396,387,000	77.31 306,470,572	63.67 252,415,277	2.375 2049/11/15	2.55
10	UNITED KINGDOM GILT イギリス	国債証 券	250,066,100	95.36 238,482,198	94.91 237,355,240	2 2025/9/7	2.40
11	BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND ドイツ	国債証 券	281,240,000	82.90 233,150,203	79.96 224,885,128	— 2031/8/15	2.27
12	UNITED KINGDOM GILT イギリス	国債証 券	257,367,300	90.77 233,627,740	78.39 201,765,668	3.25 2044/1/22	2.04
13	FRANCE (GOVT OF) フランス	国債証 券	243,320,000	81.67 198,738,909	78.96 192,130,338	— 2030/11/25	1.94
14	BUONI POLIENNALI DEL TES イタリア	国債証 券	214,880,000	81.26 174,623,685	79.26 170,333,227	1.65 2032/3/1	1.72
15	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO スペイン	国債証 券	150,100,000	111.66 167,603,161	106.81 160,327,814	5.15 2028/10/31	1.62
16	FRANCE (GOVT OF) フランス	国債証 券	164,320,000	95.36 156,708,697	95.27 156,557,523	0.5 2025/5/25	1.58
17	FRANCE (GOVT OF) フランス	国債証 券	153,260,000	101.23 155,149,695	97.99 150,188,669	2.75 2027/10/25	1.52
18	BUONI POLIENNALI DEL TES イタリア	国債証 券	137,460,000	98.93 135,994,676	98.29 135,119,056	2.5 2024/12/1	1.36
19	FNMA TBA アメリカ	特殊債 券	149,580,000	88.64 132,600,333	85.90 128,498,194	3.5 2053/10/1	1.30
20	GNMA TBA アメリカ	特殊債 券	149,580,000	86.64 129,602,889	84.79 126,828,882	3 2053/10/1	1.28
21	FRANCE (GOVT OF) フランス	国債証 券	116,920,000	121.85 142,467,020	107.90 126,157,849	4.5 2041/4/25	1.27
22	FNMA TBA アメリカ	特殊債 券	149,580,000	85.40 127,744,826	82.69 123,696,676	3 2053/10/1	1.25
23	BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND ドイツ	国債証 券	120,080,000	106.45 127,834,766	90.36 108,511,492	2.5 2044/7/4	1.10
24	BUONI POLIENNALI DEL TES イタリア	国債証 券	112,180,000	103.89 116,550,532	94.29 105,774,522	4.75 2044/9/1	1.07
25	MEX BONOS DESARR FIX RT メキシコ	国債証 券	113,186,768	95.41 108,001,682	91.09 103,108,618	7.5 2027/6/3	1.04
26	GNMA BX9597 アメリカ	特殊債 券	122,942,676	85.45 105,064,351	79.19 97,366,911	2 2051/1/1	0.98

27	BELGIUM KINGDOM ベルギー	国債証券	93,220,000	115.68 107,843,595	103.61 96,589,903	4.25 2041/3/28	0.98
28	ONTARIO (PROVINCE OF) カナダ	地方債証券	88,592,000	116.41 103,130,390	108.59 96,209,140	6.5 2029/3/8	0.97
29	BELGIUM KINGDOM ベルギー	国債証券	99,540,000	95.37 94,940,256	94.03 93,597,462	1 2026/6/22	0.95
30	REPUBLIC OF AUSTRIA オーストリア	国債証券	99,540,000	91.97 91,550,919	90.75 90,334,540	0.5 2027/4/20	0.91

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

種類別及び業種別投資比率

2023年9月29日現在

種類	国内/外国	業種	投資比率 (%)
公社債券	外国	国債証券	73.70
		特殊債券	12.35
		社債券	6.02
		地方債証券	1.71
	小計	93.78	
合 計 (対純資産総額比)			93.78

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

②【投資不動産物件】

該当事項はありません。

(参考)

ニッセイ国内株式マザーファンド

該当事項はありません。

ニッセイ国内債券マザーファンド

該当事項はありません。

ニッセイ/パトナム・海外株式マザーファンド

該当事項はありません。

ニッセイ/パトナム・海外債券マザーファンド

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(参考)

ニッセイ国内株式マザーファンド

2023年9月29日現在

種類	取引所	資産の名称	買建/ 売建	数量	簿価金額 (円)	評価金額 (円)	投資比率 (%)
株価指数先物 取引	大阪取引所	TOPIX先物 512月	買建	16	374,968,800	371,760,000	1.99

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 先物取引の時価は、原則として計算日に知りうる直近の日の主たる金融商品取引所等の発表する清算値段又は最終相場で評価しています。

ニッセイ国内債券マザーファンド

該当事項はありません。

ニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンド

該当事項はありません。

ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

① 【純資産の推移】

直近日（2023年9月末）、同日前1年以内における各月末及び下記計算期間末における純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配付) (円)
第25計算期間末 (2014年3月20日)	686,313,375	686,313,375	1.2187	1.2187
第26計算期間末 (2014年9月22日)	858,448,206	858,448,206	1.3214	1.3214
第27計算期間末 (2015年3月20日)	935,825,170	935,825,170	1.4772	1.4772
第28計算期間末 (2015年9月24日)	923,956,556	923,956,556	1.3922	1.3922
第29計算期間末 (2016年3月22日)	914,192,515	914,192,515	1.3468	1.3468
第30計算期間末 (2016年9月20日)	936,401,106	936,401,106	1.3117	1.3117
第31計算期間末 (2017年3月21日)	1,030,749,562	1,030,749,562	1.4660	1.4660
第32計算期間末 (2017年9月20日)	1,088,270,068	1,088,270,068	1.5448	1.5448
第33計算期間末 (2018年3月20日)	1,081,648,891	1,081,648,891	1.5545	1.5545
第34計算期間末 (2018年9月20日)	1,136,901,031	1,136,901,031	1.6349	1.6349
第35計算期間末 (2019年3月20日)	1,086,062,396	1,086,062,396	1.5674	1.5674
第36計算期間末 (2019年9月20日)	1,106,718,272	1,106,718,272	1.5850	1.5850
第37計算期間末 (2020年3月23日)	907,722,960	907,722,960	1.3239	1.3239
第38計算期間末 (2020年9月23日)	978,723,579	978,723,579	1.5516	1.5516
第39計算期間末 (2021年3月22日)	1,112,960,694	1,112,960,694	1.7565	1.7565
第40計算期間末 (2021年9月21日)	1,159,497,913	1,159,497,913	1.8220	1.8220
第41計算期間末 (2022年3月22日)	1,167,557,166	1,167,557,166	1.7861	1.7861
第42計算期間末	1,174,311,561	1,174,311,561	1.8492	1.8492

(2022年9月20日)				
第43計算期間末 (2023年3月20日)	1, 131, 963, 124	1, 131, 963, 124	1. 7856	1. 7856
第44計算期間末 (2023年9月20日)	1, 278, 795, 722	1, 278, 795, 722	2. 0290	2. 0290
2022年9月末日	1, 137, 917, 125	—	1. 7887	—
10月末日	1, 172, 542, 432	—	1. 8529	—
11月末日	1, 179, 972, 092	—	1. 8493	—
12月末日	1, 135, 508, 915	—	1. 7793	—
2023年1月末日	1, 153, 881, 359	—	1. 8077	—
2月末日	1, 168, 531, 899	—	1. 8339	—
3月末日	1, 167, 059, 258	—	1. 8355	—
4月末日	1, 183, 968, 056	—	1. 8681	—
5月末日	1, 196, 301, 431	—	1. 8998	—
6月末日	1, 258, 503, 222	—	1. 9953	—
7月末日	1, 262, 314, 449	—	1. 9977	—
8月末日	1, 280, 607, 181	—	2. 0211	—
9月末日	1, 260, 739, 663	—	1. 9972	—

②【分配の推移】

	1口当たりの分配金（円）
第25計算期間	0. 0000
第26計算期間	0. 0000
第27計算期間	0. 0000
第28計算期間	0. 0000
第29計算期間	0. 0000
第30計算期間	0. 0000
第31計算期間	0. 0000
第32計算期間	0. 0000
第33計算期間	0. 0000
第34計算期間	0. 0000
第35計算期間	0. 0000
第36計算期間	0. 0000
第37計算期間	0. 0000
第38計算期間	0. 0000
第39計算期間	0. 0000
第40計算期間	0. 0000
第41計算期間	0. 0000
第42計算期間	0. 0000
第43計算期間	0. 0000
第44計算期間	0. 0000

③【収益率の推移】

	収益率 (%)
第25計算期間	1.4
第26計算期間	8.4
第27計算期間	11.8
第28計算期間	△5.8
第29計算期間	△3.3
第30計算期間	△2.6
第31計算期間	11.8
第32計算期間	5.4
第33計算期間	0.6
第34計算期間	5.2
第35計算期間	△4.1
第36計算期間	1.1
第37計算期間	△16.5
第38計算期間	17.2
第39計算期間	13.2
第40計算期間	3.7
第41計算期間	△2.0
第42計算期間	3.5
第43計算期間	△3.4
第44計算期間	13.6

(注) 各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落の額）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じて得た数により算出しています（第1計算期間については、前期末基準価額の代わりに、設定時の基準価額を用います。）。

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済数量
第25計算期間	36,080,857	22,433,393	563,153,368
第26計算期間	106,841,433	20,345,205	649,649,596
第27計算期間	34,671,310	50,794,652	633,526,254
第28計算期間	60,190,542	30,059,385	663,657,411
第29計算期間	31,192,171	16,053,185	678,796,397
第30計算期間	55,479,803	20,389,661	713,886,539
第31計算期間	35,319,541	46,090,522	703,115,558
第32計算期間	37,887,645	36,526,288	704,476,915
第33計算期間	31,073,478	39,737,651	695,812,742
第34計算期間	23,269,880	23,706,050	695,376,572
第35計算期間	27,830,778	30,282,830	692,924,520
第36計算期間	29,265,449	23,950,289	698,239,680
第37計算期間	33,968,703	46,553,463	685,654,920
第38計算期間	96,337,883	151,218,174	630,774,629
第39計算期間	23,721,982	20,861,022	633,635,589
第40計算期間	28,374,444	25,626,420	636,383,613
第41計算期間	35,146,615	17,839,830	653,690,398
第42計算期間	21,395,215	40,062,874	635,022,739
第43計算期間	23,883,094	24,960,153	633,945,680
第44計算期間	27,738,587	31,439,471	630,244,796

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

3.運用実績

2023年9月末現在

●基準価額・純資産の推移



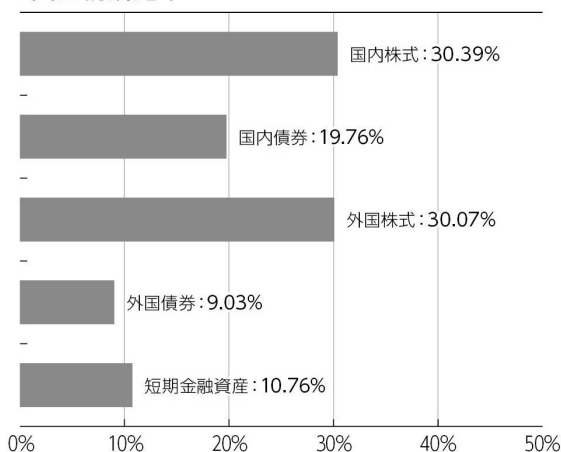
・基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後のものです。
 ・税引前分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。

基準価額	19,972円
純資産総額	12億円

●分配の推移 1万口当り(税引前)

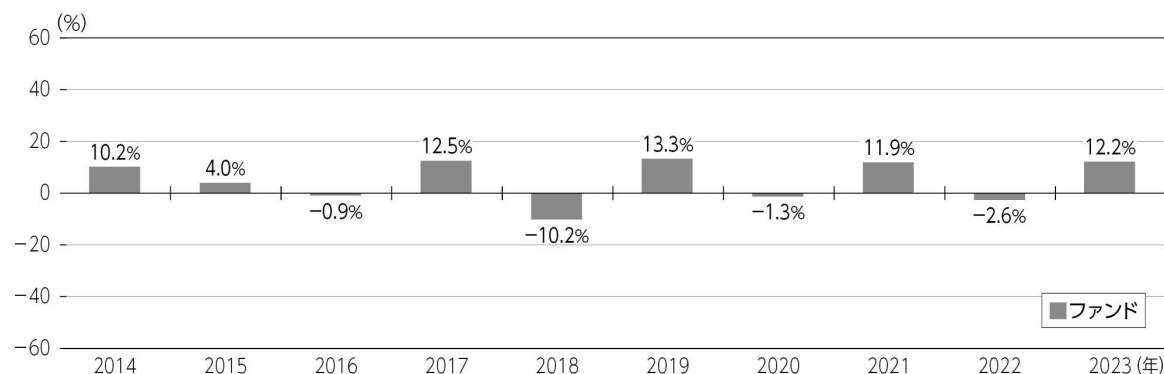
2021年 9月	0円
2022年 3月	0円
2022年 9月	0円
2023年 3月	0円
2023年 9月	0円
直近1年間累計	0円
設定来累計	0円

●資産構成比率



・比率(当ファンドにおける実質組入比率)は対純資産総額比です。

●年間収益率の推移



・ファンドにはベンチマークはありません。
 ・ファンド収益率は分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。
 ・2023年は年始から上記作成基準日までの収益率です。

■ファンドの運用実績は、あくまで過去の実績であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
 最新の基準価額および純資産総額等については、委託会社のホームページでご確認いただけます。

●マザーファンドの状況

1. ニッセイ国内株式マザーファンド

組入上位銘柄

	銘柄	比率
1	トヨタ自動車	4.1%
2	ソニーグループ	3.5%
3	日本電信電話	3.3%
4	三菱UFJフィナンシャル・グループ	3.0%
5	三井住友フィナンシャルグループ	2.5%

・比率は対組入株式評価額比です。

2. ニッセイ国内債券マザーファンド

組入上位銘柄

	銘柄	償還日	クーポン	比率
1	第146回 利付国債(5年)	2025/12/20	0.100%	5.5%
2	第346回 利付国債(10年)	2027/03/20	0.100%	5.4%
3	第356回 利付国債(10年)	2029/09/20	0.100%	4.5%
4	第363回 利付国債(10年)	2031/06/20	0.100%	4.4%
5	第447回 利付国債(2年)	2025/04/01	0.005%	3.9%

・比率は対組入債券評価額比です。

3. ニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンド

組入上位銘柄

	銘柄	国・地域	業種	比率
1	マイクロソフト	アメリカ	情報技術	4.6%
2	アップル	アメリカ	情報技術	4.3%
3	エヌビディア	アメリカ	情報技術	3.2%
4	アマゾン・ドット・コム	アメリカ	一般消費財・サービス	3.2%
5	ウォルマート	アメリカ	生活必需品	3.0%

・国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

・業種はGICS分類(セクター)によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。

・比率は対組入株式等評価額比です。

4. ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド

組入上位銘柄

	銘柄	国・地域	償還日	クーポン	比率
1	アメリカ国債	アメリカ	2025/02/15	2.000%	7.2%
2	アメリカ国債	アメリカ	2042/08/15	2.750%	6.2%
3	アメリカ国債	アメリカ	2026/01/31	2.625%	5.4%
4	アメリカ国債	アメリカ	2027/05/31	2.625%	5.0%
5	アメリカ国債	アメリカ	2026/08/31	1.375%	4.7%

・比率は対純資産総額比です。

組入上位業種

	業種	比率
1	電気機器	14.7%
2	輸送用機器	11.9%
3	サービス業	9.3%
4	銀行業	7.4%
5	化学	6.6%

・比率は対組入株式評価額比です。

組入債券種別

	種別	比率
	日本国債	100.0%
	その他	—

・比率は対組入債券評価額比です。

組入上位国・地域

	国・地域	比率
1	アメリカ	76.5%
2	フランス	5.4%
3	カナダ	4.2%
4	イギリス	3.9%
5	オランダ	2.8%

・国・地域はパトナム社の分類によるものです。

・比率は対組入株式等評価額比です。

組入上位国・地域

	国・地域	比率
1	アメリカ	48.2%
2	フランス	8.0%
3	イタリア	7.4%
4	イギリス	5.5%
5	スペイン	4.6%

・比率は対純資産総額比です。

■ファンドの運用実績は、あくまで過去の実績であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

最新の基準価額および純資産総額等については、委託会社のホームページでご確認いただけます。

第 2 【管理及び運営】

1 【申込（販売）手続等】

① 申込受付

販売会社において、原則として毎営業日に申込みの受付けを行います。

原則として午後 3 時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。

証券取引所の取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、申込みの受付けを中止することおよび既に受付けた申込みの受付けを取消すことがあります。

② 取扱コース

分配金の受取方法により、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」の 2 つのコースがあります（販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります）。

分配金再投資コースを選択した場合、販売会社と「自動けいぞく（累積）投資契約」（同様の権利義務を規定する名称の異なる契約または規定も含まれます）を締結します。

③ 申込単位

1 円以上 1 円単位とします。

④ 申込価額（発行価額）

取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

⑤ 販売価額

申込価額と同額とします。

収益分配金を再投資する場合は、各計算期間終了日の基準価額とします。

⑥ 申込手数料

ありません。

⑦ その他

1. ファンドの取得申込者は、販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。

2. 詳細については、販売会社にお問合せください。なお、販売会社については、委託会社にお問合せください。

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

(9:00~17:00 土日祝日・年末年始を除く)

2 【換金（解約）手続等】

① 換金受付

販売会社において、原則として毎営業日に換金の受付けを行います。

原則として午後 3 時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。

証券取引所の取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、換金の受付けを中止することがあります。

② 換金単位

1 口単位とします。

③ 換金価額

換金請求受付日の翌営業日の基準価額とします。

○ 換金手数料はありません。

④ 信託財産留保額

ありません。

- ⑤ 支払開始日
換金請求受付日から起算して、原則として5営業日目からお支払いします。
- ⑥ その他
1. 受益者が解約請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行います。委託会社は、解約請求を受付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。なお、解約請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該解約にかかる受益権口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。
 2. 換金請求の受付が中止された場合には、受益者は当該中止以前に行った当日の換金請求を撤回することができます。ただし、受益者が換金請求を撤回しない場合には、当該受益権の換金価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に換金請求を受付けたものとして前記③の規定に準じて算出した価額とします。
 3. 詳細については、販売会社にお問合せください。なお、販売会社については、委託会社にお問合せください。
ニッセイアセットマネジメント株式会社
コールセンター 0120-762-506
(9:00~17:00 土日祝日・年末年始を除く)

3 【資産管理等の概要】

(1) 【資産の評価】

- ① 基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を差引いた金額（「純資産総額」といいます）を計算日の受益権総口数で割った金額をいいます。

- ② ファンドおよびマザーファンドの主な投資資産の評価方法の概要は以下の通りです。

主な投資資産	評価方法の概要
マザーファンド	計算日の基準価額で評価します。
国内株式	証券取引所における計算日の最終相場で評価します。
国内債券	価格情報会社の提供する価額等（新株予約権付社債は、証券取引所における計算日の最終相場）で評価します。ただし、償還までの残存期間が1年以内の債券については、償却原価法で評価します。
外国株式	証券取引所における計算日に知りうる直近の日の最終相場で評価します。
外国債券	価格情報会社の提供する価額等で評価します。
国内株式先物取引	証券取引所の発表する計算日の清算値段で評価します。
国内債券先物取引	証券取引所の発表する計算日の清算値段で評価します。

- ③ 外貨建資産（外国通貨表示の有価証券、預金その他の資産をいいます）の円換算については、原則として国内における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。
- ④ 予約為替の評価は、原則として国内における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。
- ⑤ 基準価額は、原則として委託会社の毎営業日に計算されます。
- ⑥ 基準価額につきましては、販売会社または委託会社にお問合せください。また、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

なお、委託会社へは以下にお問合せください。

ニッセイアセットマネジメント株式会社
コールセンター 0120-762-506
(9:00~17:00 土日祝日・年末年始を除く)

(2) 【保管】

該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

無期限です。

(4) 【計算期間】

毎年3月21日から9月20日まで、9月21日から翌年3月20日までとします。

上記にかかわらず、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日はファンドの償還日とします。

(5) 【その他】

① 繰上償還

1. 委託会社は、信託期間中において、下記の理由により、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、ファンドを終了させることができます。この場合、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
 - i. この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき
 - ii. やむを得ない事情が発生したとき
2. 委託会社は、前記1. により解約するときには、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をファンドの知られたる受益者に対して交付します。ただし、ファンドのすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
3. 前記2. の公告および書面には、異議のある受益者は一定の期間内に委託会社に対して異議を申立てることができる旨を付記します。なお、一定の期間は1ヵ月以上設けるものとします。
4. 前記3. の一定の期間内に異議を申立てた受益者の受益権口数が受益権総口数の2分の1を超えるときは、前記1. の信託契約の解約をしません。
5. 委託会社は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をファンドの知られたる受益者に対して交付します。ただし、ファンドのすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
6. 前記3. から5. までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記3. の一定の期間を1ヵ月以上設けることが困難な場合には適用しません。
7. 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、この信託契約を解約しファンドを終了させます。
8. 委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社はこの信託契約を解約し、ファンドを終了させます。ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、ファンドは、後記「② 約款の変更 4. 」に該当する場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社の間において存続します。
9. 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社がその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は後記「② 約款の変更」の規定にしたがい、新受託会社を選任します。なお、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、ファンドを終了させます。
10. 償還金については、原則として償還日から起算して5営業日目（償還日が休業日の場合には翌営業日から起算して5営業日目）までにお支払いします。

② 約款の変更

1. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、約款を変更することができます。この場合、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。
2. 委託会社は、前記1. の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をファンドの知られたる受益者に対して交付します。ただし、ファンドのすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
3. 前記2. の公告および書面には、異議のある受益者は一定の期間内に委託会社に対して異議を申立てることができる旨を付記します。なお、一定の期間は1ヵ月以上設けるものとします。
4. 前記3. の一定の期間内に異議を申立てた受益者の受益権口数が受益権総口数の2分の1を超えるときは、前記1. の約款の変更をしません。
5. 委託会社は、当該約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をファンドの知られたる受益者に対して交付します。ただし、ファンドのすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
6. 委託会社は、監督官庁の命令に基づいて約款を変更しようとするときは前記1. から5. の規定にしたがいます。

③ 反対者の買取請求権

前記「① 繰上償還」に規定する信託契約の解約または前記「② 約款の変更」に規定する約款の変更を行う場合において、「① 繰上償還 3.」または「② 約款の変更 3.」の一定の期間内に委託会社に対して異議を申立てた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権の買取りを請求することができます。ただし、当該買取請求の取扱いについては、委託会社、受託会社および販売会社の協議により決定します。

④ 公告

電子公告により行い、委託会社のホームページ (<https://www.nam.co.jp/>) に掲載します。

- 電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

⑤ 運用報告書の作成

委託会社は、ファンドの計算期間の末日毎および償還時に期間中の運用経過のほか信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した運用報告書を作成します。

- ・交付運用報告書は、販売会社を通じてファンドの知られたる受益者に交付します。
- ・運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページ (<https://www.nam.co.jp/>) に掲載します。ただし、受益者から運用報告書（全体版）の交付の請求があった場合には、交付します。

⑥ 信託事務処理の再信託

受託会社は、ファンドにかかる信託事務の処理の一部について、日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。

⑦ 関係法人との契約の更改等に関する手続き

委託会社と販売会社との間で締結された「受益権の募集・販売の取扱等に関する契約」は、契約期間満了の3ヵ月前までに委託会社、販売会社いずれかにより別段の意思表示がない限り、1年毎に自動更新されます。

委託会社と投資顧問会社との間で締結された「運用の再委託に関する契約」は、委託会社、投資顧問会社いずれかにより別段の意思表示がない限り、ファンドの償還日まで存続するものとします。

4 【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は以下の通りです。

(1) 収益分配金に対する請求権

受益者には、委託会社の決定した収益分配金を持分に応じて請求する権利があります。

分配金受取コースの場合、原則として決算日から起算して5営業日目までに販売会社において支払いを開始します。ただし、受益者が、収益分配金について支払開始日から5年間支払いを請求しないときは、その権利を失います。

分配金再投資コースの場合、自動的に再投資されます。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

(2) 償還金に対する請求権

受益者には、持分に応じて償還金を請求する権利があります。原則として償還日から起算して5営業日目（償還日が休業日の場合には翌営業日から起算して5営業日目）までに販売会社において支払いを開始します。ただし、受益者が、償還金について支払開始日から10年間支払いを請求しないときは、その権利を失います。

(3) 解約請求権

受益者には、持分に応じて解約請求する権利があります。権利行使の方法等については、前記「2 換金（解約）手続等」の項をご参照ください。

(4) 帳簿閲覧権

受益者は委託会社に対し、その営業時間内にファンドの信託財産に関する法令で定められた帳簿書類の閲覧を請求することができます。

(5) 反対者の買取請求権

前記「3 資産管理等の概要 (5) その他 ③ 反対者の買取請求権」の項をご参照ください。

第3【ファンドの経理状況】

1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

2) 当ファンドの計算期間は6か月であるため、財務諸表は6か月ごとに作成しております。

3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第44期計算期間（2023年3月21日から2023年9月20日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

独立監査人の監査報告書

2023年12月18日

ニッセイアセットマネジメント株式会社

取締役 会 御中

有限責任監査法人 トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 百瀬和政
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているDCニッセイバランスアクティブの2023年3月21日から2023年9月20日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、DCニッセイバランスアクティブの2023年9月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、ニッセイアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

ニッセイアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- ※ 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（ニッセイアセットマネジメント株式会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれておりません。

1 【財務諸表】

【DCニッセイバランスアクティブ】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第43期 2023年3月20日現在	第44期 2023年9月20日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	607,301	589,949
コール・ローン	100,643,285	97,086,971
親投資信託受益証券	1,027,630,376	1,177,140,349
未収入金	11,342,511	12,835,322
流動資産合計	1,140,223,473	1,287,652,591
資産合計	1,140,223,473	1,287,652,591
負債の部		
流動負債		
未払受託者報酬	630,730	676,341
未払委託者報酬	7,569,148	8,116,623
その他未払費用	60,471	63,905
流動負債合計	8,260,349	8,856,869
負債合計	8,260,349	8,856,869
純資産の部		
元本等		
元本	633,945,680	630,244,796
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金(△)	498,017,444	648,550,926
(分配準備積立金)	299,330,648	396,728,862
元本等合計	1,131,963,124	1,278,795,722
純資産合計	1,131,963,124	1,278,795,722
負債純資産合計	1,140,223,473	1,287,652,591

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第43期		第44期	
	自	2022年9月21日	自	2023年3月21日
	至	2023年3月20日	至	2023年9月20日
営業収益				
受取利息		1,254		994
有価証券売買等損益		△32,154,466		162,564,363
営業収益合計		△32,153,212		162,565,357
営業費用				
支払利息		26,558		26,368
受託者報酬		630,730		676,341
委託者報酬		7,569,148		8,116,623
その他費用		61,324		64,706
営業費用合計		8,287,760		8,884,038
営業利益又は営業損失(△)		△40,440,972		153,681,319
経常利益又は経常損失(△)		△40,440,972		153,681,319
当期純利益又は当期純損失(△)		△40,440,972		153,681,319
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額(△)		△686,306		3,979,714
期首剰余金又は期首欠損金(△)		539,288,822		498,017,444
剰余金増加額又は欠損金減少額		19,666,793		25,616,298
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		—		—
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		19,666,793		25,616,298
剰余金減少額又は欠損金増加額		21,183,505		24,784,421
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		21,183,505		24,784,421
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		—		—
分配金		—		—
期末剰余金又は期末欠損金(△)		498,017,444		648,550,926

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第44期	
	自 2023年3月21日	至 2023年9月20日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。	

(貸借対照表に関する注記)

項目	第43期	第44期
	2023年3月20日現在	2023年9月20日現在
1. 期首元本額	635,022,739円	633,945,680円
期中追加設定元本額	23,883,094円	27,738,587円
期中一部解約元本額	24,960,153円	31,439,471円
2. 受益権の総数	633,945,680口	630,244,796口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	第43期	第44期
	自 2022年9月21日 至 2023年3月20日	自 2023年3月21日 至 2023年9月20日
1. 分配金の計算過程	計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(440,005,945円)及び分配準備積立金(299,330,648円)より分配対象収益は739,336,593円(1万口当たり11,662.46円)のため、基準価額の水準、市場動向等を勘案して分配は見送り(0円)としております。	計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(111,876,440円)、収益調整金(450,167,245円)及び分配準備積立金(284,852,422円)より分配対象収益は846,896,107円(1万口当たり13,437.57円)のため、基準価額の水準、市場動向等を勘案して分配は見送り(0円)としております。
2. 委託費用	投資信託財産の運用の指図に係る権限の一部を委託するために要する費用 942,808円	投資信託財産の運用の指図に係る権限の一部を委託するために要する費用 1,025,492円

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

項目	第43期	第44期
	自 2022年9月21日 至 2023年3月20日	自 2023年3月21日 至 2023年9月20日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。親投資信託受益証券の価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等のリスクに晒されております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	取引の執行・管理については、投資信託及び投資法人に関する法律及び同施行規則、投資信託協会の諸規則、信託約款、取引権限及び管理体制等を定めた社内規則に従い、運用部門が決裁担当者の承認を得て行っております。また、リスク管理部門が日々遵守状況を確認し、市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等のモニターを行い、問題があると判断した場合は速やかに対応できる体制となっております。	同左

2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	第43期 2023年3月20日現在	第44期 2023年9月20日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。	同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	第43期 2023年3月20日現在	第44期 2023年9月20日現在
	当期の 損益に含まれた 評価差額(円)	当期の 損益に含まれた 評価差額(円)
親投資信託受益証券	△26,315,366	120,988,968
合計	△26,315,366	120,988,968

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報に関する注記)

	第43期 2023年3月20日現在	第44期 2023年9月20日現在
1口当たり純資産額	1,7856円	2,0290円
(1万口当たり純資産額)	(17,856円)	(20,290円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

2023年9月20日現在

種類	銘柄	券面総額 (円)	評価額 (円)	備考
親投資信託受益証券	ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド	37,157,658	122,248,694	
	ニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンド	90,043,604	367,188,812	
	ニッセイ国内債券マザーファンド	192,996,167	267,897,979	
	ニッセイ国内株式マザーファンド	221,837,278	419,804,864	
親投資信託受益証券	合計	542,034,707	1,177,140,349	
合計			1,177,140,349	

(注) 親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)

当ファンドは、「ニッセイ国内株式マザーファンド」受益証券、「ニッセイ国内債券マザーファンド」受益証券、「ニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンド」受益証券及び「ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同親投資信託の受益証券であります。

開示対象ファンドの開示対象期間末日（以下、「計算日」という。）における同親投資信託の状況は以下の通りであります。それらは監査意見の対象外であります。

ニッセイ国内株式マザーファンド
貸借対照表

(単位：円)

2023年9月20日現在	
資産の部	
流動資産	
金銭信託	1,910,369
コール・ローン	314,386,310
株式	18,879,659,840
派生商品評価勘定	1,475,600
未収入金	67,518,030
未収配当金	9,220,882
差入委託証拠金	7,680,000
流動資産合計	19,281,851,031
資産合計	19,281,851,031
負債の部	
流動負債	
前受金	3,360,000
未払金	66,605,362
未払解約金	39,423,223
その他未払費用	259
流動負債合計	109,388,844
負債合計	109,388,844
純資産の部	
元本等	
元本	10,131,298,118
剰余金	
剰余金又は欠損金(△)	9,041,164,069
元本等合計	19,172,462,187
純資産合計	19,172,462,187
負債純資産合計	19,281,851,031

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	自 2023年3月21日 至 2023年9月20日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所等における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	先物取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、計算日に知りうる直近の日の主たる金融商品取引所等の発表する清算値段又は最終相場によっております。
3. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を、未だ確定していない場合には予想配当金額を計上し、残額については入金時に計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	2023年9月20日現在
1. 本報告書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額	10,936,447,557円
同期中追加設定元本額	671,935,539円
同期中一部解約元本額	1,477,084,978円
元本の内訳	
ファンド名	
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（債券重視型）	125,358,503円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（標準型）	224,705,656円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（株式重視型）	124,341,375円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（標準型）VA（適格機関投資家専用）	20,966,021円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（債券重視型）SA（適格機関投資家限定）	307,232,203円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（標準型）SA（適格機関投資家限定）	1,275,122,304円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（株式重視型）SA（適格機関投資家限定）	743,065,878円
DCニッセイ／パトナム・グローバルバランス（債券重視型）	692,179,689円
DCニッセイ／パトナム・グローバルバランス（標準型）	3,075,712,814円
DCニッセイ／パトナム・グローバルバランス（株式重視型）	2,886,463,131円
DCニッセイ国内株式アクティブ	348,807,328円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（成長型）SA（適格機関投資家限定）	85,505,938円
DCニッセイバランスアクティブ	221,837,278円
計	10,131,298,118円
2. 受益権の総数	10,131,298,118口
3. 差入代用有価証券 株式	260,200,000円

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

項目	自 2023年3月21日 至 2023年9月20日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。これらは、価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等のリスクに晒されております。 また、当ファンドの利用しているデリバティブ取引は、株価指数先物取引であります。当該デリバティブ取引は、信託財産が運用対象とする資産の価格変動リスクの低減及び信託財産に属する資産の効率的な運用に資する事を目的として行っており、株価の変動によるリスクを有しております。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	取引の執行・管理については、投資信託及び投資法人に関する法律及び同施行規則、投資信託協会の諸規則、信託約款、取引権限及び管理体制等を定めた社内規則に従い、運用部門が決裁担当者の承認を得て行っております。また、リスク管理部門が日々遵守状況を確認し、市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等のモニターを行い、問題があると判断した場合は速やかに対応できる体制となっております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	2023年9月20日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。 (2)デリバティブ取引 「(デリバティブ取引等に関する注記)」にて記載しております。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでも名目的な契約額または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	2023年9月20日現在	
	当期間の 損益に含まれた 評価差額 (円)	
株式	2,859,122,159	
合計	2,859,122,159	

(注) 「当期間の損益に含まれた評価差額」は、当該親投資信託の計算期間開始日から開示対象ファンドの期末日までの期間 (2022年12月21日から2023年9月20日まで) に対応する金額であります。

(デリバティブ取引等に関する注記)

株式関連

種類	2023年9月20日現在			評価損益 (円)
	契約額等 (円)	うち 1年超	時価 (円)	
市場取引 先物取引 買建	189,640,000	—	191,120,000	1,480,000
合計	189,640,000	—	191,120,000	1,480,000

(注) 株価指数先物取引

1. 時価の算定方法

株価指数先物取引の時価については、以下のように評価しております。

原則として計算日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。

2. 株価指数先物取引の残高表示は、契約額によっております。想定元本ベースではありません。

3. 評価損益は契約額等と時価の差額であります。なお、契約額等には手数料相当額を含んでおりません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報に関する注記)

	2023年9月20日現在
1口当たり純資産額	1,892,24円
(1万口当たり純資産額)	(18,924円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

2023年9月20日現在

銘柄	株式数	評価額 (円)		備考
		単価	金額	
日揮ホールディングス	125,800	2,197.50	276,445,500	
日本M&Aセンターホールディングス	148,200	749.10	111,016,620	
総合警備保障	347,200	924.30	320,916,960	
エムスリー	54,100	2,781.00	150,452,100	
サントリー食品インターナショナル	57,300	4,682.00	268,278,600	
サンエー	31,000	4,830.00	149,730,000	
ジンズホールディングス	56,400	3,105.00	175,122,000	
セブン&アイ・ホールディングス	42,500	6,133.00	260,652,500	
帝人	126,200	1,550.00	195,610,000	

東レ	396,500	823.70	326,597,050	
三菱ケミカルグループ	287,400	966.50	277,772,100	
KHネオケム	109,100	2,374.00	259,003,400	
積水化学工業	126,700	2,243.50	284,251,450	
花王	75,400	5,583.00	420,958,200	
武田薬品工業	31,700	4,820.00	152,794,000	
日本新薬	54,800	6,503.00	356,364,400	
参天製薬	255,100	1,397.50	356,502,250	
H. U. グループホールディングス	86,900	2,636.50	229,111,850	
栄研化学	38,900	1,401.00	54,498,900	
パーク24	55,000	1,928.50	106,067,500	
TOYO TIRE	114,700	2,357.50	270,405,250	
太平洋セメント	110,400	2,804.00	309,561,600	
丸一鋼管	68,400	3,744.00	256,089,600	
UACJ	40,100	3,305.00	132,530,500	
リンナイ	52,100	2,825.50	147,208,550	
ユニプレス	162,500	1,244.00	202,150,000	
日立製作所	44,300	9,887.00	437,994,100	
三菱電機	175,600	1,913.50	336,010,600	
マキタ	69,300	3,928.00	272,210,400	
マブチモーター	80,800	4,533.00	366,266,400	
ニデック	53,600	7,160.00	383,776,000	
エレコム	96,000	1,769.00	169,824,000	
パナソニック ホールディングス	194,400	1,774.00	344,865,600	
ソニーグループ	51,800	12,600.00	652,680,000	
デンソー	32,600	10,385.00	338,551,000	
IHI	104,300	3,185.00	332,195,500	
全国保証	43,200	4,981.00	215,179,200	
トヨタ自動車	282,200	2,799.00	789,877,800	
日野自動車	451,800	598.20	270,266,760	
武蔵精密工業	61,100	1,687.00	103,075,700	
スズキ	48,900	6,136.00	300,050,400	
SUBARU	91,900	3,030.00	278,457,000	
小糸製作所	34,600	2,368.50	81,950,100	
良品計画	155,800	1,927.50	300,304,500	
シークス	69,500	1,549.00	107,655,500	
トプコン	141,900	1,770.50	251,233,950	
朝日インテック	84,400	2,781.00	234,716,400	
三菱商事	56,800	7,601.00	431,736,800	
丸井グループ	117,500	2,581.00	303,267,500	
PALTAC	31,900	4,794.00	152,928,600	
三菱UFJフィナンシャル・グループ	435,900	1,301.00	567,105,900	代用有価証券 200,000株
三井住友フィナンシャルグループ	61,100	7,621.00	465,643,100	
千葉銀行	178,800	1,128.50	201,775,800	
ふくおかフィナンシャルグループ	41,500	3,754.00	155,791,000	
野村ホールディングス	195,500	644.40	125,980,200	
MS&ADインシュアランスグループ ホールディングス	33,900	5,757.00	195,162,300	
T&Dホールディングス	69,500	2,528.50	175,730,750	

三菱地所	72,800	2,036.00	148,220,800
リログループ	90,100	1,594.00	143,619,400
西日本旅客鉄道	46,900	6,591.00	309,117,900
西武ホールディングス	124,000	1,521.50	188,666,000
山九	29,900	5,384.00	160,981,600
日本航空	127,000	2,973.00	377,571,000
日本電信電話	3,461,500	180.60	625,146,900
KDDI	30,300	4,740.00	143,622,000
東京瓦斯	47,300	3,520.00	166,496,000
エイチ・アイ・エス	180,800	1,803.00	325,982,400
東京都競馬	72,900	3,995.00	291,235,500
イオンディライト	44,600	3,290.00	146,734,000
ミスミグループ本社	93,200	2,452.50	228,573,000
ソフトバンクグループ	35,800	6,462.00	231,339,600
合計	11,101,900		18,879,659,840

(2) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「(デリバティブ取引等に関する注記)」にて記載しております。

ニッセイ国内債券マザーファンド
貸借対照表

(単位：円)

2023年9月20日現在

資産の部	
流動資産	
金銭信託	12,849,292
コール・ローン	2,114,587,367
国債証券	18,301,499,977
未収入金	511,272,004
未収利息	9,885,525
前払費用	2,438,096
流動資産合計	20,952,532,261
資産合計	20,952,532,261
負債の部	
流動負債	
未払金	909,949,408
未払解約金	22,861,315
その他未払費用	1,418
流動負債合計	932,812,141
負債合計	932,812,141
純資産の部	
元本等	
元本	14,422,482,242
剰余金	
剰余金又は欠損金(△)	5,597,237,878
元本等合計	20,019,720,120
純資産合計	20,019,720,120
負債純資産合計	20,952,532,261

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	自 2023年3月21日 至 2023年9月20日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。ただし、買付後の最初の利払日までは個別法に基づいております。</p> <p>時価評価にあたっては、価格情報会社の提供する価額等で評価しております。ただし、償還までの残存期間が1年以内の債券については、償却原価法によっております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	2023年9月20日現在
1. 本報告書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額	13,429,126,936円
同期中追加設定元本額	2,050,262,954円
同期中一部解約元本額	1,056,907,648円
元本の内訳	
ファンド名	
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（債券重視型）	459,813,404円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（標準型）	352,586,657円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（株式重視型）	60,994,462円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（標準型）VA（適格機関投資家専用）	32,857,027円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（債券重視型）SA（適格機関投資家限定）	1,126,627,557円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（標準型）SA（適格機関投資家限定）	2,000,486,053円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（株式重視型）SA（適格機関投資家限定）	364,770,723円
DCニッセイ／パトナム・グローバルバランス（債券重視型）	2,539,066,811円
DCニッセイ／パトナム・グローバルバランス（標準型）	4,825,240,930円
DCニッセイ／パトナム・グローバルバランス（株式重視型）	1,417,006,264円
DCニッセイ国内債券アクティブ	989,477,948円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（成長型）SA（適格機関投資家限定）	60,558,239円
DCニッセイバランスアクティブ	192,996,167円
計	14,422,482,242円
2. 受益権の総数	14,422,482,242口

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

項目	自 2023年3月21日 至 2023年9月20日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。これらは、価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等のリスクに晒されております。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	取引の執行・管理については、投資信託及び投資法人に関する法律及び同施行規則、投資信託協会の諸規則、信託約款、取引権限及び管理体制等を定めた社内規則に従い、運用部門が決裁担当者の承認を得て行っております。また、リスク管理部門が日々遵守状況を確認し、市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等のモニターを行い、問題があると判断した場合は速やかに対応できる体制となっております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	2023年9月20日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	2023年9月20日現在	
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)	
国債証券	△208,243,904	
合計	△208,243,904	

(注)「当期間の損益に含まれた評価差額」は、当該親投資信託の計算期間開始日から開示対象ファンドの期末日までの期間(2022年12月21日から2023年9月20日まで)に対応する金額であります。

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報に関する注記)

	2023年9月20日現在
1口当たり純資産額	1,388円
(1万口当たり純資産額)	(13,881円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

2023年9月20日現在

種類	銘柄	券面総額(円)	評価額(円)	備考
国債証券	第433回 利付国債(2年)	165,000,000	165,042,009	
	第437回 利付国債(2年)	61,000,000	61,059,648	

第438回 利付国債(2年)	297,100,000	297,411,767	
第439回 利付国債(2年)	51,400,000	51,444,400	
第440回 利付国債(2年)	175,100,000	175,247,783	
第442回 利付国債(2年)	533,900,000	534,284,408	
第443回 利付国債(2年)	3,200,000	3,202,080	
第446回 利付国債(2年)	165,800,000	165,871,294	
第447回 利付国債(2年)	731,000,000	731,219,300	
第449回 利付国債(2年)	40,800,000	40,803,264	
第451回 利付国債(2年)	134,200,000	134,186,580	
第452回 利付国債(2年)	769,000,000	768,769,300	
第143回 利付国債(5年)	8,000,000	8,014,320	
第146回 利付国債(5年)	1,030,700,000	1,032,318,199	
第151回 利付国債(5年)	394,400,000	392,684,360	
第156回 利付国債(5年)	298,500,000	298,371,645	
第1回 利付国債(40年)	7,900,000	9,290,005	
第7回 利付国債(40年)	2,100,000	2,138,640	
第8回 利付国債(40年)	3,400,000	3,210,518	
第12回 利付国債(40年)	23,900,000	16,492,434	
第13回 利付国債(40年)	10,600,000	7,230,472	
第14回 利付国債(40年)	34,300,000	24,986,864	
第16回 利付国債(40年)	300,000	262,344	
第337回 利付国債(10年)	800,000	803,392	
第339回 利付国債(10年)	45,700,000	46,018,986	
第346回 利付国債(10年)	1,000,000,000	998,950,000	
第348回 利付国債(10年)	600,000	598,092	
第350回 利付国債(10年)	640,600,000	636,468,130	
第351回 利付国債(10年)	506,900,000	502,743,420	

第352回 利付国債(10年)	800,000	792,704	
第353回 利付国債(10年)	500,000	494,830	
第355回 利付国債(10年)	28,900,000	28,508,983	
第356回 利付国債(10年)	845,800,000	832,884,634	
第358回 利付国債(10年)	66,900,000	65,588,091	
第359回 利付国債(10年)	52,700,000	51,542,708	
第360回 利付国債(10年)	340,700,000	332,271,082	
第361回 利付国債(10年)	317,900,000	309,113,244	
第362回 利付国債(10年)	9,100,000	8,821,085	
第363回 利付国債(10年)	847,500,000	818,862,975	
第364回 利付国債(10年)	141,700,000	136,501,027	
第365回 利付国債(10年)	137,100,000	131,661,243	
第371回 利付国債(10年)	344,500,000	334,457,825	
第29回 利付国債(30年)	103,600,000	121,800,448	
第30回 利付国債(30年)	9,600,000	11,147,040	
第34回 利付国債(30年)	158,100,000	180,305,145	
第37回 利付国債(30年)	94,200,000	102,419,892	
第38回 利付国債(30年)	38,800,000	41,430,252	
第40回 利付国債(30年)	77,100,000	82,174,722	
第42回 利付国債(30年)	92,700,000	97,050,411	
第43回 利付国債(30年)	159,800,000	167,237,092	
第44回 利付国債(30年)	168,500,000	176,129,680	
第46回 利付国債(30年)	111,700,000	112,430,518	
第49回 利付国債(30年)	48,900,000	48,164,544	
第50回 利付国債(30年)	42,300,000	36,763,353	
第54回 利付国債(30年)	800,000	688,368	

年)			
第55回 利付国債(30年)	21,700,000	18,616,647	
第56回 利付国債(30年)	157,600,000	134,803,160	
第57回 利付国債(30年)	13,600,000	11,597,944	
第58回 利付国債(30年)	66,700,000	56,711,008	
第63回 利付国債(30年)	116,100,000	87,274,692	
第64回 利付国債(30年)	77,100,000	57,727,854	
第66回 利付国債(30年)	128,700,000	95,606,082	
第67回 利付国債(30年)	167,900,000	131,524,465	
第69回 利付国債(30年)	16,900,000	13,538,590	
第70回 利付国債(30年)	272,000,000	217,371,520	
第73回 利付国債(30年)	23,100,000	18,358,956	
第74回 利付国債(30年)	8,600,000	7,401,762	
第75回 利付国債(30年)	86,600,000	80,376,058	
第76回 利付国債(30年)	166,700,000	158,525,032	
第77回 利付国債(30年)	5,000,000	4,980,150	
第78回 利付国債(30年)	334,200,000	317,309,532	
第79回 利付国債(30年)	566,200,000	510,774,682	
第92回 利付国債(20年)	17,300,000	18,419,656	
第99回 利付国債(20年)	28,600,000	30,881,422	
第102回 利付国債(20年)	49,600,000	54,562,480	
第107回 利付国債(20年)	15,300,000	16,731,009	
第109回 利付国債(20年)	70,900,000	77,009,453	
第110回 利付国債(20年)	79,400,000	87,099,418	
第112回 利付国債(20年)	37,800,000	41,583,780	
第113回 利付国債(20年)	24,200,000	26,703,248	

第114回 利付国債(20年)	6,500,000	7,188,740	
第117回 利付国債(20年)	1,500,000	1,662,435	
第118回 利付国債(20年)	200,000,000	220,872,000	
第123回 利付国債(20年)	40,300,000	44,918,783	
第134回 利付国債(20年)	19,200,000	21,087,360	
第140回 利付国債(20年)	22,600,000	24,669,482	
第141回 利付国債(20年)	32,900,000	35,944,237	
第142回 利付国債(20年)	121,900,000	134,302,106	
第144回 利付国債(20年)	37,500,000	40,296,000	
第146回 利付国債(20年)	51,900,000	56,749,017	
第147回 利付国債(20年)	409,100,000	443,452,127	
第148回 利付国債(20年)	151,800,000	162,952,746	
第149回 利付国債(20年)	127,100,000	136,374,487	
第150回 利付国債(20年)	148,300,000	157,453,076	
第151回 利付国債(20年)	174,100,000	180,910,792	
第152回 利付国債(20年)	89,600,000	92,980,608	
第153回 利付国債(20年)	3,600,000	3,770,964	
第154回 利付国債(20年)	41,200,000	42,630,464	
第155回 利付国債(20年)	370,900,000	374,575,619	
第157回 利付国債(20年)	132,900,000	120,880,524	
第158回 利付国債(20年)	245,300,000	231,057,882	
第159回 利付国債(20年)	53,800,000	51,162,724	
第160回 利付国債(20年)	13,000,000	12,484,290	
第161回 利付国債(20年)	83,500,000	78,891,635	
第163回 利付国債(20年)	78,900,000	74,040,549	
第164回 利付国債(20年)	75,800,000	69,852,732	

年)			
第165回 利付国債(20年)	154,600,000	141,930,530	
第166回 利付国債(20年)	77,600,000	73,086,008	
第167回 利付国債(20年)	3,700,000	3,368,332	
第168回 利付国債(20年)	17,700,000	15,798,489	
第169回 利付国債(20年)	4,400,000	3,844,984	
第170回 利付国債(20年)	89,800,000	78,114,326	
第171回 利付国債(20年)	57,700,000	49,926,656	
第172回 利付国債(20年)	230,700,000	202,088,586	
第173回 利付国債(20年)	130,900,000	114,071,496	
第174回 利付国債(20年)	700,000	607,222	
第175回 利付国債(20年)	67,100,000	58,997,004	
第176回 利付国債(20年)	220,200,000	192,756,474	
第177回 利付国債(20年)	1,900,000	1,626,457	
第181回 利付国債(20年)	34,800,000	32,168,424	
第184回 利付国債(20年)	82,900,000	78,669,613	
第185回 利付国債(20年)	258,900,000	244,989,303	
第24回 物価連動国債(10年)	516,000,000	574,440,544	
国債証券 合計	18,611,000,000	18,301,499,977	
合計		18,301,499,977	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

ニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンド
貸借対照表

(単位：円)

2023年9月20日現在

資産の部	
流動資産	
預金	1,380,995,665
金銭信託	2,423,171
コール・ローン	398,777,291
株式	49,924,133,489
投資証券	1,088,262,954
派生商品評価勘定	60,226,065
未収配当金	32,975,317
流動資産合計	52,887,793,952
資産合計	52,887,793,952
負債の部	
流動負債	
派生商品評価勘定	124,442,313
未払金	43,289
未払解約金	55,600,845
その他未払費用	283
流動負債合計	180,086,730
負債合計	180,086,730
純資産の部	
元本等	
元本	12,925,254,400
剰余金	
剰余金又は欠損金 (△)	39,782,452,822
元本等合計	52,707,707,222
純資産合計	52,707,707,222
負債純資産合計	52,887,793,952

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	自 2023年3月21日 至 2023年9月20日
<p>1. 有価証券の評価基準及び評価方法</p>	<p>株式 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所等における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。</p> <p>投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所等における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。</p>
<p>2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法</p>	<p>為替予約取引 個別法に基づき、原則として国内における計算日の対顧客先物売買相場の仲値で評価しております。</p>
<p>3. 収益及び費用の計上基準</p>	<p>受取配当金 原則として、配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を、未だ確定していない場合には予想配当金額を計上し、残額については入金時に計上しております。</p>
<p>4. その他財務諸表作成のための基礎となる事項</p>	<p>外貨建取引等の処理基準 外貨建資産及び負債は、計算日の対顧客電信売買相場の仲値により円貨に換算するほか、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条及び同第61条にしたがって換算しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	2023年9月20日現在
1. 本報告書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額	13, 221, 018, 275円
同期中追加設定元本額	1, 174, 584, 332円
同期中一部解約元本額	1, 470, 348, 207円
元本の内訳	
ファンド名	
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（債券重視型）	28, 361, 607円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（標準型）	67, 769, 863円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（株式重視型）	41, 532, 627円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（標準型）VA（適格機関投資家専用）	6, 324, 767円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（債券重視型）SA（適格機関投資家限定）	69, 493, 656円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（標準型）SA（適格機関投資家限定）	384, 633, 077円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（株式重視型）SA（適格機関投資家限定）	248, 363, 503円
DCニッセイ／パトナム・グローバル・コア株式	9, 910, 312, 761円
DCニッセイ／パトナム・グローバルバランス（債券重視型）	156, 598, 403円
DCニッセイ／パトナム・グローバルバランス（標準型）	927, 808, 570円
DCニッセイ／パトナム・グローバルバランス（株式重視型）	964, 798, 449円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（成長型）SA（適格機関投資家限定）	28, 862, 311円
ニッセイ／パトナム・グローバル・コア株式SA（適格機関投資家限定）	351, 202円
DCニッセイバランスアクティブ	90, 043, 604円
計	12, 925, 254, 400円
2. 受益権の総数	12, 925, 254, 400口

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

項目	自 2023年3月21日 至 2023年9月20日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。これらは、価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等のリスクに晒されております。 また、当ファンドの利用しているデリバティブ取引は、為替予約取引であります。当該デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資する事を目的として行っており、為替相場の変動によるリスクを有しております。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	取引の執行・管理については、投資信託及び投資法人に関する法律及び同施行規則、投資信託協会の諸規則、信託約款、取引権限及び管理体制等を定めた社内規則に従い、運用部門が決裁担当者の承認を得て行っております。また、リスク管理部門が日々遵守状況を確認し、市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等のモニターを行い、問題があると判断した場合は速やかに対応できる体制となっております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	2023年9月20日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。 (2)デリバティブ取引 「(デリバティブ取引等に関する注記)」にて記載しております。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでも名目的な契約額または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	2023年9月20日現在	
	当期間の 損益に含まれた 評価差額 (円)	
株式	5,767,786,808	
投資証券	△107,040,181	
合計	5,660,746,627	

(注) 「当期間の損益に含まれた評価差額」は、当該親投資信託の計算期間開始日から開示対象ファンドの期末日までの期間(2022年12月21日から2023年9月20日まで)に対応する金額であります。

(デリバティブ取引等に関する注記)

通貨関連

種類	2023年9月20日現在			
	契約額等 (円)	うち		時価 (円)
		1年超		
市場取引以外の取引 為替予約取引				
売建	6,554,621,018	—	6,582,442,866	△27,821,848
アメリカ・ドル	4,096,420,253	—	4,127,204,329	△30,784,076
カナダ・ドル	559,292,288	—	565,845,593	△6,553,305
デンマーク・クローネ	826,198,578	—	817,243,551	8,955,027
ユーロ	755,499,005	—	746,375,890	9,123,115
香港・ドル	317,210,894	—	325,773,503	△8,562,609
買建	6,554,621,018	—	6,518,226,618	△36,394,400
アメリカ・ドル	2,458,200,765	—	2,474,973,425	16,772,660
イギリス・ポンド	265,953,836	—	260,786,400	△5,167,436
イスラエル・シェケル	96,129,487	—	93,779,197	△2,350,290
オーストラリア・ドル	1,153,130,454	—	1,138,174,214	△14,956,240
カナダ・ドル	367,319,794	—	367,742,709	422,915
シンガポール・ドル	182,422,649	—	183,165,193	742,544
スイス・フラン	1,371,941,421	—	1,347,665,230	△24,276,191
スウェーデン・クローナ	439,824,528	—	434,865,255	△4,959,273
ノルウェー・クローネ	78,753,700	—	77,807,610	△946,090
ユーロ	81,507,791	—	80,270,762	△1,237,029
香港・ドル	59,436,593	—	58,996,623	△439,970
合計	13,109,242,036	—	13,100,669,484	△64,216,248

(注) 為替予約取引

時価の算定方法

国内における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によって、以下のように評価しております。

①計算日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

②計算日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。ただし、当該日を超える先物相場が発表されていない場合は、当該為替予約は当該日に最も近い日に発表されている先物相場の仲値によって評価しております。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報に関する注記)

	2023年9月20日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	4.0779円 (40,779円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

2023年9月20日現在

通貨	銘柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
アメリカ・ドル	ADOBE INC	13,800	541.690	7,475,322.00	
	AES CORP	154,700	16.760	2,592,772.00	
	AMAZON.COM INC	84,100	137.630	11,574,683.00	
	APPLE INC	84,700	179.070	15,167,229.00	
	APPLIED MATERIALS INC	37,100	137.710	5,109,041.00	
	ASML HOLDING NV	7,500	593.770	4,453,275.00	
	ASSURED GUARANTY LTD	57,008	60.830	3,467,796.64	
	BANK OF AMERICA CORP	194,000	28.650	5,558,100.00	
	BIO-RAD LABORATORIES-CL A	5,400	360.370	1,945,998.00	
	BOSTON SCIENTIFIC CORP	164,800	53.030	8,739,344.00	
	CASELLA WASTE SYSTEMS INC-A	58,200	82.430	4,797,426.00	
	CHARLES SCHWAB CORP	53,000	57.730	3,059,690.00	
	CHIPOTLE MEXICAN GRILL INC	2,000	1,924.670	3,849,340.00	
	CITIGROUP INC	131,900	42.680	5,629,492.00	
	CONSTELLATION ENERGY	75,800	110.540	8,378,932.00	
	COOPER COS INC/THE	11,800	336.720	3,973,296.00	
	DANAHER CORP	15,700	255.230	4,007,111.00	
	DOLLAR GENERAL CORP	10,800	115.100	1,243,080.00	
	EASTMAN CHEMICAL COMPANY	39,600	78.710	3,116,916.00	
	ELI LILLY & CO	14,400	574.960	8,279,424.00	
	FORTIVE CORP	62,700	75.670	4,744,509.00	
	GENERAL MOTORS CO	147,300	33.960	5,002,308.00	
	GINKGO BIOWORKS HOLDINGS INC	282,800	1.820	514,696.00	
	HOME DEPOT INC	14,800	314.610	4,656,228.00	
	INGERSOLL-RAND INC	133,600	66.230	8,848,328.00	
	INTUIT INC	7,200	529.190	3,810,168.00	
	JPMORGAN CHASE & CO	33,000	148.930	4,914,690.00	
	KKR & CO INC -A	49,900	63.430	3,165,157.00	
	KROGER CO	58,400	46.090	2,691,656.00	
	LEVI STRAUSS & CO- CLASS A	196,000	13.470	2,640,120.00	
LIBERTY GLOBAL PLC-A	236,500	18.730	4,429,645.00		
LINDE PLC	17,500	389.780	6,821,150.00		
MERCK & CO INC	52,500	107.360	5,636,400.00		
MICROSOFT CORP	49,700	328.650	16,333,905.00		

	NRG ENERGY INC	80,131	39.190	3,140,333.89	
	NVIDIA CORP	24,900	435.200	10,836,480.00	
	ON HOLDING AG-CLASS A	35,100	29.860	1,048,086.00	
	OTIS WORLDWIDE CORP	78,600	82.180	6,459,348.00	
	REGENERON PHARMACEUTICALS	6,755	836.760	5,652,313.80	
	ROPER TECHNOLOGIES INC	10,000	502.760	5,027,600.00	
	SALESFORCE INC	29,200	215.700	6,298,440.00	
	T-MOBILE US INC	18,400	142.470	2,621,448.00	
	TARGET CORP	8,800	120.170	1,057,496.00	
	THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	10,700	508.740	5,443,518.00	
	TPG INC	108,500	31.070	3,371,095.00	
	UNITEDHEALTH GROUP INC	15,100	480.660	7,257,966.00	
	VISA INC-CLASS A SHARES	38,500	243.560	9,377,060.00	
	WALMART INC	61,300	163.380	10,015,194.00	
	WALT DISNEY CO	48,600	81.940	3,982,284.00	
アメリカ・ドル	小計	3,132,794		268,215,890.33 (39,653,037,226)	
イギリス・ポンド	ASHTED GROUP PLC	67,768	51.600	3,496,828.80	
	UNILEVER PLC	96,678	40.785	3,943,012.23	
イギリス・ポンド	小計	164,446		7,439,841.03 (1,362,755,681)	
カナダ・ドル	CANADIAN PACIFIC KANSAS CITY LIMITED	45,300	105.320	4,770,996.00	
	COGECO COMMUNICATIONS INC	59,000	64.230	3,789,570.00	
	CONSTELLATION SOFTWARE INC	3,500	2,784.730	9,746,555.00	
カナダ・ドル	小計	107,800		18,307,121.00 (2,012,684,883)	
デンマーク・クローネ	NOVO-NORDISK A/S	68,216	647.000	44,135,752.00	
	NOVOZYMES A/S	60,821	291.900	17,753,649.90	
デンマーク・クローネ	小計	129,037		61,889,401.90 (1,311,436,426)	
ユーロ	AIXTRON AG	54,422	33.720	1,835,109.84	
	ALSTOM RGPT	72,353	24.030	1,738,642.59	
	AXA SA	178,412	29.305	5,228,363.66	
	HEINEKEN NV	54,318	86.120	4,677,866.16	
	KERRY GROUP PLC-A	61,138	81.760	4,998,642.88	
	LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUITTON SE	6,172	736.800	4,547,529.60	
	MUENCHENER RUECKVERSICHERUNGS AG	8,653	377.600	3,267,372.80	
	SANOFI	51,442	102.100	5,252,228.20	
ユーロ	小計	486,910		31,545,755.73 (4,982,652,118)	
香港・ドル	AIA GROUP LTD	487,800	65.250	31,828,950.00	

香港・ドル 小計	487,800		31,828,950.00 (601,567,155)	
合計	4,508,787		49,924,133,489 (49,924,133,489)	

(2) 株式以外の有価証券

2023年9月20日現在

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資証券	アメリカ・ドル	AMERICAN TOWER REIT INC	21,900.00	3,884,184.00	
		PROLOGIS INC	28,600.00	3,476,902.00	
	アメリカ・ドル 小計		50,500.00	7,361,086.00 (1,088,262,954)	
投資証券 合計			50,500	1,088,262,954 (1,088,262,954)	
合計				1,088,262,954 (1,088,262,954)	

(注) 投資証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

(注)

1. 各種通貨毎の小計の欄における () 内の金額は、邦貨換算額であります。
2. 合計欄における () 内の金額は、外貨建有価証券の邦貨換算額の合計額であり、内数で表示しております。
3. 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入株式 時価比率 (%)	組入 投資証券 時価比率 (%)	有価証券の合計金額に 対する比率 (%)
アメリカ・ドル	株式 49銘柄	75.23	—	79.87
	投資証券 2銘柄	—	2.06	
イギリス・ポンド	株式 2銘柄	2.59	—	2.67
カナダ・ドル	株式 3銘柄	3.82	—	3.95
デンマーク・クローネ	株式 2銘柄	2.49	—	2.57
ユーロ	株式 8銘柄	9.45	—	9.77
香港・ドル	株式 1銘柄	1.14	—	1.18

(注) 「組入時価比率」は、純資産に対する比率であります。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「(デリバティブ取引等に関する注記)」にて記載しております。

ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド
貸借対照表

(単位：円)

2023年9月20日現在

資産の部	
流動資産	
預金	1,095,901,946
金銭信託	534,474
コール・ローン	87,957,577
国債証券	7,373,767,384
地方債証券	170,249,874
特殊債券	1,232,727,739
社債券	661,433,062
派生商品評価勘定	9,971,988
未収入金	827,652,242
未収利息	65,463,353
前払費用	981,481
流動資産合計	11,526,641,120
資産合計	11,526,641,120
負債の部	
流動負債	
売付債券	399,825,888
派生商品評価勘定	23,953,702
未払金	1,113,156,008
未払解約金	13,524,024
その他未払費用	44
流動負債合計	1,550,459,666
負債合計	1,550,459,666
純資産の部	
元本等	
元本	3,032,280,535
剰余金	
剰余金又は欠損金(△)	6,943,900,919
元本等合計	9,976,181,454
純資産合計	9,976,181,454
負債純資産合計	11,526,641,120

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	自 2023年3月21日 至 2023年9月20日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券、地方債証券、特殊債券及び社債券 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、価格情報会社の提供する価額等で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として国内における計算日の対顧客先物売買相場の 仲値で評価しております。
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建資産及び負債は、計算日の対顧客電信売買相場の仲値により円貨に 換算するほか、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令 第133号)第60条及び同第61条にしたがって換算しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	2023年9月20日現在
1. 本報告書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額	3,074,648,006円
同期中追加設定元本額	204,332,164円
同期中一部解約元本額	246,699,635円
元本の内訳	
ファンド名	
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（債券重視型）	35,195,544円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（標準型）	42,050,211円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（株式重視型）	17,179,845円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランスオープン（標準型）VA（適格機関投資家専用）	3,924,470円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（債券重視型）SA（適格機関投資家限定）	86,237,037円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（標準型）SA（適格機関投資家限定）	238,650,867円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（株式重視型）SA（適格機関投資家限定）	102,738,288円
DCニッセイ／パトナム・グローバルバランス（債券重視型）	194,328,336円
DCニッセイ／パトナム・グローバルバランス（標準型）	575,695,224円
DCニッセイ／パトナム・グローバルバランス（株式重視型）	399,104,743円
DCニッセイ／パトナム・グローバル債券	1,130,459,544円
ニッセイ／パトナム・グローバルバランス（成長型）SA（適格機関投資家限定）	12,792,358円
ニッセイ／パトナム・グローバル債券SA（適格機関投資家限定）	156,766,410円
DCニッセイバランスアクティブ	37,157,658円
計	3,032,280,535円
2. 受益権の総数	3,032,280,535口

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

項目	自 2023年3月21日 至 2023年9月20日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。これらは、価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等のリスクに晒されております。 また、当ファンドの利用しているデリバティブ取引は、為替予約取引であります。当該デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資する事を目的として行っており、為替相場の変動によるリスクを有しております。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	取引の執行・管理については、投資信託及び投資法人に関する法律及び同施行規則、投資信託協会の諸規則、信託約款、取引権限及び管理体制等を定めた社内規則に従い、運用部門が決裁担当者の承認を得て行っております。また、リスク管理部門が日々遵守状況を確認し、市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等のモニターを行い、問題があると判断した場合は速やかに対応できる体制となっております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	2023年9月20日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。 (2)デリバティブ取引 「(デリバティブ取引等に関する注記)」にて記載しております。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでも名目的な契約額または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	2023年9月20日現在	
	当期間の 損益に含まれた 評価差額 (円)	
国債証券	△311,130,370	
地方債証券	△9,674,467	
特殊債券	△9,822,550	
社債券	△27,293,927	
合計	△357,921,314	

(注) 「当期間の損益に含まれた評価差額」は、当該親投資信託の計算期間開始日から開示対象ファンドの期末日までの期間(2022年12月21日から2023年9月20日まで)に対応する金額であります。

(デリバティブ取引等に関する注記)

通貨関連

種類	2023年9月20日現在				
	契約額等 (円)	うち		時価 (円)	評価損益 (円)
		1年超			
市場取引以外の取引 為替予約取引					
売建	1,177,900,893	—	1,191,950,552	△14,049,659	
アメリカ・ドル	802,585,048	—	821,435,060	△18,850,012	
イギリス・ポンド	106,456,761	—	103,805,550	2,651,211	
オーストラリア・ドル	34,227,824	—	33,940,707	287,117	
カナダ・ドル	52,498,552	—	52,634,762	△136,210	
スウェーデン・クローナ	1,901,999	—	1,873,419	28,580	
デンマーク・クローネ	12,560,118	—	12,423,981	136,137	
ニュージーランド・ドル	7,323,660	—	7,239,204	84,456	
ノルウェー・クローネ	2,459,730	—	2,416,890	42,840	
ポーランド・ズロチ	6,629,456	—	6,224,962	404,494	
メキシコ・ペソ	16,071,816	—	16,431,847	△360,031	
ユーロ	135,185,929	—	133,524,170	1,661,759	
買建	1,177,900,893	—	1,177,968,838	67,945	
アメリカ・ドル	375,315,845	—	375,318,119	2,274	
イスラエル・シェケル	32,645,432	—	31,847,277	△798,155	
オフショア・人民元	663,411,615	—	664,789,992	1,378,377	
シンガポール・ドル	46,224,597	—	46,412,753	188,156	
スイス・フラン	40,325,221	—	39,611,676	△713,545	
ユーロ	19,978,183	—	19,989,021	10,838	
合計	2,355,801,786	—	2,369,919,390	△13,981,714	

(注) 為替予約取引

時価の算定方法

国内における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によって、以下のように評価しております。

①計算日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

②計算日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。ただし、当該日を超える先物相場が発表されていない場合は、当該為替予約は当該日に最も近い日に発表されている先物相場の仲値によって評価しております。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報に関する注記)

2023年9月20日現在	
1口当たり純資産額	3,290円
(1万口当たり純資産額)	(32,900円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

2023年9月20日現在

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考	
国債証券	アメリカ・ドル	US TREASURY N/B	5,000,000.00	4,775,000.00		
		US TREASURY N/B	2,650,000.00	1,781,171.00		
		US TREASURY N/B	3,800,000.00	3,602,400.00		
		US TREASURY N/B	2,400,000.00	1,913,904.00		
		US TREASURY N/B	3,400,000.00	3,081,624.00		
		US TREASURY N/B	3,600,000.00	3,348,684.00		
		US TREASURY N/B	5,600,000.00	4,269,552.00		
		アメリカ・ドル	小計	26,450,000.00 (3,910,368,000)	22,772,335.00 (3,366,662,008)	
	イギリス・ポンド		UNITED KINGDOM GILT	1,410,000.00	1,139,590.20	
			UNITED KINGDOM GILT	70,000.00	56,140.00	
			UNITED KINGDOM GILT	1,370,000.00	1,299,239.50	
			UNITED KINGDOM GILT	10,000.00	6,213.20	
			UNITED KINGDOM GILT	370,000.00	372,815.70	
			UNITED KINGDOM GILT	170,000.00	151,770.90	
		イギリス・ポンド	小計	3,400,000.00 (622,778,000)	3,025,769.50 (554,230,199)	
	オーストラリア・ドル		AUSTRALIAN GOVERNMENT	190,000.00	187,896.70	
			AUSTRALIAN GOVERNMENT	430,000.00	405,442.70	
			AUSTRALIAN GOVERNMENT	860,000.00	799,989.20	
			AUSTRALIAN GOVERNMENT	90,000.00	70,066.80	
			AUSTRALIAN GOVERNMENT	120,000.00	94,332.00	
		オーストラリア・ドル	小計	1,690,000.00 (161,361,200)	1,557,727.40 (148,731,812)	
		カナダ・ドル	CANADIAN GOVERNMENT	210,000.00	202,941.90	
		カナダ・ドル	小計	210,000.00 (23,087,400)	202,941.90 (22,311,432)	
	スウェーデン・クローナ		SWEDISH GOVERNMENT	1,290,000.00	1,204,305.30	
			SWEDISH GOVERNMENT	320,000.00	340,425.60	
		スウェーデン・クローナ	小計	1,610,000.00 (21,332,500)	1,544,730.90 (20,467,684)	
		デンマーク・ク	KINGDOM OF DENMARK	1,190,000.00	1,152,562.60	

ローネ				
	KINGDOM OF DENMARK	800,000.00	945,112.00	
デンマーク・クローネ 小計		1,990,000.00 (42,168,100)	2,097,674.60 (44,449,725)	
ニュージーランド・ドル	NEW ZEALAND GOVERNMENT	330,000.00	297,709.50	
ニュージーランド・ドル 小計		330,000.00 (28,990,500)	297,709.50 (26,153,780)	
ノルウェー・クローネ	NORWEGIAN GOVERNMENT	1,660,000.00	1,538,969.40	
ノルウェー・クローネ 小計		1,660,000.00 (22,758,600)	1,538,969.40 (21,099,270)	
ポーランド・ズロチ	POLAND GOVERNMENT BOND	1,870,000.00	1,755,256.80	
ポーランド・ズロチ 小計		1,870,000.00 (63,198,520)	1,755,256.80 (59,320,659)	
マレーシア・リングgit	MALAYSIA GOVERNMENT	1,750,000.00	1,703,642.50	
マレーシア・リングgit 小計		1,750,000.00 (55,110,825)	1,703,642.50 (53,650,939)	
メキシコ・ペソ	MEX BONOS DESARR FIX RT	13,280,000.00	12,265,009.60	
メキシコ・ペソ 小計		13,280,000.00 (115,014,096)	12,265,009.60 (106,223,569)	
ユーロ	BELGIUM KINGDOM	630,000.00	592,911.90	
	BELGIUM KINGDOM	20,000.00	17,695.40	
	BELGIUM KINGDOM	590,000.00	633,288.30	
	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	170,000.00	166,530.30	
	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	360,000.00	407,577.60	
	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	110,000.00	112,607.00	
	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	950,000.00	1,024,204.50	
	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	240,000.00	232,608.00	
	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	250,000.00	201,827.50	
	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	330,000.00	308,474.10	
	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	30,000.00	14,586.00	
	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	530,000.00	454,496.20	
	BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND	230,000.00	165,781.70	
	BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND	1,780,000.00	1,446,552.60	
	BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND	760,000.00	714,909.20	
	BUONI POLIENNALI DEL TES	710,000.00	703,297.60	
	BUONI POLIENNALI DEL TES	200,000.00	187,790.00	
	BUONI POLIENNALI DEL TES	870,000.00	856,393.20	
	BUONI POLIENNALI DEL TES	1,360,000.00	1,109,352.00	
	BUONI POLIENNALI DEL TES	140,000.00	75,938.80	
	BUONI POLIENNALI DEL TES	1,640,000.00	1,802,802.80	
	FINNISH GOVERNMENT	270,000.00	217,649.70	
	FRANCE (GOVT OF)	970,000.00	955,440.30	
	FRANCE (GOVT OF)	110,000.00	103,613.40	
	FRANCE (GOVT OF)	1,040,000.00	990,360.80	
	FRANCE (GOVT OF)	740,000.00	828,119.20	
	FRANCE (GOVT OF)	610,000.00	528,467.40	

		FRANCE (GOVT OF)	1,540,000.00	1,233,309.00		
		FRANCE (GOVT OF)	460,000.00	484,679.00		
		IRELAND GOVERNMENT BOND	100,000.00	77,249.00		
		IRELAND GOVERNMENT BOND	320,000.00	287,609.60		
		NETHERLANDS GOVERNMENT	420,000.00	390,558.00		
		NETHERLANDS GOVERNMENT	200,000.00	171,180.00		
		NETHERLANDS GOVERNMENT	380,000.00	410,096.00		
		REPUBLIC OF AUSTRIA	290,000.00	198,246.90		
		REPUBLIC OF AUSTRIA	630,000.00	573,545.70		
	ユーロ	小計	19,980,000.00 (3,155,841,000)	18,679,748.70 (2,950,466,307)		
国債証券 合計			8,222,008,741 (8,222,008,741)	7,373,767,384 (7,373,767,384)		
地方債証券	カナダ・ドル	ONTARIO (PROVINCE OF)	460,000.00	441,075.60		
		ONTARIO (PROVINCE OF)	310,000.00	231,855.20		
		ONTARIO (PROVINCE OF)	800,000.00	875,640.00		
	カナダ・ドル	小計	1,570,000.00 (172,605,800)	1,548,570.80 (170,249,874)		
地方債証券 合計			172,605,800 (172,605,800)	170,249,874 (170,249,874)		
特殊債券	アメリカ・ドル	FNMA 545477	2,593.84	2,649.06		
		FNMA 555571	1,356.84	1,381.37		
		FNMA 602285	1,141.89	1,157.04		
		FNMA 609480	371.38	368.70		
		FNMA TBA	1,000,000.00	880,620.00		
		FNMA TBA	1,000,000.00	847,690.00		
		FNW 2003-W1 2A	137,343.39	129,433.78		
		FNW 2003-W3 1A1	1,956.07	1,969.97		
		FR ZI1716	13,322.52	13,507.83		
		FR ZS4136	2,827.24	2,918.06		
		GNMA 781542	2,601.72	2,600.39		
		GNMA 786812	499,384.09	496,437.72		
		GNMA BX9597	823,652.63	668,006.99		
		GNMA CT0366	26,961.61	26,565.00		
		GNMA CU6592	36,928.49	36,402.99		
		GNMA CU6639	110,680.73	109,058.15		
		GNMA CU9006	32,936.80	32,587.01		
		GNMA CU9007	85,780.51	84,680.80		
		GNMA TBA	2,000,000.00	1,839,280.00		
		GNMA TBA	1,000,000.00	866,750.00		
	アメリカ・ドル	小計	6,779,839.75 (1,002,331,509)	6,044,064.86 (893,554,549)		
	ユーロ		BK NEDERLANDSE GEMEENTEN	530,000.00	516,787.10	
			EFSF	440,000.00	428,124.40	
EUROPEAN INVESTMENT BANK			225,000.00	225,463.50		
EUROPEAN INVESTMENT BANK			465,000.00	462,721.50		
LANDWIRTSCH. RENTENBANK			520,000.00	514,248.80		
ユーロ	小計	2,180,000.00 (344,331,000)	2,147,345.30 (339,173,190)			
特殊債券 合計			1,346,662,508.64	1,232,727,739		

			(1,346,662,509)	(1,232,727,739)	
社債券	アメリカ・ドル	APPLE INC	345,000.00	277,438.65	
		BACM 2015-UBS7 AS	144,000.00	133,935.84	
		BANK 2019-BN20 XA	1,369,187.57	51,262.38	
		BBCMS 2021-C9 XA	1,417,674.21	117,652.78	
		BERKSHIRE HATHAWAY FIN	95,000.00	83,142.10	
		BMARK 2019-B12 A5	28,000.00	24,073.84	
		BP CAPITAL MARKETS PLC	500,000.00	466,455.00	
		CGCMT 2014-GC19 XA	1,960,643.50	862.67	
		CGCMT 2014-GC21 B	114,000.00	104,805.90	
		CGCMT 2018-C6 XA	2,588,577.54	78,226.81	
		COMM 2013-LC13 XA	94,077.46	0.94	
		COMM 2015-LC21 XA	2,861,476.66	24,408.37	
		COMMONWEALTH BANK AUST	500,000.00	460,550.00	
		CSAIL 2015-C1 AS	105,000.00	96,478.20	
		CSAIL 2018-CX12 XA	4,959,437.88	109,206.82	
		JPMBB 2013-C15 C	219,000.00	204,086.10	
		JPMBB 2013-C17 XA	374,839.22	78.71	
		JPMBB 2014-C19 C	84,000.00	79,383.36	
		JPMBB 2014-C23 B	102,000.00	96,589.92	
		JPMBB 2015-C33 XA	1,485,684.43	22,879.54	
		JPMCC 2013-C16 XA	705,823.47	98.81	
		JPMCC 2019-COR5 XA	3,084,208.21	170,680.08	
		MET LIFE GLOB FUNDING I	510,000.00	462,304.80	
		MSBAM 2013-C10 AS	12,052.00	11,660.31	
		MSBAM 2014-C14 B	82,000.00	81,132.44	
		MSBAM 2014-C14 C	280,000.00	273,112.00	
		MSBAM 2014-C16 B	102,000.00	92,047.86	
		MSBAM 2014-C17 XA	861,919.48	2,551.27	
		ROCHE HOLDINGS INC	250,000.00	209,962.50	
		UBSCM 2017-C7 XA	1,087,571.32	34,323.75	
		UBSCM 2018-C13 AS	84,000.00	74,523.96	
		WFCM 2016-LC25 XA	1,214,310.39	25,694.80	
		WFCM 2020-C56 XA	1,540,825.99	90,739.24	
WFRBS 2013-C11 B	61,093.85	52,983.64			
WFRBS 2013-C18 AS	466,000.00	460,645.66			
	アメリカ・ドル 小計	29,689,403.18 (4,389,281,366)	4,473,979.05 (661,433,062)		
社債券 合計		4,389,281,366.13 (4,389,281,366)	661,433,062 (661,433,062)		
合計			9,438,178,059 (9,438,178,059)		

(注)

1. 各種通貨毎の小計の欄における () 内の金額は、邦貨換算額であります。
2. 合計欄における () 内の金額は、外貨建有価証券の邦貨換算額の合計額であり、内数で表示しております。

3. 外貨建有用証券の内訳

通貨	銘柄数	組入債券 時価比率 (%)	有用証券の合計金額に 対する比率 (%)
アメリカ・ドル	国債証券	7銘柄	33.75
	特殊債券	20銘柄	8.96
	社債券	35銘柄	6.63
イギリス・ポンド	国債証券	6銘柄	5.56
オーストラリア・ドル	国債証券	5銘柄	1.49
カナダ・ドル	国債証券	1銘柄	0.22
	地方債証券	3銘柄	1.71
スウェーデン・クローナ	国債証券	2銘柄	0.21
デンマーク・クローネ	国債証券	2銘柄	0.45
ニュージーランド・ドル	国債証券	1銘柄	0.26
ノルウェー・クローネ	国債証券	1銘柄	0.21
ポーランド・ズロチ	国債証券	1銘柄	0.59
マレーシア・リングギット	国債証券	1銘柄	0.54
メキシコ・ペソ	国債証券	1銘柄	1.06
ユーロ	国債証券	36銘柄	29.58
	特殊債券	5銘柄	3.40

(注1) 「組入時価比率」は、純資産に対する比率であります。

(注2) T B A取引の買約定は、特殊債券に属します。

T B A取引の売約定については、貸借対照表流動負債の「売付債券」に別途計上しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「(デリバティブ取引等に関する注記)」にて記載しております。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

2023年9月29日現在

I 資産総額	1,261,599,480円
II 負債総額	859,817円
III 純資産総額 (I - II)	1,260,739,663円
IV 発行済数量	631,241,162口
V 1口当たり純資産額 (III / IV)	1.9972円

(参考)

ニッセイ国内株式マザーファンド

2023年9月29日現在

I 資産総額	18,707,974,969円
II 負債総額	23,769,425円
III 純資産総額 (I - II)	18,684,205,544円
IV 発行済数量	10,123,854,942口
V 1口当たり純資産額 (III / IV)	1.8456円

ニッセイ国内債券マザーファンド

2023年9月29日現在

I 資産総額	20,645,660,145円
II 負債総額	649,894,708円
III 純資産総額 (I - II)	19,995,765,437円
IV 発行済数量	14,443,028,452口
V 1口当たり純資産額 (III / IV)	1.3845円

ニッセイ/パトナム・海外株式マザーファンド

2023年9月29日現在

I 資産総額	51,989,899,474円
II 負債総額	227,142,760円
III 純資産総額 (I - II)	51,762,756,714円
IV 発行済数量	12,961,609,506口
V 1口当たり純資産額 (III / IV)	3.9935円

ニッセイ/パトナム・海外債券マザーファンド

2023年9月29日現在

I 資産総額	10,609,355,992円
II 負債総額	707,706,446円
III 純資産総額 (I - II)	9,901,649,546円
IV 発行済数量	3,030,599,843口
V 1口当たり純資産額 (III / IV)	3.2672円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1) 受益証券の名義書換等

該当事項はありません。

ファンドの受益権は、振替受益権となり、委託会社は、この信託の受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

(2) 受益者に対する特典

ありません。

(3) 譲渡制限

譲渡制限はありません。ただし、受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(4) 受益権の譲渡

① 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

② 前記①の申請のある場合には、前記①の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前記①の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

③ 前記①の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(5) 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(6) 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、解約請求の受付、解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本金の額

2023年9月末現在の委託会社の資本金は、100億円です。

委託会社が発行する株式の総数は13万1,560株で、うち発行済株式総数は10万8,448株です。

最近5年間における資本金の増減はありません。

(2) 委託会社等の機構

① 会社の意思決定機構

委託会社は最低3名で構成される取締役会により運営されます。取締役は委託会社の株主であることを要しません。取締役は株主総会の決議により選任され、その任期は就任後1年以内の最終の決算期に関する定時株主総会終結のときまでとします。ただし、任期満了前に退任した取締役の補欠として選任された取締役の任期は、退任者の残存期間とします。

取締役会は、取締役のなかから代表取締役を選任するとともに、取締役社長1名を選任します。また、取締役会は、取締役会長1名を選任することができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、原則として取締役社長が招集し、その議長を務めます。

取締役会の決議は、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役の過半数が出席し、その出席取締役の過半数をもって決議します。

② 投資運用の意思決定機構

ファンドの個々の取引の運用指図は、運用基本方針、運用内規および月次運用方針に基づき、委託会社のファンドマネジャーが行います。

ファンド毎の運用基本方針、具体的な運用ルールである運用内規および月次運用方針については、運用部門中心に構成される協議機関において市場動向・ファンダメンタルズ等の投資環境分析を踏まえ協議され、運用担当部（室）の部長が決定します。

ファンドマネジャーは、運用基本方針、運用内規および月次運用方針に基づき、具体的な銘柄選択を行い、組入有価証券等の売買の指図を行います。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。

2023年9月末現在、委託会社が運用するファンドの本数および純資産総額合計額は以下の通りです（ファンド数、純資産総額合計額とも親投資信託を除きます）。

種類	ファンド数（本）	純資産総額合計額 （単位：億円）
追加型株式投資信託	420	74,408
追加型公社債投資信託	0	0
単位型株式投資信託	109	19,328
単位型公社債投資信託	0	0
合計	529	93,737

- 純資産総額合計額の金額については、億円未満の端数を切り捨てて記載しておりますので、表中の個々の金額の合計と合計欄の金額とは一致しないことがあります。

3【委託会社等の経理状況】

1. 財務諸表の作成方法について

委託会社であるニッセイアセットマネジメント株式会社（以下「当社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）第2条の規定により、財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づき作成しております。

財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第28期事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）の財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

独立監査人の監査報告書

2023年5月31日

ニッセイアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 樋口 誠之

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大竹 新

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているニッセイアセットマネジメント株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第28期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ニッセイアセットマネジメント株式会社の2023年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- ※ 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（ニッセイアセットマネジメント株式会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれておりません。

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	38,492,350	31,522,565
有価証券	6,249,635	5,099,877
前払費用	763,755	595,955
未収委託者報酬	6,157,565	5,813,921
未収運用受託報酬	3,219,400	3,456,007
未収投資助言報酬	265,131	259,830
その他	8,403	18,700
流動資産合計	55,156,243	46,766,858
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	※1 150,311	※1 150,182
車両	※1 968	※1 482
器具備品	※1 103,050	※1 92,889
有形固定資産合計	254,330	243,554
無形固定資産		
ソフトウェア	1,840,943	1,803,047
ソフトウェア仮勘定	577,731	1,198,151
その他	8,013	8,013
無形固定資産合計	2,426,688	3,009,212
投資その他の資産		
投資有価証券	30,679,401	37,635,584
関係会社株式	66,222	66,222
長期前払費用	10,629	11,881
差入保証金	374,819	367,613
繰延税金資産	1,413,142	1,600,306
その他	10,305	10,037
投資その他の資産合計	32,554,521	39,691,645
固定資産合計	35,235,540	42,944,413
資産合計	90,391,783	89,711,272

負債の部

流動負債

預り金	51,241	53,649
未払収益分配金	8,706	7,080
未払手数料	※2 2,315,345	※2 2,148,508
未払運用委託報酬	※2 1,728,950	※2 1,868,264
未払投資助言報酬	※2 828,040	※2 801,755
その他未払金	※2 4,619,477	※2 2,880,396
未払費用	※2 134,086	※2 122,649
未払法人税等	611,046	1,689,458
未払消費税等	349,108	321,144
賞与引当金	1,227,440	1,047,233
その他	93,579	46,054
流動負債合計	11,967,023	10,986,194

固定負債

退職給付引当金	2,423,289	2,402,314
役員退職慰労引当金	16,750	16,150
固定負債合計	2,440,039	2,418,464

負債合計

負債合計	14,407,063	13,404,658
------	------------	------------

純資産の部

株主資本

資本金	10,000,000	10,000,000
資本剰余金		
資本準備金	8,281,840	8,281,840
資本剰余金合計	8,281,840	8,281,840

利益剰余金

利益準備金	139,807	139,807
その他利益剰余金		
配当準備積立金	120,000	120,000
研究開発積立金	70,000	70,000
別途積立金	350,000	350,000
繰越利益剰余金	56,866,270	57,905,876
利益剰余金合計	57,546,077	58,585,683
株主資本合計	75,827,917	76,867,523

評価・換算差額等

その他有価証券評価差額金	348,871	△ 254,732
繰延ヘッジ損益	△ 192,067	△ 306,177
評価・換算差額等合計	156,803	△ 560,910

純資産合計

純資産合計	75,984,720	76,306,613
-------	------------	------------

負債・純資産合計

負債・純資産合計	90,391,783	89,711,272
----------	------------	------------

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	29,144,394	27,807,455
運用受託報酬	17,750,312	18,365,703
投資助言報酬	1,032,738	1,146,302
その他営業収益	-	4,497
営業収益計	47,927,445	47,323,959
営業費用		
支払手数料	11,524,989	10,826,133
広告宣伝費	62,919	34,423
公告費	125	125
調査費	8,730,925	9,426,129
支払運用委託報酬	3,825,413	3,994,350
支払投資助言報酬	3,083,142	3,279,321
委託調査費	125,430	143,143
調査費	1,696,938	2,009,314
委託計算費	277,534	278,897
営業雑経費	846,156	876,260
通信費	59,759	60,541
印刷費	173,841	166,600
協会費	38,262	37,646
その他営業雑経費	574,292	611,472
営業費用計	21,442,649	21,441,969
一般管理費		
役員報酬	150,830	114,167
給料・手当	4,699,931	5,179,604
賞与引当金繰入額	1,184,037	1,033,669
賞与	369,403	357,187
福利厚生費	925,165	988,302
退職給付費用	431,379	411,161
役員退職慰労引当金繰入額	8,950	5,850
役員退職慰労金	-	2,550
その他人件費	162,879	214,336
不動産賃借料	766,098	803,805
その他不動産経費	36,278	35,247
交際費	12,883	27,169
旅費交通費	17,654	133,750
固定資産減価償却費	552,239	663,401
租税公課	385,352	367,046
業務委託費	349,177	438,018
器具備品費	484,762	769,903
保険料	46,907	49,248
寄付金	5,126	10,762
諸経費	247,185	279,825
一般管理費計	10,836,244	11,885,008
営業利益	15,648,550	13,996,981
営業外収益		
受取利息	2,029	950
有価証券利息	3,452	15,666
受取配当金	※1 83,809	※1 191,353

為替差益	27,680	22,628
その他営業外収益	19,955	20,449
営業外収益計	136,927	251,049
営業外費用		
控除対象外消費税	20,188	5,712
その他営業外費用	404	314
営業外費用計	20,592	6,026
経常利益	15,764,885	14,242,004
特別利益		
投資有価証券売却益	18,927	97,919
投資有価証券償還益	510,138	45,181
特別利益計	529,065	143,100
特別損失		
投資有価証券売却損	7,280	73,703
投資有価証券償還損	50,697	71,887
固定資産除却損	※2 132	※2 1,757
事故損失賠償金	※3 9,883	※3 2,015
特別損失計	67,993	149,364
税引前当期純利益	16,225,956	14,235,739
法人税、住民税及び事業税	4,940,051	4,112,329
法人税等調整額	24,895	74,919
法人税等合計	4,964,946	4,187,249
当期純利益	11,261,009	10,048,489

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自2021年4月1日 至2022年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本									株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益準備 金	利益剰余金				利益剰余 金合計	
		資本準備 金	資本剰余 金合計		その他利益剰余金					
					配当準備 積立金	研究開発 積立金	別途積立 金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	10,000,000	8,281,840	8,281,840	139,807	120,000	70,000	350,000	55,045,550	55,725,357	74,007,197
当期変動額										
剰余金の配当	-	-	-	-	-	-	-	△9,440,289	△9,440,289	△9,440,289
当期純利益	-	-	-	-	-	-	-	11,261,009	11,261,009	11,261,009
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	1,820,719	1,820,719	1,820,719
当期末残高	10,000,000	8,281,840	8,281,840	139,807	120,000	70,000	350,000	56,866,270	57,546,077	75,827,917

	評価・換算差額等			純資産 合計
	その他有価 証券評価差 額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,242,655	△97,204	1,145,450	75,152,647
当期変動額				
剰余金の配当	-	-	-	△9,440,289
当期純利益	-	-	-	11,261,009
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	△893,783	△94,862	△988,646	△988,646
当期変動額合計	△893,783	△94,862	△988,646	832,073
当期末残高	348,871	△192,067	156,803	75,984,720

当事業年度(自2022年4月1日 至2023年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金		利益剰余金						株主資本 合計
		資本準備 金	資本剰余 金合計	利益準備 金	その他利益剰余金				利益剰余 金合計	
					配当準備 積立金	研究開発 積立金	別途積立 金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	10,000,000	8,281,840	8,281,840	139,807	120,000	70,000	350,000	56,866,270	57,546,077	75,827,917
当期変動額										
剰余金の配当	-	-	-	-	-	-	-	△9,008,883	△9,008,883	△9,008,883
当期純利益	-	-	-	-	-	-	-	10,048,489	10,048,489	10,048,489
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	1,039,606	1,039,606	1,039,606
当期末残高	10,000,000	8,281,840	8,281,840	139,807	120,000	70,000	350,000	57,905,876	58,585,683	76,867,523

	評価・換算差額等			純資産 合計
	その他有価 証券評価差 額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	348,871	△192,067	156,803	75,984,720
当期変動額				
剰余金の配当	-	-	-	△9,008,883
当期純利益	-	-	-	10,048,489
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)	△603,603	△114,109	△717,713	△717,713
当期変動額合計	△603,603	△114,109	△717,713	321,892
当期末残高	△254,732	△306,177	△560,910	76,306,613

注記事項

(重要な会計方針)

項目	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>① 満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）によっております。</p> <p>② その他有価証券 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。</p> <p>③ 関係会社株式 移動平均法に基づく原価法によっております。</p>
2. デリバティブ取引等の評価基準及び評価方法	<p>デリバティブ取引の評価は時価法によっております。</p>
3. 固定資産の減価償却の方法	<p>① 有形固定資産 定率法（ただし、2016年4月1日以後に取得した建物附属設備については定額法）によっております。なお、主な耐用年数は、建物附属設備3～18年、車両6年、器具備品2～20年であります。</p> <p>② 無形固定資産 定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p>
4. 引当金の計上基準	<p>① 賞与引当金 従業員への賞与の支給に充てるため、当期末在籍者に対する支給見込額のうち当期負担額を計上しております。</p> <p>② 退職給付引当金 従業員への退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。年俸制適用者の退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当該事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における年俸制適用者の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。</p> <p>年俸制非適用者は、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。なお、受入出向者については、退職給付負担金を出向元に支払っているため、退職給付引当金は計上しておりません。</p> <p>③ 役員退職慰労引当金 役員への退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p>
5. 収益及び費用の計上基準	<p>当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。</p> <p>①投資信託委託業務 投資信託委託業務においては、投資信託契約に基づき信託財産の運用指図等を行っております。 委託者報酬は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて日々計算され、確定した報酬を各契約で定められた運用期間経過後の一時点で個別に収受しております。当該報酬は、運用期間に</p>

	<p>わたり履行義務が充足されるため、履行義務を充足するにつれて一定の期間にわたり収益を認識しております。</p> <p>②投資運用業務 投資運用業務においては、投資一任契約に基づき、顧客資産を一任して運用指図等を行っております。 運用受託報酬は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて計算され、確定した報酬を各契約で定められた運用期間経過後の一時点で個別に収受しております。当該報酬は、運用期間にわたり履行義務が充足されるため、履行義務を充足するにつれて一定の期間にわたり収益を認識しております。また、成功報酬は、契約上定められる超過収益の達成等により報酬額及び支払われることが確定した時点で収益として認識しております。</p> <p>③投資助言業務 投資助言業務においては、投資助言契約に基づき、運用に関する投資判断の助言等を行っております。 投資助言報酬は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて計算され、確定した報酬を各契約で定められた運用期間経過後の一時点で個別に収受しております。当該報酬は、契約期間にわたり履行義務が充足されるため、履行義務を充足するにつれて一定の期間にわたり収益を認識しております。</p>
6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	<p>外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p>
7. ヘッジ会計の方法	<p>①ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。</p> <p>②ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下の通りであります。 ヘッジ手段・・・為替予約 ヘッジ対象・・・自己資金を投資している投資有価証券</p> <p>③ヘッジ方針 ヘッジ指定は、ヘッジ取引日、ヘッジ対象とリスクの種類、ヘッジ手段、ヘッジ割合、ヘッジを意図する期間について、原則として個々取引毎に行います。</p> <p>④ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジの有効性の判定については、リスク管理方針に基づき、主にヘッジ対象とヘッジ手段の時価変動を比較する比率分析によっております。</p>
8. グループ通算制度の適用	<p>当社は、日本生命保険相互会社を通算親会社とするグループ通算制度を適用しており、当制度を前提とした会計処理を行っております。</p>

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定基準適用指針」という。)を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計基準を将来にわたって適用することとしております。なお、財務諸表に与える影響はありません。

(未適用の会計基準等)

- ・「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)
- ・「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 2022年10月28日)
- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)

(1) 概要

その他の包括利益に対して課税される場合の法人税等の計上区分及びグループ法人税制が適用される場合の子会社株式等の売却に係る税効果の取扱いを定めるものです。

(2) 適用予定日

2025年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(貸借対照表関係)

※1. 有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
建物附属設備	329,011千円	340,233千円
車両	5,760	6,246
器具備品	494,576	516,937
計	829,348	863,417

※2. 前事業年度において、関係会社に対する負債として、未払手数料、未払運用委託報酬、未払投資助言報酬、その他未払金、未払費用に含まれるものの合計額は、負債及び純資産の合計額の100分の5を超えており、その金額は前事業年度および当事業年度においてそれぞれ5,317,615千円、2,706,850千円であります。

(損益計算書関係)

※1. 各科目に含まれている関係会社に対するものは、以下のとおりであります。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
受取配当金	42,069千円	174,180千円

※2. 固定資産除却損の内訳は以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)
器具備品	132	1,749
ソフトウェア	-	8
計	132	1,757

※3. 事故損失賠償金は、当社の事務処理誤り等により受託資産に生じた損失を当社が賠償したものであります。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自2021年4月1日 至2022年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数

	当事業年度期首 株式数 (千株)	当事業年度 増加株式数 (千株)	当事業年度 減少株式数 (千株)	当事業年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	108	—	—	108
合計	108	—	—	108

2. 配当に関する事項

①配当金支払額

2021年6月30日開催の定時株主総会決議による配当に関する事項

株式の種類	普通株式
配当金の総額	9,440,289千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	87,049円
基準日	2021年3月31日
効力発生日	2021年6月30日

当事業年度(自2022年4月1日 至2023年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数

	当事業年度期首 株式数 (千株)	当事業年度 増加株式数 (千株)	当事業年度 減少株式数 (千株)	当事業年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	108	—	—	108
合計	108	—	—	108

2. 配当に関する事項

①配当金支払額

2022年6月30日開催の定時株主総会決議による配当に関する事項

株式の種類	普通株式
配当金の総額	9,008,883千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	83,071円
基準日	2022年3月31日
効力発生日	2022年6月30日

②基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2023年6月26日開催の定時株主総会において、以下のとおり決議することを予定しております。

株式の種類	普通株式
配当金の総額	8,038,816千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	74,126円
基準日	2023年3月31日
効力発生日	2023年6月26日

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社は、自己勘定の資金運用にあたっては、資金運用規則に沿って、慎重な資金管理、資本金の保全、投機の回避に十分に留意しております。また、資金の管理にあたっては、投資信託委託会社としての業務により当社が受け入れる投資信託財産に属する金銭等との混同を来さないよう、分離して行っております。

投資有価証券は主として地方債と自社設定投資信託であります。これらは金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されております。自己資金運用に係るリスク管理等については、資金運用規則のほか資金運用リスク管理規程に従い、適切なリスク管理を図っております。

上記の自社設定投資信託の一部につきましてはデリバティブを用いてヘッジを行っております。デリバティブを用いたヘッジ取引につきましては、外貨建て資産の為替変動リスクを回避する目的で為替予約を使ってヘッジ会計を適用しております。ヘッジ会計の適用にあたっては、資金運用規則のほか資金運用リスク管理規程等に基づき、ヘッジ対象のリスクの種類及び選択したヘッジ手段を明確にし、また事前の有効性の確認、事後の有効性の検証を行う等、社内体制を整備して運用しております。ヘッジの有効性判定については資金運用リスク管理規程に基づき、主にヘッジ対象とヘッジ手段の時価変動を比較する比率分析によっております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、以下のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品または市場価格のない株式等（注1）は次表に含まれておりません。また、短期間で決済されるため時価が簿価に近似する金融商品は、注記を省略しております。

前事業年度（2022年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	17,319,017	17,308,937	△10,080
その他有価証券	19,610,019	19,610,019	—
資産計	36,929,036	36,918,956	△10,080
デリバティブ取引（※）			
ヘッジ会計が適用され ているもの	△73,870	△73,870	—
デリバティブ取引計	△73,870	△73,870	—

（※）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については△で示しております。

当事業年度（2023年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	23,445,768	23,460,731	14,962
その他有価証券	19,289,693	19,289,693	—
資産計	42,735,461	42,750,424	14,962
デリバティブ取引（※）			
ヘッジ会計が適用され ているもの	△24,321	△24,321	—
デリバティブ取引計	△24,321	△24,321	—

（※）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については△で示しております。

（注1）市場価格のない株式等

（単位：千円）

区分	前事業年度 (2022年3月31日)
関係会社株式	66,222

（単位：千円）

区分	当事業年度 (2023年3月31日)
関係会社株式	66,222

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって貸借対照表計上額とする金融商品

前事業年度（2022年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 其他有価証券	—	19,610,019	—	19,610,019
デリバティブ取引（※） 為替予約	—	△73,870	—	△73,870
合計	—	19,536,149	—	19,536,149

（※）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については△で示しております。

当事業年度（2023年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 其他有価証券	—	19,289,693	—	19,289,693
デリバティブ取引（※） 為替予約	—	△24,321	—	△24,321
合計	—	19,265,372	—	19,265,372

（※）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については△で示しております。

(2) 時価をもって貸借対照表計上額としない金融商品

前事業年度 (2022年3月31日)

区分	時価 (千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券 国債・地方債等	—	17,308,937	—	17,308,937
合計	—	17,308,937	—	17,308,937

当事業年度 (2023年3月31日)

区分	時価 (千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券 国債・地方債等	—	23,460,731	—	23,460,731
合計	—	23,460,731	—	23,460,731

(注) 時価の算定に用いた評価技法および時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

地方債は相場価格を用いて評価しております。当社が保有している地方債は、市場での取引頻度が低く、活発な市場における相場価格と認められないため、その時価をレベル2の時価に分類しております。

デリバティブ取引

為替予約の時価は、為替レート等の観察可能なインプットを用いて割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

4. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額
前事業年度(2022年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
①現金・預金	38,492,350	—	—	—
②有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
国債・地方債等	6,250,000	11,070,000	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの				
その他(注)	6,108,860	12,060,309	1,121,260	101,009
合計	50,851,210	23,130,309	1,121,260	101,009

(注) 投資信託受益証券であります。

当事業年度(2023年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
①現金・預金	31,522,565	—	—	—
②有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
国債・地方債等	5,100,000	18,340,000	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの				
その他(注)	3,029,947	15,086,454	997,574	175,716
合計	39,652,513	33,426,454	997,574	175,716

(注) 投資信託受益証券であります。

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前事業年度 (2022年3月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が貸借対照 表計上額を超え るもの	(1) 国債・地方債等	4,899,207	4,900,290	1,082
	(2) 社債	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	4,899,207	4,900,290	1,082
時価が貸借対照 表計上額を超え ないもの	(1) 国債・地方債等	12,419,810	12,408,647	△11,163
	(2) 社債	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	12,419,810	12,408,647	△11,163
合計		17,319,017	17,308,937	△10,080

当事業年度 (2023年3月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が貸借対照 表計上額を超え るもの	(1) 国債・地方債等	13,455,768	13,484,645	28,876
	(2) 社債	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	13,455,768	13,484,645	28,876
時価が貸借対照 表計上額を超え ないもの	(1) 国債・地方債等	9,990,000	9,976,086	△13,914
	(2) 社債	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	9,990,000	9,976,086	△13,914
合計		23,445,768	23,460,731	14,962

2. その他有価証券

前事業年度（2022年3月31日）

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価または 償却原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えるもの	(1) 株式	—	—	—
	(2) 債券	—	—	—
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他（注1）	10,012,022	9,238,000	774,022
	小計	10,012,022	9,238,000	774,022
貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えないもの	(1) 株式	—	—	—
	(2) 債券	—	—	—
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他（注1）	9,597,996	10,017,000	△419,003
	小計	9,597,996	10,017,000	△419,003
合計		19,610,019	19,255,000	355,019

（注1）投資信託受益証券等であります。

（注2）関係会社株式66,222千円は、市場価格がないことから、上表には記載しておりません。

当事業年度（2023年3月31日）

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価または 償却原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えるもの	(1) 株式	—	—	—
	(2) 債券	—	—	—
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他（注1）	6,778,610	6,336,999	441,610
	小計	6,778,610	6,336,999	441,610
貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えないもの	(1) 株式	—	—	—
	(2) 債券	—	—	—
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他（注1）	12,511,082	13,413,000	△901,917
	小計	12,511,082	13,413,000	△901,917
	合計	19,289,693	19,749,999	△460,306

（注1）投資信託受益証券等であります。

（注2）関係会社株式66,222千円は、市場価格がないことから、上表には記載しておりません。

3. 売却したその他有価証券

前事業年度（自2021年4月1日 至2022年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計（千円）	売却損の合計（千円）
(1) 株式	—	—	—
(2) 債券	—	—	—
(3) その他	72,646	18,927	7,280
合計	72,646	18,927	7,280

当事業年度（自2022年4月1日 至2023年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計（千円）	売却損の合計（千円）
(1) 株式	—	—	—
(2) 債券	—	—	—
(3) その他	325,215	97,919	73,703
合計	325,215	97,919	73,703

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前事業年度 (2022年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度 (2023年3月31日)

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前事業年度 (2022年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額等のうち1年超(千円)	時価(千円)
原則的処理方法	為替予約取引 米ドル売建	投資 有価証券	1,264,288	-	△73,870
合計			1,264,288	-	△73,870

(注1) 時価の算定方法 先物為替相場に基づき算定しております。

(注2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については△で示しております。

当事業年度 (2023年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額等のうち1年超(千円)	時価(千円)
原則的処理方法	為替予約取引 米ドル売建	投資 有価証券	1,129,663	-	△24,321
合計			1,129,663	-	△24,321

(注1) 時価の算定方法 先物為替相場に基づき算定しております。

(注2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については△で示しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度である退職一時金制度と確定拠出型年金制度を採用しております。退職一時金制度については、年俸制適用者及び年俸制非適用者を制度の対象としております。受入出向者については、退職給付負担金を支払っており、損益計算書上の退職給付費用には当該金額が含まれております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く）

	前事業年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,049,929 千円	2,324,488 千円
勤務費用	296,556	261,043
利息費用	5,724	7,886
数理計算上の差異の発生額	26,217	△51,020
退職給付の支払額	△58,809	△318,533
その他	4,869	2,382
退職給付債務の期末残高	2,324,488	2,226,246

(2) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)
退職給付引当金の期首残高	134,197 千円	147,543 千円
退職給付費用	19,557	18,835
退職給付の支払額	△1,342	△1,081
その他	△4,869	△2,382
退職給付引当金の期末残高	147,543	162,914

(3) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	2,472,031 千円	2,389,160 千円
未認識数理計算上の差異	△48,741	13,153
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,423,289	2,402,314
退職給付引当金	2,423,289	2,402,314
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,423,289	2,402,314

(4) 退職給付費用

	前事業年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)
簡便法で計算した退職給付費用	19,557 千円	18,835 千円
勤務費用	296,556	261,043
利息費用	5,724	7,886
数理計算上の差異の当期費用処理額	5,631	10,874
確定給付制度に係る退職給付費用	327,469	298,639

(5) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎 (加重平均で表しております。)

	前事業年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)
割引率	0.35 %	0.66 %

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度において68,995千円、当事業年度において75,867千円であり、退職給付費用に計上しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	375,842 千円	320,663 千円
未払事業税	134,561	113,779
退職給付引当金	742,011	735,588
税務上の繰延資産償却超過額	1,565	2,055
役員退職慰労引当金	5,128	4,945
投資有価証券評価差額	140,574	314,276
減価償却超過額	38,704	48,992
その他	128,909	180,561
小計	1,567,297	1,720,862
評価性引当額	△1,808	△12,818
繰延税金資産合計	1,565,488	1,708,043
繰延税金負債		
特別分配金否認	6,396	10,817
投資有価証券評価差額	145,949	96,919
繰延税金負債合計	152,345	107,737
繰延税金資産(△は負債)の純額	1,413,142	1,600,306

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳
法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、注記を省略しております。

3. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、当事業年度からグループ通算制度を適用しております。「グループ通算制度を適用する場合の会計処理および開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号2021年8月12日)に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

前事業年度（自2021年4月1日 至2022年3月31日）

1. サービスごとの情報

当社のサービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

当社は、本邦の外部顧客に対する営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称または氏名	営業収益
日本生命保険相互会社	6,500,632

当事業年度（自2022年4月1日 至2023年3月31日）

1. サービスごとの情報

当社のサービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

当社は、本邦の外部顧客に対する営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称または氏名	営業収益
日本生命保険相互会社	5,921,322

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

該当事項はありません。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は以下のとおりであります。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (自 2021年4月 1日 至2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月 1日 至2023年3月31日)
営業収益		
投資信託委託業務	29,144,394	27,807,455
投資運用業務 (注)	17,750,312	18,365,703
投資助言業務	1,032,738	1,146,302
その他営業収益	—	4,497
計	47,927,445	47,323,959

(注) 成功報酬は、損益計算書において運用受託報酬に含めて表示しております。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

(重要な会計方針)の「5. 収益及び費用の計上基準」に記載の通りでございます。

(関連当事者との取引)

1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る。)等
前事業年度(自2021年4月1日 至2022年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容	議決権等の被所有割合	関連当事者との関係		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
親会社	日本生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区	100,000	生命保険業	(被所有)直接100.00%	兼任有 出向有 転籍有	営業取引	運用受託報酬の受取	6,521,634	未収運用受託報酬	1,657,146
								投資助言報酬の受取	120,504	未収投資助言報酬	11,837
								連結納税に伴う支払	3,919,311	その他未払金	3,919,311

当事業年度(自2022年4月1日 至2023年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容	議決権等の被所有割合	関連当事者との関係		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
親会社	日本生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区	100,000	生命保険業	(被所有)直接100.00%	兼任有 出向有 転籍有	営業取引	運用受託報酬の受取	5,922,395	未収運用受託報酬	1,446,614
								投資助言報酬の受取	118,702	未収投資助言報酬	10,996
								グループ通算に伴う支払	2,065,951	その他未払金	2,065,951

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

取引条件は第三者との取引価格を参考に、協議の上決定しております。

2. 親会社に関する注記

親会社情報

日本生命保険相互会社(非上場)

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	700,655円80銭	703,623円97銭
1株当たり当期純利益金額	103,837円87銭	92,657円21銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)
当期純利益	11,261,009千円	10,048,489千円
普通株主に帰属しない金額	—	—
普通株式に係る当期純利益	11,261,009千円	10,048,489千円
期中平均株式数	108千株	108千株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4 【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- ① 自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます）。
- ② 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます）。
- ③ 通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下④⑤において同じ）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ）と有価証券の売買その他の取引又は金融デリバティブ取引を行うこと。
- ④ 委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- ⑤ 上記③④に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5 【その他】

① 定款の変更等

2023年3月23日に開催された臨時株主総会において、定款に関し以下の変更が決議されました。

<変更前>

(略)

(株主総会の招集及び議長)

第10条 株主総会は、社長が招集し、議長となる。社長に事故があるときは、取締役会において予め定めた順序により、他の取締役が株主総会を招集し、議長となる。

(略)

(役付取締役)

第19条 取締役会は、その決議によって、取締役の中から社長1名を選定する。

2. 取締役会は、前項のほか必要に応じて会長1名、副社長、専務取締役及び常務取締役各若干名を選定することができる。

(取締役会)

第20条 取締役会は、社長が招集し、その議長となる。

2. 社長に事故があるときは、取締役会において予め定めた順序により、他の取締役が取締役会を招集し、議長となる。

(略)

<変更後>

(略)

(株主総会の招集及び議長)

第10条 株主総会は、取締役社長が招集し、議長となる。取締役社長に事故があるときは、取締役会において予め定めた順序により、他の取締役が株主総会を招集し、議長となる。

(略)

(役付取締役)

- 第19条 取締役会は、その決議によって、取締役の中から取締役社長 1名を選定する。
2. 取締役会は、前項のほかに必要に応じて取締役会長 1名を選定することができる。

(取締役会)

- 第20条 取締役会は、取締役社長が招集し、その議長となる。
2. 取締役社長に事故があるときは、取締役会において予め定めた順序により、他の取締役が取締役会を招集し、議長となる。

(略)

② 訴訟その他の重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

追加型証券投資信託

DCニッセイバランスアクティブ

約 款

ニッセイアセットマネジメント株式会社

運用の基本方針

約款第23条に基づき、委託者の定める運用の基本方針は、次のものとします。

1. 基本方針

この投資信託は、確定拠出年金法（平成13年法律第88号）に基づく確定拠出年金制度向けのファンドとして、投資信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行うことを基本方針とします。

2. 運用方法

(1) 投資対象

下記の各親投資信託の受益証券を主要投資対象とします。

親投資信託 ニッセイ国内株式マザーファンド

親投資信託 ニッセイ国内債券マザーファンド

親投資信託 ニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンド

親投資信託 ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド

なお、直接株式、公社債等に投資を行う場合があります。

(2) 投資態度

① 主として上記各親投資信託の受益証券への投資を通じて、実質的に国内外の株式、公社債等に分散投資することにより、投資信託財産の中長期的な成長を目指します。

② 資産配分は、主にファンダメンタルズ分析、短中期の運用環境予測等に基づき機動的に変更します。

③ 上記親投資信託の受益証券の組入比率は原則として高位を保ちますが、市況動向等によっては直接国内外の株式、公社債等に投資を行う場合があります。

④ 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(3) 投資制限

① 株式への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の70%未満とします。

② 新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の20%以内とします。

③ 同一銘柄の株式への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以内とします。

④ 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以内とします。

⑤ 同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以内とします。

⑥ 投資信託証券への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以内とします。

⑦ 外貨建資産への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の50%以内とします。

⑧ 外国為替予約取引はヘッジ目的に限定しません。

⑨ デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

3. 収益分配方針

毎期、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- ① 分配対象額の範囲
経費控除後の利子・配当収入および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- ② 分配対象額についての分配方針
委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
- ③ 留保益の運用方針については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

追加型証券投資信託
DCニッセイバランスアクティブ
約 款

(信託の種類、委託者および受託者)

第1条 この信託は、証券投資信託であり、ニッセイアセットマネジメント株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者とします。

② この信託は、投資信託財産に属する財産についての対抗要件に関する事項を除き、信託法（大正11年法律第62号）（以下「信託法」といいます。）の適用を受けます。

(信託事務の委託)

第2条 受託者は、信託法第26条第1項に基づく信託事務の委任として、信託事務の処理の一部について、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第1条第1項の規定による信託業務の兼営の認可を受けた一の金融機関（受託者の利害関係人（金融機関の信託業務の兼営等に関する法律にて準用する信託業法第29条第2項第1号に規定する利害関係人をいいます。以下同じ。）を含みます。）と信託契約を締結し、これを委託することができます。

② 前項における利害関係人に対する業務の委託については、受益者の保護に支障を生じることがない場合に行うものとします。

(信託の目的および金額)

第3条 委託者は、金10,000,000円を受益者のために利殖の目的をもって信託し、受託者はこれを引き受けます。

(信託金の限度額)

第4条 委託者は、受託者と合意のうえ、金5,000億円を限度として信託金を追加することができます。

② 追加信託が行われたときは、受託者はその引き受けを証する書面を委託者に交付します。

③ 委託者は、受託者と合意のうえ、第1項の限度額を変更することができます。

(信託期間)

第5条 この信託の期間は、投資信託契約締結日から第55条第1項、第56条第1項、第57条第1項、または第59条第2項の規定による信託終了日または投資信託契約解約の日までとします。

(受益権の取得申込みの勧誘の種類)

第6条 この信託にかかる受益権の取得申込みの勧誘は、金融商品取引法第2条第3項第1号に掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第8項で定める公募により行われます。

② 受益権の取得申込みの勧誘は、確定拠出年金法（平成13年法律第88号）第8条第1項に規定される契約に基づいて受益権の取得申込みを企図する者および同法第55条に規定される規約に基づいて受益権の取得申込みを企図する同法第2条第5項に定める連合会（同法第61条に基づき連合会が事務を委託した者を含みます。）に対してのみ行うものとします。ただし、委託者または取扱販売会社（委託者の指定する金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行なう者および委託者の指定する金融商品取引法第2条第11項に規定する登録金融機関をいいます。以下同じ。）が取得する場合はこの限りではありません。

(当初の受益者)

第7条 この投資信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託者の指定する受益権取得申込者とし、第8条により分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

(受益権の分割および再分割)

第8条 委託者は、第3条の規定による受益権については、10,000,000口に、追加信託によって生じた受益権については、これを追加信託のつど第9条第1項の追加口数に、それぞれ均等に分割します。

- ② 委託者は、受益権の再分割を行いません。ただし、社債、株式等の振替に関する法律が施行された場合には、受託者と協議のうえ、同法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(追加信託の価額、口数および基準価額の計算方法)

第9条 追加信託金は、追加信託を行う日の前営業日の基準価額に、当該追加信託にかかる受益権の口数を乗じた額とします。

- ② この約款において基準価額とは、投資信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および第33条に規定する借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た投資信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、外貨建資産（外国通貨表示の有価証券（以下「外貨建有価証券」といいます。）、預金その他の資産をいいます。以下同じ。）の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。

- ③ 第35条に規定する予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

(信託日時の異なる受益権の内容)

第10条 この信託の受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生じることはありません。

(受益権の帰属と受益証券の不発行)

第11条 この信託の受益権は、平成19年1月4日より、社債等の振替に関する法律（政令で定める日以降「社債、株式等の振替に関する法律」となった場合は読み替えるものとし、「社債、株式等の振替に関する法律」を含め「社振法」といいます。以下同じ。）の規定の適用を受けることとし、同日以降に追加信託される受益権の帰属は、委託者があらかじめこの投資信託の受益権を取り扱うことについて同意した一の振替機関（社振法第2条に規定する「振替機関」をいい、以下「振替機関」といいます。）及び当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。

- ② 委託者は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

- ③ 委託者は、第8条の規定により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行なうものとします。振替機関等は、委託者から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行ないます。

- ④ 委託者は、受益者を代理してこの信託の受益権を振替受入簿に記載または記録を申請することができるものとし、原則としてこの信託の平成18年12月29日現在の全ての受益権（受益権につき、既に投資信託契約の一部解約が行なわれたもので、当該一部解約にかかる一部解約金の支払開始日が平成19年1月4日以降となるものを含みます。）を受益者を代理して平成19年1月4日に振替受入簿に記載または記録するよう申請します。ただし、保護預かりではない受益証券に係る受益権については、信託期間中において委託者が受益証券を確認した後当該申請を行なうものとします。振替受入簿に記載または記録された受益権にかかる受益証券（当該記載または記録以降に到来する

計算期間の末日にかかる収益分配金交付票を含みます。)は無効となり、当該記載または記録により振替受益権となります。また、委託者は、受益者を代理してこの信託の受益権を振替受入簿に記載または記録を申請する場合において、取扱販売会社に当該申請の手続きを委任することができます。

(受益権の設定に係る受託者の通知)

第12条 受託者は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

(受益権の申込単位、価額および手数料等)

第13条 取扱販売会社は、第8条第1項の規定により分割される受益権を、その取得申込者に対し、1口の整数倍をもって売却します。

- ② 前項の取得申込者は取扱販売会社に、取得申込と同時にまたは予め、自己のために開設されたこの信託の受益権の振替を行なうための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行なわれます。なお、取扱販売会社は、当該取得申込の代金(第3項の受益権の価額に当該取得申込の口数を乗じて得た額をいいます。)の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行なうことができます。
- ③ 第1項の受益権の価額は、取得申込日の翌営業日の基準価額に、次項に規定する手数料および当該手数料にかかる消費税および地方消費税(以下「消費税等」といいます。)に相当する金額を加算した価額とします。ただし、第3条の規定による受益権の価額は、1口につき1円とします。
- ④ 前項の手数料の額は取得申込日の翌営業日の基準価額に取扱販売会社がそれぞれ別に定める率を乗じて得た額とします。
- ⑤ 別に定める「DCニッセイバランスアクティブ自動けいぞく(累積)投資約款」にしたがって契約(以下「別に定める契約」といいます。)を結んだ取得申込者が、第52条第2項の規定に基づいて収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、原則として第46条に規定する各計算期間終了日の基準価額とします。
- ⑥ 前各項の規定にかかわらず、委託者は、証券取引所(金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場を「取引所」といい、取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行なう市場および当該市場を開設するものを「証券取引所」といいます。以下同じ。)における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、受益権の取得申込の受付を中止することおよび既に受付けた取得申込の受付を取り消すことができます。

(受益証券の種類)

第14条 (削除)

(受益権の譲渡に係る記載または記録)

第15条 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

- ② 前項の申請のある場合には、前項の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前項の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。
- ③ 委託者は、第1項に規定する振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむをえない事情があると判断したときは、

振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(受益権の譲渡の対抗要件)

第16条 受益権の譲渡は、前条の規定による振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

(無記名式の受益証券の再交付)

第17条 (削除)

(記名式の受益証券の再交付)

第18条 (削除)

(受益証券を毀損した場合等の再交付)

第19条 (削除)

(受益証券の再交付の費用)

第20条 (削除)

(投資の対象とする資産の種類)

第21条 この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）
 - イ. 有価証券
 - ロ. デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第28条、第29条および第30条に定めるものに限りません。）
 - ハ. 金銭債権（イ及びニに掲げるものに該当するものを除きます。）
 - ニ. 約束手形（イに掲げるものを除きます。）
2. 次に掲げる特定資産以外の資産
 - イ. 為替手形

(運用の指図範囲等)

第22条 委託者は、信託金を、主としてニッセイアセットマネジメント株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者として締結された第1号から第4号までの親投資信託（以下、「マザーファンド」といいます。）の受益証券のほか、次の第5号から第26号までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

1. ニッセイ国内株式マザーファンド
2. ニッセイ国内債券マザーファンド
3. ニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンド
4. ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド
5. 株券または新株引受権証券
6. 国債証券
7. 地方債証券
8. 特別の法律により法人の発行する債券
9. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
10. 特定目的会社に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
11. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
12. 協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）

います。)

13. 特定目的会社に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
 14. コマーシャル・ペーパー
 15. 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
 16. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、第5号から第15号までの証券または証書の性質を有するもの
 17. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
 18. 投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
 19. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
 20. オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限りません。）
 21. 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
 22. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
 23. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りません。）
 24. 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
 25. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
 26. 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの
なお、第5号の証券または証書、第16号および第21号の証券または証書のうち第5号の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第6号から第10号までの証券ならびに第16号および第21号の証券または証書のうち第6号から第10号までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、第17号および第18号の証券を以下「投資信託証券」といいます。
- ② 委託者は、信託金を、前項に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。以下本条において同じ。）により運用することを指図することができます。
1. 預金
 2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
 3. コール・ローン
 4. 手形割引市場において売買される手形
 5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
 6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの
- ③ 第1項の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は、信託金を前項第1号から第4号までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。
- ④ 委託者は、投資信託財産に属する株式の時価総額とマザーファンドの投資信託財産に属する株式の時価総額のうち投資信託財産に属するとみなした額との合計額が、投資信託財産の純資産総額の100分の70以上となる投資の指図をしません。ただし、有価証券の値上がり等により100分の70以上となった場合には、速やかにこれを調整します。
- ⑤ 委託者は、投資信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの投資信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち投資信託財

産に属するとみなした額との合計額が、投資信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

- ⑥ 委託者は、投資信託財産に属する投資信託証券の時価総額とマザーファンドの投資信託財産に属する投資信託証券の時価総額のうち投資信託財産に属するとみなした額との合計額が、投資信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。
- ⑦ 委託者は、投資信託財産に属する外貨建資産の時価総額とマザーファンドの投資信託財産に属する外貨建資産の時価総額のうち投資信託財産に属するとみなした額との合計額が、投資信託財産の純資産総額の100分の50を超えることとなる投資の指図をしません。ただし、有価証券の値上がり等により100分の50を超えることとなった場合には、速やかにこれを調整します。
- ⑧ 前4項において投資信託財産に属するとみなした額とは、投資信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの投資信託財産の純資産総額に占める当該株式、当該新株引受権証券、当該新株予約権証券、当該投資信託証券および当該外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。
- ⑨ デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。
- ⑩ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの投資信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい、当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

(受託者の自己または利害関係人等との取引)

第22条の2 受託者は、受益者の保護に支障を生じることがないものであり、かつ信託業法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、委託者の指図により、受託者および受託者の利害関係人、第36条第1項に定める信託業務の委託先およびその利害関係人または受託者における他の信託財産との間で、第21条および第22条第1項に定める資産への投資を、信託業法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関係法令に反しない限り行うことができます。

- ② 前項の取扱いは、第27条から第31条まで、第35条、第41条、第42条および第43条における委託者の指図による取引についても同様とします。

(運用の基本方針)

第23条 委託者は、投資信託財産の運用にあたっては、別に定める運用の基本方針にしたがって、その指図を行います。

(投資する株式等の範囲)

第24条 委託者が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、証券取引所に上場されている株式の発行会社の発行するもの、証券取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。

- ② 前項の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託者が投資することを指図することができるものとします。

(同一銘柄の株式等への投資制限)

第25条 委託者は、投資信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額とマザーファンドの投資信託財産に属する当該株式の時価総額のうち投資信託財産に属するとみなした額との合計額が、投資信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

- ② 委託者は、投資信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額と

マザーファンドの投資信託財産に属する当該新株引受権証券および当該新株予約権証券の時価総額のうち投資信託財産に属するとみなした額との合計額が、投資信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

- ③ 前2項においてマザーファンドの投資信託財産に属する当該株式の時価総額のうち投資信託財産に属するとみなした額とは、投資信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの投資信託財産純資産総額に占める当該株式の時価総額の割合を乗じて得た額をいい、マザーファンドの投資信託財産に属する当該新株引受権証券および当該新株予約権証券の時価総額のうち投資信託財産に属するとみなした額とは、投資信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの投資信託財産純資産総額に占める当該新株引受権証券および当該新株予約権証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

(同一銘柄の転換社債等への投資制限)

第26条 委託者は、投資信託財産に属する同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。)の時価総額とマザーファンドの投資信託財産に属する当該転換社債ならびに当該転換社債型新株予約権付社債の時価総額のうち投資信託財産に属するとみなした額との合計額が、投資信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

- ② 前項において投資信託財産に属するとみなした額とは、投資信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの投資信託財産純資産総額に占める当該転換社債ならびに当該転換社債型新株予約権付社債の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

(信用取引の指図範囲)

第27条 委託者は、投資信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引き渡しまたは買い戻しにより行うことの指図をすることができますものとしします。

- ② 前項の信用取引の指図は、当該売付けにかかる建玉の時価総額が投資信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- ③ 投資信託財産の一部解約等の事由により、前項の売付けにかかる建玉の時価総額が投資信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は、速やかにその超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとしします。

(先物取引等の運用指図)

第28条 委託者は、わが国の証券取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。以下同じ。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。以下同じ。)および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。以下同じ。)ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとしします(以下同じ。)

- ② 委託者は、わが国の取引所における通貨にかかる先物取引ならびに外国の取引所における通貨にかかる先物取引および先物オプション取引を行うことの指図をすることができます。
- ③ 委託者は、わが国の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

(スワップ取引の運用指図)

第29条 委託者は、投資信託財産に属する資産の効率的な運用ならびに価格変動リスクおよび為替変動リ

スクを回避するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。

- ② スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として第5条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- ③ スワップ取引の指図にあたっては、当該投資信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額とマザーファンドの投資信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額のうち投資信託財産に属するとみなした額との合計額（以下「スワップ取引の想定元本の合計額」といいます。以下本項において同じ。）が、投資信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、投資信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が投資信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は、速やかにその超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。
- ④ 前項においてマザーファンドの投資信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額のうち投資信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの投資信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額にマザーファンドの投資信託財産の純資産総額に占める投資信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。
- ⑤ スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- ⑥ 委託者は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受け入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受け入れの指図を行うものとします。

（金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図）

第30条 委託者は、投資信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。

- ② 金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として第5条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- ③ 金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- ④ 委託者は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受け入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受け入れの指図を行うものとします。

（有価証券の貸付の指図および範囲）

第31条 委託者は、投資信託財産の効率的な運用に資するため、投資信託財産に属する株式および公社債を次の各号の範囲内で貸付けることの指図をすることができます。

1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、投資信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
 2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、投資信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。
- ② 前項に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は、速やかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
 - ③ 委託者は、有価証券の貸付にあたって必要と認めたときは、担保の受け入れの指図を行うものとします。

（公社債の空売りの指図範囲）

第32条 委託者は、投資信託財産の効率的な運用に資するため、投資信託財産の計算においてする投資信

託財産に属さない公社債を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、公社債（投資信託財産により借入れた公社債を含みます。）の引き渡しまたは買い戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。

- ② 前項の売付けの指図は、当該売付けにかかる公社債の時価総額が投資信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- ③ 投資信託財産の一部解約等の事由により、前項の売付けにかかる公社債の時価総額が投資信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は、速やかにその超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

（公社債の借入れ）

第33条 委託者は、投資信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図をするものとします。

- ② 前項の指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が投資信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- ③ 投資信託財産の一部解約等の事由により、前項の借入れにかかる公社債の時価総額が投資信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は、速やかにその超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
- ④ 第1項の借入れにかかる品借料は投資信託財産中から支弁します。

（特別の場合の外貨建有価証券への投資制限）

第34条 外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

（外国為替予約取引の指図および範囲）

第35条 委託者は、投資信託財産の効率的な運用に資するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。

- ② 前項の予約取引の指図は、投資信託財産にかかる為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、投資信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、投資信託財産に属する外貨建資産の為替変動リスクを回避するためにする当該取引の指図については、この限りではありません。
- ③ 前項の限度額を超えることとなった場合には、委託者は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

（信託業務の委託等）

第36条 受託者は、委託者と協議のうえ、信託業務の一部について、信託業法第22条第1項に定める信託業務の委託をするときは、以下に掲げる基準のすべてに適合するもの（受託者の利害関係人を含みます。）を委託先として選定します。

1. 委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと
 2. 委託先の委託業務に係る実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること
 3. 委託される投資信託財産に属する財産と自己の固有財産その他の財産とを区分する等の管理を行なう体制が整備されていること
 4. 内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること
- ② 受託者は、前項に定める委託先の選定にあたっては、当該委託先が前項各号に掲げる基準に適合していることを確認するものとします。
 - ③ 前2項にかかわらず、受託者は、次の各号に掲げる業務（裁量性のないものに限ります。）を、受託者および委託者が適当と認める者（受託者の利害関係人を含みます。）に委託することができます。

るものとします。

1. 投資信託財産の保存に係る業務
2. 投資信託財産の性質を変えない範囲内において、その利用または改良を目的とする業務
3. 委託者のみの指図により投資信託財産の処分およびその他の信託の目的の達成のために必要な行為に係る業務
4. 受託者が行なう業務の遂行にとって補助的な機能を有する行為

(有価証券の保管)

第37条 (削除)

(混蔵寄託)

第38条 金融機関または証券会社（金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行なう者および外国の法令に準拠して設立された法人でこの者に類する者をいいます。以下本条において同じ。）から、売買代金および償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行された譲渡性預金証書またはコマーシャル・ペーパーは、当該金融機関または証券会社が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または証券会社の名義で混蔵寄託できるものとします。

(一括登録)

第39条 (削除)

(投資信託財産の登記等および記載等の留保等)

第40条 信託の登記または登録をすることができる投資信託財産については、信託の登記または登録をすることとします。ただし、受託者が認める場合は、信託の登記または登録を留保することがあります。

- ② 前項ただし書きにかかわらず、受益者保護のために委託者または受託者が必要と認めるときは、速やかに登記または登録をするものとします。
- ③ 投資信託財産に属する旨の記載または記録をすることができる投資信託財産については、投資信託財産に属する旨の記載または記録をするとともに、その計算を明らかにする方法により分別して管理するものとします。ただし、受託者が認める場合は、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。
- ④ 動産（金銭を除きます。）については、外形上区別することができる方法によるほか、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

(一部解約の請求ならびに有価証券売却等の指図)

第41条 委託者は、投資信託財産に属するマザーファンドの受益証券にかかる投資信託契約の一部解約の請求ならびに投資信託財産に属する有価証券の売却等の指図ができます。

(再投資の指図)

第42条 委託者は、前条の規定による一部解約代金および売却代金、有価証券にかかる償還金等、株式の清算分配金、有価証券等にかかる利子等、株式の配当金およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

(資金の借入れ)

第43条 委託者は、投資信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

- ② 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始

日から投資信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は借入指図を行う日における投資信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。

- ③ 収益分配金の再投資にかかる借入期間は投資信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- ④ 借入金の利息は投資信託財産中より支弁します。

(損益の帰属)

第44条 委託者の指図に基づく行為により投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

(受託者による資金の立替え)

第45条 投資信託財産に属する有価証券について、借替え、転換、新株発行または株式割当がある場合で、委託者の申し出があるときは、受託者は資金の立替えをすることができます。

- ② 投資信託財産に属する有価証券にかかる償還金等、株式の清算分配金、有価証券等にかかる利子等、株式の配当金およびその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積りうるものがあるときは、受託者がこれを立替えて投資信託財産に繰り入れることができます。
- ③ 前2項の立替金の決済および利息については、受託者と委託者との協議によりそのつど別にこれを定めます。

(信託の計算期間)

第46条 この信託の計算期間は、原則として毎年3月21日から9月20日、9月21日から翌年3月20日までとします。ただし、第1計算期間は、平成13年11月30日から平成14年3月20日までとします。

- ② 前項にかかわらず、前項の原則により各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、第5条に規定する信託期間の終了日とします。

(投資信託財産に関する報告)

第47条 受託者は、毎計算期末に損益計算を行い、投資信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

- ② 受託者は、信託終了のときに最終計算を行い、投資信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

(信託事務の諸費用および会計監査費用)

第48条 投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託者の立替えた立替金の利息（以下「諸経費」といいます。）は、受益者の負担とし、投資信託財産中から支弁します。

- ② 投資信託財産にかかる会計監査費用および当該会計監査費用にかかる消費税等に相当する金額は、受益者の負担とし、投資信託財産中から支弁します。

(信託報酬等の総額および支弁の方法)

第49条 委託者および受託者の信託報酬の総額は、第46条に規定する計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に年10,000分の130の率を乗じて得た金額とし、委託者と受託者との間の配分は別に定めます。

- ② 前項の信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき投資信託財産中から支弁するものとします。
- ③ 第1項の信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を、信託報酬支弁のときに投資信託財産中から支弁します。

- ④ 委託者は、第 22 条第 1 項第 3 号に規定する「ニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンド」および同項第 4 号に規定する「ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド」の運用の指図に関する権限の委託を受けた者が受ける報酬を、第 1 項に基づいて委託者が受ける報酬から上記各マザーファンドの毎計算期末または投資一任契約終了時に支弁するものとし、その報酬額は当該計算期間を通じて毎日、投資信託財産に属する「ニッセイ／パトナム・海外株式マザーファンド」の時価総額に年 10,000 分の 46 の率を乗じて得た金額、および「ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド」の時価総額に年 10,000 分の 36 の率を乗じて得た金額とします。

(収益の分配方式)

第50条 投資信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

1. 配当金、利子、貸付有価証券にかかる品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額（以下「配当等収益」といいます。）は、諸経費、投資信託財産にかかる会計監査費用（消費税等を含みます。）、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
2. 売買損益に評価損益を加減した利益金額（以下「売買益」といいます。）は、諸経費、投資信託財産にかかる会計監査費用（消費税等を含みます。）、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。

- ② 毎計算期末において、投資信託財産につき生じた損失は、次期に繰越します。

(収益分配金、償還金および一部解約金の払い込みと支払いに関する受託者の免責)

第51条 受託者は、収益分配金については第52条第 1 項に規定する支払開始日および第 52 条第 2 項に規定する交付開始前までに、償還金（信託終了時における投資信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額をいいます。以下同じ。）については第52条第 3 項に規定する支払開始日までに、一部解約金については第52条第 4 項に規定する支払開始日までに、その全額を委託者の指定する預金口座等に払い込みます。

- ② 受託者は、前項の規定により委託者の指定する預金口座等に収益分配金、償還金および一部解約金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

(収益分配金、償還金および一部解約金の支払い)

第52条 収益分配金は、毎計算期間終了日後 1 ヶ月以内の委託者の指定する日から、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため取扱販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）に支払います。なお、平成 19 年 1 月 4 日以降においても、第 53 条に規定する時効前の収益分配金にかかる収益分配金交付票は、なおその効力を有するものとし、当該収益分配金交付票と引き換えに受益者に支払います。

- ② 前項の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託者が委託者の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が取扱販売会社に交付されます。この場合、取扱販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付けを行います。当該売付けにより増加した受益権は、第 11 条第 3 項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。

- ③ 償還金は、信託終了日後 1 ヶ月以内の委託者の指定する日から、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行なわれた

受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため取扱販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託者がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行なうものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行なわれます。また、受益証券を保有している受益者に対しては、償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から受益証券と引き換えに当該受益者に支払います。

- ④ 一部解約金は、第54条第1項の受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として、5営業日目から当該受益者に支払います。
- ⑤ 前各項(第2項を除く。)に規定する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、取扱販売会社の営業所等において行うものとし、
- ⑥ 収益分配金、償還金および一部解約金にかかる収益調整金は、原則として、各受益者毎の信託時の受益権の価額等に応じて計算されるものとし、

(収益分配金および償還金の時効)

第53条 受益者が、収益分配金については第52条第1項に規定する支払開始日から5年間その支払いを請求しないときならびに信託終了による償還金については第52条第3項に規定する支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

(一部解約)

第54条 受益者(取扱販売会社を含みます。)は、自己に帰属する受益権につき、委託者に1口単位をもって一部解約の実行を請求することができます。

- ② 委託者は、前項の一部解約の実行の請求を受付けた場合には、投資信託契約の一部を解約します。なお、前項の一部解約の実行の請求を行なう受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの投資信託契約の一部解約を委託者が行なうのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行なうものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行なわれます。
- ③ 前項の一部解約の価額は、一部解約請求受付日の翌営業日の基準価額とします。
- ④ 平成19年1月4日以降の投資信託契約の一部解約に係る一部解約の実行の請求を受益者がするときは、取扱販売会社に対し、振替受益権をもって行なうものとし、ただし、平成19年1月4日以降に一部解約金が受益者に支払われることとなる一部解約の実行の請求で、平成19年1月4日以前に行なわれる当該請求については、振替受益権となることが確実な受益証券をもって行なうものとし、
- ⑤ 委託者は、証券取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、第1項による一部解約の実行の請求の受け付けを中止することができます。
- ⑥ 前項により一部解約の実行の請求の受け付けが中止された場合には、受益者は当該受け付け中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受け付け中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして、第3項の規定に準じて算出した価額とします。

(質権口記載又は記録の受益権の取り扱い)

第54条の2 振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受け付け、一部解約金および償還金の支払い等については、この約款によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

(投資信託契約の解約)

第55条 委託者は、信託期間中において、この投資信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者はあらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

- ② 委託者は、前項の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの投資信託契約にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託契約にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- ③ 前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- ④ 前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、第1項の投資信託契約の解約をしません。
- ⑤ 委託者は、この投資信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- ⑥ 第3項から前項までの規定は、投資信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、第3項の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

(投資信託契約に関する監督官庁の命令)

第56条 委託者は、監督官庁よりこの投資信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、投資信託契約を解約し信託を終了させます。

- ② 委託者は監督官庁の命令に基づいてこの投資信託約款を変更しようとするときは、第60条の規定にしたがいます。

(委託者の登録取消等に伴う取扱い)

第57条 委託者が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

- ② 前項の規定にかかわらず、監督官庁が、この投資信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第60条第4項に該当する場合を除き、当該投資信託委託会社と受託者との間において存続します。

(委託者の事業の譲渡および承継に伴う取扱い)

第58条 委託者は、事業の全部又は一部を譲渡することがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

- ② 委託者は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を承継させることがあります。

(受託者の辞任および解任に伴う取扱い)

第59条 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託者がその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を請求することができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は第60条の規定にしたがい、新受託者を選任します。

- ② 委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

(投資信託約款の変更)

第60条 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この投資信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しよう

とする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

- ② 委託者は、前項の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの投資信託約款にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託約款にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- ③ 前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- ④ 前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権総口数の二分の一を超えるときは、第1項の投資信託約款の変更をしません。
- ⑤ 委託者は、当該投資信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

(反対者の買取請求権)

第61条 第55条に規定する投資信託契約の解約または前条に規定する投資信託約款の変更を行う場合において、第55条第3項または前条第3項の一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己に帰属する受益権を投資信託財産をもって買取すべき旨を請求することができます。

- ② 前項の買取請求の取扱いについては、委託者、受託者および取扱販売会社の協議により決定するものとします。

(運用報告書に記載すべき事項の提供)

第61条の2 委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書の交付に代えて、当該運用報告書に記載すべき事項を電磁的方法により提供することとし、次のアドレスに掲載します。

<http://www.nam.co.jp/>

- ② 前項の規定にかかわらず、委託者は、受益者から運用報告書の交付の請求があった場合には、これを交付するものとします。

(公告)

第62条 委託者が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<http://www.nam.co.jp/>

- ② 前項の電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

(投資信託約款に関する疑義の取扱い)

第63条 この投資信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託者と受託者との協議により定めます。

附則第1条 約款第13条第5項の「DCニッセイバランスアクティブ自動けいぞく（累積）投資約款」とは、この信託について受益権取得申込者と取扱販売会社が締結する「DCニッセイバランスアクティブ自動けいぞく（累積）投資約款」と別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含むものとします。この場合「DCニッセイバランスアクティブ自動けいぞく（累積）投資約款」は当該別の名称で読み替えるものとします。

附則第2条 第52条第6項に規定する「収益調整金」は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、各受益者毎の信託時の受益権の価額と元本との差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。また、同条同項に規定する「各受益者毎の信託時の受益権の価額等」とは、原則として、各受益者毎の信託時の

受益権の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとしします。

附則第3条 平成18年12月29日現在の投資信託約款第11条、第12条、第14条から第20条の規定および受益権と読み替えられた受益証券に関する規定は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合には、なおその効力を有するものとしします。

附則第4条 第30条に規定する「金利先渡取引」は、当事者間において、あらかじめ将来の特定の日（以下「決済日」といいます。）における決済日から一定の期間を経過した日（以下「満期日」といいます。）までの期間に係る国内または海外において代表的利率として公表される預金契約または金銭の貸借契約に基づく債権の利率（以下「指標利率」といいます。）の数値を取り決め、その取り決めに係る数値と決済日における当該指標利率の現実の数値との差にあらかじめ元本として定めた金額および当事者間で約定した日数を基準とした数値を乗じた額を決済日における当該指標利率の現実の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。

② 第30条に規定する「為替先渡取引」は、当事者間において、あらかじめ決済日から満期日までの期間に係る為替スワップ取引（同一の相手方との間で直物外国為替取引および当該直物外国為替取引と反対売買の関係に立つ先物外国為替取引を同時に約定する取引をいいます。以下本条において同じ。）のスワップ幅（当該直物外国為替取引に係る外国為替相場と当該先物外国為替取引に係る外国為替相場との差を示す数値をいいます。以下本条において同じ。）を取り決め、その取り決めに係るスワップ幅から決済日における当該為替スワップ取引の現実のスワップ幅を差し引いた値にあらかじめ元本として定めた金額を乗じた額を決済日における指標利率の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭またはその取り決めに係るスワップ幅から決済日における当該為替スワップ取引の現実のスワップ幅を差し引いた値にあらかじめ元本として定めた金額を乗じた金額とあらかじめ元本として定めた金額について決済日を受渡日として行なった先物外国為替取引を決済日における直物外国為替取引で反対売買したときの差金に係る決済日から満期日までの利息とを合算した額を決済日における指標利率の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。

上記条項により投資信託契約を締結します。

平成13年11月30日（投資信託約款締結日）

委託者
東京都千代田区大手町一丁目8番1号
ニッセイアセットマネジメント株式会社
取締役社長 山田 昌弘

受託者
東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
東洋信託銀行株式会社
取締役社長 横須賀 俊六